（一）　明治三十年五月五日　第五十七號
郵便信用省認可（明治廿八年六月一日）

東京小間物商報

八王子町大火災に付義捐募集廣告（締切延期）

去月二十二日午後府下南多摩郡八王子に大火災あり燒失戸數殆ど三千餘めに老幼男女の死傷亦算なきの慘狀を呈せり或は僥倖にして僅に身命を全ふせしも居るに家なく食するに物なく其不幸實に酸鼻の外なきのみ依つて我商報ハ此不幸窮民の爲め金品を募集して以て聊か救恤の資に充んと欲す希くハ全國慈善家諸君よ奮て御贊助を賜らん事を

一　義捐金ハ拾錢以上とし物品は其種類と多少を問はず

一　義捐金及物品の受附所は日本橋區馬喰町一丁目平尾贊平方とせ

一　義捐の金額物品及義捐者の姓名は當小間物商報紙上を以て報告す

一　義捐募集期限ハ本月十五日限りとす

明治三十年五月五日

東京小間物商報

八王子火災義捐者報告（第一回）

一金拾圓　日本橋區馬喰町一丁目　平尾贊平

一金五圓　同區同町二丁目　花王石鹸本舗　長瀨富郎

一金五圓　同區橘町四丁目　丸見屋善兵衛

一金參圓　同區横山町二丁目　田中花王堂

一金參圓　同區同町一丁目　佐野善術

一金參圓　同區馬喰町一丁目　萬屋金五郎

一金貳圓　同區横山町二丁目　鶴田盛眞堂

一金壹圓　岩代須賀町　井上宇兵衛

一金壹圓　神田區臺所町　藤井總右衛門

一金壹圓　日本橋區横山町二丁目　森本支店

一金壹圓　同區同町一丁目　尾張屋廣吉

一金壹圓　本所區千歳町　西田三藏

一金壹圓　日本橋區濱町一丁目　平尾銃也

一金壹圓　同區横山町一丁目　菅田次吉

一金壹圓　淺草區新森田町　榊ふよしの園

一金壹圓　同區須賀町　西森武城

一金壹圓　日本橋區若松町　村上供太郎

一金五十錢　同區鈴物町七番地　板倉孝

一金五十錢　同區濱町二丁目　久我兼吉

一金五十錢　武州深谷町　藤井勇次郎

一金五十錢　上州高崎田町　杉山德太郎

一金五十錢　日本橋區濱町二丁目　前田定次郎

一金五十錢　同區本石町一丁目　並木長次郎

一金五十錢　上總東金　鶴屋茂三郎

一金壹圓　平尾銃平店員幷に製造場中　淺井國太郎　勝浦直太郎　山本熊吉　伊藤宗吉　平尾清治　黑田廷三　鳥飼光三　岩野榮次郎　松田勘助　前田利一　片野喜三郎　山口瀨信一　坂井春三郎　深澤金治　寺田須平　宇田川長次郎　小林和三郎　小林熊次郎　板倉隆太郎　平尾良二郎　平尾圭二

一金貳十錢　小石川區傳差町六番地　有澤清八郎

一金貳十錢　芝區櫻川町　山本善三郎

一金貳十錢　山形市旅籠町勘工場内　福嶋屋清吉

一金貳十錢　同　大沼卯之吉

一金貳十錢　同　田中寅之助

一金貳十錢　同　長崎屋吉內

一金貳十錢　同　遠藤平四郎

一金貳十錢　同　齋藤彌總次支店

一金拾錢　同　小林よし

一金拾錢　同　佐々木爲助

一金拾錢　同　富岡善助

一金拾錢　同　齊藤榮太郎

一金拾錢　同　小林龜吉

一金拾錢　同　大瀧喜三郎

一金拾錢　同　松田產兵衛

一金拾錢　同　舛場ふち

一金拾錢　田中花王堂扱分　野州栃木町　杉江龜松

一金五十錢　同　同町　菊屋秀平

一金參十錢　同　同町　鶴屋德太郎

一金參十錢　同　同町　鶴屋茂三郎

（以上二十七人標）

東京小間物卸商組合事務所

金五十錢　野州栃木町　鮏津屋　菊五郎
金五十錢　同　同町　近藤龜次郎
金參十錢　同　佐野町　板橋甲一
金壹十錢　同　同町　吉田屋龜吉
金壹圓　同　同町　中野市十郎
金五十錢　同　同町　齊藤道太郎
金壹圓　同　同町　土佐屋　清次郎
金五十錢　同　同町　店員　飯塚熊吉
金拾錢　同　同町　小田切藥舗　篠原仙之助
金五十錢　同　同町　井上長太郎
金拾錢　同　足利町　くしや　文次郎
金五十錢　上州桐生町　福田儀平
金五十錢　同　伊勢崎町　星野清次郎
金五十錢　同　同町　松屋留吉
金壹圓　同　同町　松葉屋　友五郎
金五十錢　同市堅町　中屋喜三郎
金壹圓　同市同町　河内屋　文五郎
金五十錢　同市同町　津の國屋慶助
金五十錢　同市細ヶ澤町　江戸屋　直次郎
金五十錢　同市同町　藤井久二郎
金五十錢　同市立川町　丸屋清吉
金五十錢　上州高崎田町　伊勢田半九郎
金五十錢　東京　刻　商店員　東條德三郎
金五十錢　神田區神保町　花菱仙太郎

計金六拾參圓

雜報

◎傳染病豫防法（四月廿三日公布　紀元二千六百一十一年前）

第十六條　此の法律若は此の法律に基きて發する命令に依り清潔方法、消毒方法を施行すべき義務者之を施行せず又は當該吏員にして充分なりと認むるとき及必要の時限内に施行し得ずと認むるとき當該吏員を施行し其費用は市町村をして支弁せしむべし此の場合に於て市町村は其費用を義務者より追徴することを得

第十七條　此の法律若は此の法律に基きて發する命令に依り市町村又は私人に於て施爲すべき事項を施行せず若は之を施爲するも充分ならずと認むるとき又は必要の時限内に施爲し得ずと認むるとき地方長官は府縣稅又は地方稅を以て之を施爲し其費用を市町村又は私人より追徴することを得私人に於て前項の費用を指定の期限内に納付せざるとき其國稅滯納處分に關する規定に依り之を徴收す

第十八條　第十六條及第十七條の費用追徴に關し不服ある私人の訴願法に依り訴願することを得

第十九條　此の法律若は此の法律に基きて發する命令に依り當該吏員の指示命令したる事項を指定の期限内に施行せざる者は五圓以下の罰金又科料に處す

第二十條　醫師傳染病患者を診斷し若は其の死体を檢案したる後十二時間以内に屆出を爲さずは虛僞の轉歸屆を爲したるときは五圓以上五十圓以下の罰金に處す

第二十一條　第四條第五條第一項第九條第十條第十一條第一項第十二條に違背したる者第五條第二項に依り清潔方法及消毒方法を施行せざる者交通遮斷を犯したる者又は醫師に請託して第三條の屆出を爲さしめたる者は其の屆出を妨げたる者は二圓以上二十圓以下の罰金に處す

第二十二條　第十七條の規程にして其筆用し得べきものに外北海道沖縄縣に關し必要なる事項は命令を以て之を定む

此の法律中町村に關する規程にして其筆用し得べきものを除く外市制町村を施行せざる地に關し必要なる事項は命令を以て之を定む

第二十三條　此の法律は明治三十年五月一日より施行す但し第二十四條及第二十五條は明治三十三年

第二十四條　此の法律は明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則は此の法律施行の日より廢止す（完）

◎優等品上と雅助　美術品美術工藝品機械工具類の展覽會、共進會又は品評會等に於て優等品と認むるものは巴里大博覽會出陳の爲め特に臨時博覽會事務局に於て之を上ぐ若くは相當の補助を與ふべき旨告示を發せり

◎博覽會へ出陳すべき品　農商務省にては巴里萬國大博覽會へ出陳すべき政府出品製作の資料に供する意匠新新ふして奇麗に流れず本邦高雅の風格を具へ會場の偉觀を增すべきもの

第二諸機械工具（農林漁獵等の機械用具をも含む）の圖案發明改良に係るもの若くは意匠巧妙なるもの

一圖案を立つ可き物品は前二項の種類以内に於て各自の選擇に任ず

一圖案は表裏内外の搆造を詳密に表示し直に製作に利用し得らるるものに限る

一第一項の圖案は本年七月三十一日限り第二項の圖案は本年十二月三十日限事務局へ差出す可し

事務局は遠當の專門家をして各圖案を審査し其採用すべき圖案を選ぶ

圖以下相當の金額を圖案者に附與し其採用せざるものと雖も圖案優等なるものには本文金額の制限内に於て賞金を附與するとあり

圖案の提出出品に就て特別の事由ある者は其物品の製作者を指定して申出ることを得

一事務局に於て採用したる圖案の外は凉下本人へ返附すべし

●新貨幣の雛形　貨幣法實施準備として造幣局は彌來日夜精勵し居れるが此程愈々廿圓、十圓、五圓の三種金貨、拜金、十錢、小錢の各銀貨、五錢の銅貨、五厘の青銅貨等總て新貨幣の雛形決定せられたる由にて不日勅令を以て發表せらるべしと云ふ

本組合事務員の移轉

本組合事務所員前田定次郎儀今般都合に依り日本橋區濱町二丁目十一番地へ移轉致候間本組合及當報の庶務に就ての御郵書御來談等の自今總て同所へ宛御發信又御來車有之度候也

●今回も亦廣告幅狹の爲め特に二頁の附錄を添ふ

廣告

◎稀代の名花　目下東京岡國同院の境内に於て開國中なる名花園の國光花と云へる其種類實に數百種あり今や早からず晩からず所謂見頃の好花期なるが何人も一度之を見れば一樣の感を吃するのみならず其花たるや淡紅あり濃紫あり或びは純白にして種色の斑點を印するあり或びは薄紫にして銀葉を吐くあり或びは櫻花の如きあり或びは一切の花の如きあり等一枚葉に逢あらず就中一株にして紅白を半ばし一當に所以なる花を產ぶ彼の花弁愛蘭の類なる西洋人は之を見て垂涎指く能はず一鉢百圓を拋つて購ひ得たしと申こむ者多きよし宜なる哉〜

◎衛生齒磨ばらの香　此齒磨は彼の有名なる銀坐一丁目佐々木玄民氏の製品にして其發賣元吸賣品の夥多あるが爲め該品にも亦た強て販路を擴張するの餘暇もなく只今當局者のみ之に應ずる位の冷淡なりしに拘らず其口中に特効あり齒牙を健全ならしむるに最も妙なるの高評いつしか世間に傳らしのみ所に入り頗りに注文の來るあれ共際一層の改良を加へ猶以体裁を改正しつゝ愈々販路を擴張する由現在の品位にて隨分良好なる位上又幾倍の花を添なるべし

◎鹿印鹿香水　近來香水の種類頗る多き中にも芝新橋明石町尾崎商店にて製造せる鹿印鹿香水の發賣以來益々盛の水に香水の發達郡を極め其品に異なる精たる功あり香水の發達郡を極め其品に異なる休裁粧飾も亦た美にして且つ高尚なり然れ共年を追ふ香水必需の時勢に向ひ各場よりの注文も日毎に多きを加ふる由なり

◎本組合事務所移轉　本組合事務所は前廣小路都合に依り日本橋區濱町二丁目十一番地へ移轉致候間本組合及當報の庶務に就ての御郵書御來談等の自今總て同所へ宛御發信又御來車有之度候也

◎今回も亦廣告幅狹の爲め特に二頁の附錄を添ふ

故平尾贊平君傳（承前）

これより益々販路擴張するに從ひ。或い數種の偽物を發賣するものあるも。君敢て之を意とせず。所謂先じて人を制したるの結果。遂に此一舉に因て回復し。忽ちに資産を完濟せしのみならず。大に資金を剩ち得て茲に揚立營業の基礎を固めせしと。是れ畢竟するに君が特有の勤勉。能く此効を奏したるものと謂ふべきなり。今其當時配布せる藥防法。并に手當法を見るに左の如し

コレラ病藥防并に俗間手當の法

コレラ病に恐るべきも用心して病の侵すとならざる樣にせば決して病むことなし恐るゝに足らず其用心の法い其大なること六ヶ敷事もあらず只左の通りにすれば足りとす

○(惡き食物)○飯のいきれたる○生の魚○鍛壓しやこの類○鮑鮑の類○天ぷら○魚類の時移たる○豆腐の時移りたる○生の野菜○生漬の香物○菓物の青く堅きもの總て生にへの食物は一切一口も食べすからず○胃コレラの媒となる多し○(よろしき食物)○新らしき小魚鯛比目魚の類よく煮て食すべし○鷄卵小鳥の肉○芋の類なり○胃和にして煮たい可き○豆腐の青く堅きもの悪き恐るべし一口も宜しからず桃梨杏李の類和かに熟したるハニッ位食すも決して害なし○蕎麥温麺素麺餅餌餡氣の類れ其品と時とに依て害なしと雖ども時宜して中るとも少なからず流行病中見ることも濟なべし總てゆつき煮たての物斗り食すれば害なし三度ゆ煮てすぐに食すれば輕きたるコレラに一度も罹る事あらず煮て食すれば再び煮なるもの再び煮て時きたるものも再び煮なるをしゆつき中に食をべし○命に換られぬ到來物なと皆とり捨べし○水の器の所に住む人に先其水を砂でして煮たて之を飲料とすべし○酒のよはね程なれば宜しと雖ども大酒の後「コレラ」を病者多き故必ず大酒すべからず夜よく腹冷して寢冷せ樣用心すべし寢冷せば下病の元「コレラ」の芽なれば深夜明放しにて寢るなと甚恐るべしなり○衣類ハ未だ汚れなくても汗ばみたれば必ず洗ふべし夜具蒲團の汚れて惡きなる抔は腹卷して清きねどゝにねて衣類を掛たる方勝れり○總て病流行の時人の外共に清淨に掃除し井溜抔溜はりなる樣にし食物に殊更用心して和に煮たる物の外い食せず日々湯に入て湯にしし少し汗はむ位にして三度の外い無益の物を食せず夜は十時を過ぎて寢も朝い六時前に起て常の如く營業する者い決して「コレラ」の感じ樣なき人障家に「コレラ」あるも少しも恐るべからず强く恐れて用心せざれば悪し「コレラ」を招くが如し只己れの心にて十分に防く可きものなれば必ず用心して恐れねことよけれ○職人抔弁當のひれたるに悪き水をかして食すれば多し故に心にて用心せざれば悪しとかいふ○客番の人抔少し位とて魚其外食物の悪き者を惜み大事の命を失ふ抔笑ふべきなり或は已のみ用心して煙供に悪き物を與へ終に病を醸して一家近隣を驚かす等慎むべき無べきことを慎まざるべからず○一度にても下痢したらん者は早く湯に入て能く〳〵温まり十分に汗を出し尚ほ冷ぬ樣にして熱き粥或は熱き蒸湯にても飲み又は熱き燒酒にて温まり十分に汗と出れば「コレラ」となることなし若し眞性の「コレラ」にて吐瀉する者い直に風呂をわかし吐瀉は湯の中にて積もりて首迄はいり湯の中にて「ブランデー」を湯に和して飲むべし身體温かになりて汗とゝ出れば「コレラ」となることなし若し眞性の「コレラ」にて吐瀉する者い直に風呂をわかし吐瀉は湯の中にて積もりて首迄はいり湯の中にて「ブランデー」を飲み多くへあしく少し醉へば宜し十分に温まり出て靜かに眠るべし若しいねかね又い再び吐瀉の心地あらばいく度も湯に入るべし出て又眠れば夫にて「コレラ」に治す眠らぬ眞になはりたるにあらずわけなき事ゆへ必ず如此すべし其上に醫者を招き其旅を受くべし用藥抔とて妄りに阿片の入たる藥抔飲ひい返て危し

明治十二年八月初横濱の及川正八、大原郁三郎の二人の藥師の藥抔を受くべし用藥抔とて妄りに阿片の入たる藥抔飲ひい返て危し

明治十二年八月初横濱の及川正八、大原郁三郎の二人の藥師の藥抔を受くべし用藥抔とて妄りに阿片の入たる藥抔飲ひい返て危し

須藤庄兵衛。河野奥七。高橋長舟。井澤佐一郎。なる者。頃日此病に罹る者を監み。普く其奥厄を逃れしめんが爲めに。豫防法を謹易く解し易きを板行し。廣く世人に授けんと請ふ。其仁慈なる殊に感ずべきなり。之に依て公事の暇筆とりて是を授くること云ふ

正五位勳二等　松本順　誌

此書は僕が横濱滞在よりの親みに應じ松本先生に親しく請ふて高筆を煩はせしものなれば更に梓行して本舗に於て販賣するコレラ豫防の印ひ發賣の序に江湖諸君に配布すること爾り

官許新發明
コレラ病よけ匂袋製造元
東京馬喰町一丁目六番地
岳鶴堂　平尾贊平

卷莨用バイプ
薄荷バイプ材
ライスペーパ
各種製造元
船來バイプ問屋
越
東京市日本橋區通鹽町四番地
菅谷爲吉

◎一滴の香水は他の船來香水數十滴を壓し尚且十數日を保つ
花國最上香印
香水
TRADE MARK
DOWNTON'S VALLEY TRADE MARK CHESTER, N.Y.

●リーリーフセバレー
●ホワイトローズ
●スパニスリラット
●バイナーレット
●ウオルス氏製品
●カルロンド
●ポンド入
●大瓶及小瓶
●並ニ懷中持
右四品ハ各々ナル米國香水製造會社ノ於テ流行ノ用セル氏製品ノ最上ノ香料ヲ以テ調製シタル品ノ佳品ナリ歐米各國ニ於テ愛顧アツテ御試用ノ上御愛顧願フ
大阪市東區道修町三丁目
ウードウオルス氏製品
森政七
東京日本橋區馬喰町一丁目
日本一手販賣所
平尾贊平
代理店

◎全國到る處の小間物店及貴藥店にあり

◎普通廓香より甘倍匂ひ高き
無雙新發明
煉麝香
定價一錫金十錢
御一箱一打入七十二錢
一打以上十打以上　直價六十六錢
十打以上百打以上　六十三錢
當分ノ中煉麝香一打ニ付引札二百枚宛ノ割合ヲ以無代進呈仕候

◎猶多數の注文に對して は時間の御相談可仕候

◎品よしで天下に類なく新發明の佳品なれど多量の製造に對して日々の良品なり價廉なるも配合して無代にて夏季

○煉麝香い　本だ天下に類なく新發明の佳品よしで多量の製造に對して日々の良品なり價廉なるも配合して無代にて夏季

○煉麝香い　あれば芳香頗郁目ら高尚優美なるも配合して無代にて夏季

○煉麝香い　御交際廣き諸君へ時々少量宛御使用の品れば自身御贈答客に對して男女共身体を盛せば御使用の場所に塗擦

○煉麝香いを所持まるに異なるすべ取分け悪疫流行の際あるにへ尤も著しき効驗を有す

製造元　乙女鹿　清水清香堂
日本橋區横山町二丁目　花王堂

(御名水ろい右順)

關西代理店　大阪佐野屋　脇田盛眞堂
發賣元　名古屋　伊藤重藏
同　同　同　

■東京市の營業稅　東京市谷區の營業稅いハ目下各稅務署の取調べ中にて本月末迄にハ大抵完結する由なるが四谷稅務署の如きハ其所轄内麹町區、四ッ谷區（牛込區、赤坂區）の營業者も他の三稅務署より遙か少なきが故に其取調ハ本月末迄にハ大概完結すべしと云へる各署にて今日迄に取調たる結果を聞くに四ッ谷稅務署内の稅金總額ハ當局者の定の額に超過する見込にて納稅者は三十八人位なりと云ふ次に高五百圓稅務署（所轄内、神田區、小石川區本郷區）ハ其納稅者凡そ八千人内外の豫定にて稅金ハ豫算額に達せざるべし新大藏稅務署所轄内（日本橋區、深川區）の納稅者ハ無慮一萬の上に出べく殊に日本橋區ハ新稅施行と他區の稅率とを異にするが故に其納稅者ハ高の豫算額に少なからざる達算を生ずるハ疑なれども當局者ハ此區にハ最も重きを置く趣なるが此區も最初ハ他區同樣に各自申出の金額書を少なく豫算の爭にハ到底に達せざる程なりと以て同署にハ稅務取調顧問員として商業の榮枯等に熟知し且正直なる人物を選出たる結果にて正直なる人物ハ必ずしも虛偽にハ及びたるものさへあるに至れり尚ほ他區にハ本所區、下谷區、淺草區、本所區及び牽橋稅務署所轄内（芝區、京橋區）の眞田金額ハ未だ開かざれども納稅者ハ前者凡そ七千八百餘人後者凡そ九千人あるべしと云へる

■新嘉坡の我商品陳列所　其筋より新嘉坡の我領事館に送付せる商品標本入荷物ハ三十九箱にて去三月十五日を以て陳列所を開館せり各國領事間にハ好評あり又從來支那人或ハ武貿人等の手を經て本邦製品を買入れたる外國商等ハ原價を知ることを得て大に其厚利を直接に注文を申込む由

■各銀行の警戒　近來金融の逆勢漸次引締りたる源因ハ世人の知る如く夫の勸業銀行債券の捨拂込み最も力あるべく加ふるに自先き鄭舶會社の捨込み最も力あるべく加ふるに自先き鄭舶會社の捨込み其他山陽鐵道の捨込み、製茶の仕入等種々なる用途より市下各銀行共に預金の引出し多くなる此頃日切り其數を增加し十五銀行の如きハ殊に此頃日切り其數を增加し十五銀行の如きすら預金利子を引揚げるに至れり今三菱銀行の日歩を聞くに去月二錢六厘見當なりしと二錢八厘に引揚げ殆ど昨年春より今春に掛けての利率と同樣なれども而して市中一般の小銀行の日歩如何を觀察するに安き方にて下らずして率ね三錢二厘を唱へ居り拘ら雖用者多き有樣にて此先金融を緩和ならしむる特異の源因とて稱なるを以て今一段の切迫を來すなるべしと目下各銀行者ハ多くの警戒を加へつゝありとのこと

■臺灣に於ける重なる物產　臺灣に於ける重なる物產ハ樟腦、茶、檳榔等ハ多年間係り對岸の厦門に輸入し厦門在留の歐米商人の手に入りたる後再び需用者たる本邦に來る茶ハ米國、砂糖ハ本邦等へ輸入せられ厦門の繁榮ハ臺灣の物產を集散するに依つて今日あるを來せし次第なるハ東洋貿易に少しく眼識ある人の認る所なり臺灣ハ本邦の版圖に歸したる結果此等其大なる物產にハ海關稅を拂ハざる可からざる事となりしを以て勢ひ之に處するの道を求めざる可からず之に應ずる本邦の商港なるべきの大問題なり然るを今日に至るも何等の施設なるを見ず自然の形勢天の美頓香港が自由港なるより厦門の商權ハ今や香港に移らんとしつゝあり萬一斯る結果に陷らんにハ一朝一夕に之を回復すること能はず宜しく此機を利用し長崎或ハ神戸等に輸入するの策を講ずるとハ當業者の一日も等閑に付し難き次第なるも現時少資本を持して一時の商利を納せんと欲して渡航し居る小商人にハ到底望み得可からず內地に於ける大貿易家にして奮起之に應するにあらざれバ海を百年に還すの憂ありと一昨年來談島に在留し居たる某氏の慷慨談なり

■國債現在高　明治三年より廿九年六月迄に起債せし內外債ハ六億二千九百九十九萬五千九百五十圓にして同五年より二十九年六月迄ハ二億二千九百五十一圓にして同五年より二十九年六月迄ハ二億二萬五千六百十一圓なりと依て現在國債高ハ三億八千百三十七萬二百三十九圓

ライオン齒磨の特效

本品ハ化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を選擇して精製したるものなれば從來世に行はるゝ普通齒磨と其質を異にし有效成分ハ口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白健全なる世界無比にして且該品を常用し續續齒磨を治癒して口中一切の病を思ふ無きと疑なく是れ本品の特効なり江湖の諸產續々御試用の上ハ高評あらんことを乞

東京特約店　東京市神田區柳原川岸廿二號地　電話浅花四九八番　小林富次郎

東京特約店　東京小間物卸商組合各店

横濱特約販賣支店　横濱市常盤町二丁目　中村商店

○賣捌所ハ全國ヲル所ノ小間物店ニアリ

天下無比衞生的顏料優等化粧品

芳香馥郁白美艶麗頗有効靈妙奇劑

都の花

東京市日本橋區馬喰町四丁目二番地　東京莊園堂　齋藤泰助

鹿印煉齒磨ハ

良質佳味ニシテ衞生上最効能アリ使用後精神ノ爽快ナルハ本品ノ特色ナリ

東京馬喰町二丁目（電話九二二）

發賣元　花王石鹼本舗　長瀨富郎

雲南麝香製布袋入

精製打白粉 清涼香改良賣告

右精製打粉ハ從來桐小箱入ニテ販賣致居候處今般改正致シたとふ入ニ仕立致シ東京小間物問屋各店ニテ發賣仕候間舊倍御愛顧御用向之程奉願上候

調製所 東京東両國横網町一丁目 舍金袋堂謹白

美人水

此美人水白粉の露八昔御殿の祖先が京都に於て發明いたし爾後累代家傳の精製品なり此御化粧水を常に御用ひあれバ御顔へ特効を奏し肌の白きは雪の如く床しく自ら美しき飽を出すなり又御化粧の後御顔へ御引き成され候はゞ香氣都として一層の光澤を增すなり此美人水を以て白粉を御とき成され御化粧遊ばされ候て也宜しく又御出もの御用ひ成され候はゞ殊に香氣能く不淨を除き邪氣を拂ふなり

定價 小壜諸金五錢中壜諸七錢五厘大壜諸拾五錢

受知縣名古屋市本町通七丁目

製造本舗 鈴木正七製

東京販賣 横山町一丁目 通塩町 橋町四丁目 大傳馬町二丁目 東両國横網町

柏屋善藏 大利屋小兵衛 丸見屋善兵衛 汐見屋榮 伊勢屋吉次郎

改良髷用販賣廣告

大評判無類飛切の格好

登録商標 明治形

歌舞伎形

●精心 ●一到 お米形

●都菊形 ●一等形 ●三舛形 ●忠義形 ●浮島形 ●新おはつ形 ●とんび形 ●牡丹形

此形ハ都新聞小說ノ書風ヲ見習ヒ新案仕候品ニテ格好ハ至極見事ニ出來マス

仰モ歌舞伎形及ヒ明治形ハ數年發明仕候以來全國至ル處ニテ發明ヲ蒸ハ近來相愚ノ模造品ナ販賣スル者有之ハ篤ト秘藏屋迄製ノ御注目ノ上御請求アラン

大評判博シ近來相愚ノ模造品ナ販賣スル者有之ハ篤ト秘藏屋迄製ノ御注目ノ上御請求アラン

東京市日本橋區浜花町廿七番地 五溪堂

製造本舗 全國各地至ル所ニ取次アリ

新小町 大軸金十錢 小軸金五錢

露の香 大軸五十錢 小軸三十錢

八重ひとへ 定價 大箱八寸二錢 角箱金八錢

賣之御望方ハ御次第相當御相談可仕候

明治形本舗 池上小十郎

右ハ熟レモ世間有觸ノ品ト異ナリ第一無類飛切物ナ使用シ衣服生上ト云ヘ格好ト云ヘ當世向キ至極適當ノ品ナリ

製造販賣元 東京下谷區二長町松葉屋號

正誤 先號來掲載シ居候東京御坐三丁目㊀松澤八右衛門氏ノ花の雪廣告定價ノ中拾二錢トアルハ十五錢ノ誤ナリ

百猫石鹸廣告

定價一個拾貳錢 一ダース七十七錢

「大野氏ハ尾陽名古屋の產 往年東都に來り小間物と営業に性 曷厚今ハ百猫石鹸を製造 實に名家の甚調方を明言に 美を他に類なきを感賞仕候 有之に江湖の諸君方なる試用と 其香高きを賞し仕候 陸續注文仕ハ不ハんと仕候 明治三十年五月 東京日本橋横山町 大野金鹸堂」

國光花 數百種

異種きりまもピーチェルクラウ 世界第一

四月上旬よりひら從見候へ

東両國回向院内 名花園

○蹴山霞

（第十三回）

一瓢子稿

朝光吃と打見遣り　勢ひ、此奴は強て喰に聞く梶原が家來遠三平太といふ奴よな主人の威勢を笠に着て世に憚らぬ狐狸奴は　斯樣な奴は一人に引捕へ存分幸き目見せて遣らねバ關東武士の名が汚れるソレ誰かある此奴打つて打つて打据えよと減らねに呼はれバ駆付け結城の下人丹野八郎手負ながらに走り出有合ふ梶棒を取つて三平太の後に立打る三平太は雲へ上り　三ア、若し〜　拜みます頼みます其梶棒で打据られては此頭が胴中へメリ込んで此眼の玉が飛出さうも知れぬ命ばかりは如助け下されお慈悲〜と數多度大地へ頭すり附くる右京之進はつたと睨み付け　吾ヤアア卑怯者め脆病者め此期に及んで刀の手前眼ぢも出て助けてくれとは尾籠千萬左樣聞く上の面目潰され結城殿の調べ濟んだれバ抽者生捕の左功に申し受け身怯者の見せしめに首ふツ放してくれるワと威し付けられ　三ヤ、情や此首一ツあれバこそ生きたる甲斐の樂しみもあれ首がなければ何よりかよる三度の食が戸まをひをして何處から口が利けるのやら其勝手さへ知れぬヒヤ之つかりの眞中ぞソツと泣き出す是館さは笑ふ正しを赤恥かる朝光膝をおし進め　勢ひ夫れ程命が惜しいなら助けて遣るさいものでもないが其代りとして今宵の狐鞘何者に鎬まれて何故あつて押入つたか包まず此の場で申立てよと廻問ひに　三ハイ〜申します〜今宵の事に私も五七人の者此お邸の女中に惚み合つて其住返しを致さう爲狐に押入りましたる次第云ふ　私し事の嘘八百外に存細は御坐りませぬ不届の段ハ平に御詫と願を叩いて繰返す右京之進ハ聲を荒に　吾ヤア是程の屋さ仕出して詫を云ふ時で濟まうと思ふか大白痴にも程とをあれ第二段等が此邸に恨の者があるならバ他へ押出して暫時なり口論なり致か當然然るを人は何者ぞ梶原の老爺か小悪か明白に申さばよしと　三ハイ〜今宵の事に就ては其住返しを致さう爲狐に押入りましたる次第云ふ　私し事の嘘八百外に存細は御坐りませぬ不届の段ハ平に御詫と願を叩いて繰返す右京之進ハ聲を荒に　吾ヤア是程の屋さ仕出して詫を云ふ時で濟まうと思ふか大白痴にも程とをあれ第二段等が此邸に恨の者があるならバ他へ押出して暫時なり口論なり致か當然然るを　若し隠し立をするに於ては其陣笠の臺脚に極を置かゆよと刀に反を打たれバ　三ア、コレ若うし早まつて下さるな、心も隠すも命が惜しければこそ生死二ツの境となれを何もかも云て終ひます實の處ハ右京之進殿御存しの通り私しの主人らぬ樣引證ひで歸り來れ証據さへ跡に殘らねバ結城が何を申さうとも此方に於て差搦ひなし萬一事が六ケ敷くならバ此老爺が引受けて遣いすと殘る方なら指揮に依り斯樣に押入りましたる次第私共に罪ア御坐らぬ何ぞお助け願下れと遮ぎるを聞いて朝光も右京之進も無念の齒噛　勢ひ大方左樣に

左のせいで七八十人の野武士を集め小手腹卷太刀長巻穏やかならぬ扮拵にて然に此處へ押寄せ來れたる體に荒れ廻る數多の人に手を負はす而已か結城殿の　愛娘　綾衣殿を勾引して立退ひたは外に存細なくて叶ハぬ察する處是らや頼み人があつて無ア云合られたに相違あるまい其頼み念が碧梧桐三樣に嘆いた處夫ならバ詮衡あり飯多の野武士共を驅催はし何度の者とも知れぬ覆面体包み人目を忍ひ夜中に結城方へ押入つて其綾衣を奪ひ來れ若　彼方に手向ひ致さバ勝手次第に斬捨よ此方に手傷負ムものあらバ後日の証據とな

鬼原源太機織衣殿にきつい執心其惡の叶ハぬを殘念がり親殿中三樣に嘆いた處夫ならバ詮衡あり飯多の野武士共を驅催はし何度の者とも知れぬ覆面体包み人目を忍ひ夜中に結城方へ押入つて其綾衣を奪ひ來れ若　彼方に手向ひ致さバ勝手次第に斬捨よ此方に手傷負ムものあらバ後日の証據とな

ハ察し居れと聞けバ聞け程憎くい仕業　有一直に大江殿へ訴へて綾衣殿を取戻し成敗順ふが宜しふ御坐らう　勢ひ夫ハ幸ひの此三平太此奴を証據に引行くしレソレ八郎引立ていとふ三平太俄かに狼狽　三ハ此處命を助けられ大江殿の前で成敗受くハ何の道首は取られ物で詫と自狀が損になる是ハ斯ういしてハ迷ふとする右京之進足を蹴倒し　有ソレ八郎殿逃ぬ後八重縄掛て引立てなさいと己れ共に立上り手負の者を介抱し裏表に番入付けて殘る方なく用意を調へて夜明を待つて朝光を先に一同の者大江の邸へと急ぎけり。

不便かな綾衣は己が一室に暖たかき思ひ寝の夢破られて荒くれ武士に引かつがれ口に猿轡かけられて泣けど叫べど聲も出ず身ハ小笹の羽がいじめの野山分け行くはし鷹の野守の鏡影をだに仲蓼殿が見給ハい救ひに來させ給ふべきに知らせ遣るさ便もなく父上の身も氣遣れて氣も魂も身に添はず何時か梶原の邸に早れて一室の中に押入れられ柱に確と縛られぬ

●子持の强狡

佛國に於ては年々人口の減少するを憂ひて之を防ぐ爲めに種々の方策を逆らし居れることなるが同國の人體檢査の事を司り且つ統計家として知られたるペルチロン氏が「ダン」に投じたる考案の如き最も秘かなるものならんと尚ほ甚だ奇なる思なきにあらず即ち氏の考案に依れば三人以上の子を有するものには一般の直稅を免除とするにありて之に代ふるに三人以下又は二人の子をもち有せざるものに二割の附加稅を課すれば減人の上に何等の差響なきようなれ尚ほ氏の說に依れば子を育つるは一種の稅にして此稅を納はざるものハ科料として國庫に納金せざるべからず市民及び納稅是れは第一の義務を正當に果さざるものは第二以下に於て自分の負擔を減ずるべからざるなり且つ今にして人口增殖につき何等の所分を加ふるにあらずんば佛國は遂に消滅せざる迄も衰微に向ふの明かなり

●紀念博覽會案内記（承前）

冥に南の端より東へ向へば漆器部なり、西村、三上の漆器、時藤の鐙器に京都青年漆工會の製品あり、相續いて嬬人道具、鞴管、長持、針箱、鍵盗、煙草盆より卓机の類、鏡板に溜ひては、鶯燈ランプに御所文庫、其北列には唐和木の細工もの、京都美術工會の指ものには、小鼓管、書棚、火鉢、ら机あり、手を盡したる細工ものあり、尚は佛具、家具、漆器、恭敬盤、尚其北列には納戸色の天鵞絨、金箔類、貫鑑、唐金の佛具其他、打物鑄物の中に、金箔類、貫鑑、唐金の佛具其他、打物鑄物の中に、を陳列しし見國窯には並川を初め金銀平戸の諸器を飾め平野、金谷、綱美、吉田、中川等の金属器店あり、鳥居寅吉の角打器械唐打器械は其端に列なり、尚北列は美濃掛美の改良バケツ及國産打物、紀州和歌山川崎の鐙釜類、三州岡崎塚本の專賣桑摺器等に面したる片側は、杉板にて葺き背付に綴たる高たる屋根造りは、其又北の最北側ども併せて陶器の陳列所なり、清水窯、栗田南鶴の製りを掲げたる中に、屋風を以て後面を圍ひ、別に陶器商の徽章打たる幕張は、陶器業者が二十五年間に成りたる製作品を陳列して、以て紀念博覽會の名實を明にするとして張り込みたる處なり

此陶器部より斜めに南東へ曲げば、御所文庫陳列に接して場外への出入口あり、其口には尾張屋巻菱屋あり、華頂山園、栗田南鶴の製りを掲げて疲れを慰し腹肥かも亦可ならむ

巻菱屋より入て北を見れば、雑部と嗜好品部ふとして、漆器ちあれば時計もあり、鐙葉細工、鼓皇提灯、馬通の廣き陳列あり、此東方にも出入口あり、此出入口には巻菱屋あり、桜楊細工、櫛具、筆墨、東京專賣といふ吾妻楽の浴衣地、袋物、ハンカチーフ、洋服、メカニク器械、高麗寺焼の陶器、御茶工業用の陶磁器、次で嗜好品部には京菓子の一劃を重ねとして、良助、若狭屋、谷口ふの〳〵新製を鍋ゆ、酒、醤油、酢、味淋に慶産のものも排列せり、是より北へ進めば、各府縣の出品部に接すれども、遠隔の地、未だ出品ゑ鋤はされば、菓子店の後ろより中庭へ出づべし

中庭西面の中央は式場にして其石製に拘らず八角造りは奏樂所なり、奏樂所は開閉場又は褒賞贈與式等にのみ用ゐるべし、其他の平日は精々軒此處に出張して、西洋料理の調進處とせず、式場も平日閉ぢ置くを無用ありとして、此處へは先般來京都府勧業課にて調製となりたる、商工業石鹸の事業に關係せる統計表、八十餘種の陳列所となしたり

式場に相向ひたる北隅及び南隅の建物は、中庭の茶店蟲末久と其他一軒及び園藝品陳列處なり

式場の左翼と見るべき二屋交叉屋折の建物の國藝部事務所たり

中央表門の入口に立歸りて見るべし、即ち先に見たる北館に向ひて三所の出入口を開く、即ち中央より進めば幅五間の二所の陳列處なり

上に五二會京都雑貨部の大扁額を懸け、織物の幕を以て左右へ長く引り張へ陳列所の奥行を九尺、此處にい貿品及び織物等の大製作物を陳列す、元來場内の區劃は南より東へ東より北へ及ぼし、此處第十五區に當れども見物するに區劃の制に頓着なく、西側より數へて東へ第一列とし、一列には花簪、造花、髮挿の具、千代紙、桜蕚、提灯、嵯峨の春とい ふ菓子、密柑水、レモン水、摂物、豆類、松前屋の昆布、菊定の清酒、醤油、豆腐、傘類には樂器琴三味線、象牙細工、下駄類、風物類、二列には珠數、煙管、革提類、髪附、紅、白粉、みすや針、菓子型、袋物、三列は寫眞、土偶、燈火、蒔絵もの、鳩居堂の香類筆墨、局をなせば、足袋商の棚の上には織物の幕引たり、玩具、毛植細工、數物、坐蒲團等、四列には小野口の敷物洋服用具類、仕立着もの、ネルの仕立ものの等赤白紫の三段幕を引たり、

●櫻の花と流行の香も、櫻の花にても匂ひなきを惜む人多かるべし、茲に其香料の王とも云ふべきは大坂市東區中野町二丁目岸田市兵衛方にて製造する浪花麝香と稱するうぐめかぐ製品は近来需生家及び紳士貴婦人達には專ら流行品にて御用下さるゝ香料にして價は三十五錢五十錢と特別品は一圓なりまた同家の君の香と申す匂ひ袋は襟か帶に着けるものなれど不用の節は簞笥の抽斗へ

蚊の虫取器は、蒸熱また洗濯物の糊の悪臭を避ける重寶の品なり價は一本錢と二十錢特別品は五十錢にて岸田の製品は内國勧業博覽會にて褒賞を拜受し善良の品なれば夏氣の殊更衛生上欠かるべからざる香料なり當市にて大賣捌所は銀座三丁目松澤八右衛門、淺草町玉置金八、其他有名なる賣薬商及び小間物商等にても販賣仕つり居り候

◎空氣の帶揚は空氣の量にて壓に水に秋かにいれも大小自由自在にして

◎彈機の帶揚は伸縮みする故歴とさらに縮み直に元の形に復る

一番より五錢迄　一錢より卅八錢迄
一番より四番迄　九錢より十五錢

特約販賣店　東京橋本町　萬屋源藏

發賣所　佐竹木町自粉問屋　東京神田　前川忠兵衛商店
東京橋横山町一丁目　本逸造

何れも致るとよく形の變るとなく御德用の品あり

製造本舗　東京市下谷上野町一丁目　大島和吉

關西一手發賣元　大坂市久寶寺町三丁目　寺澤覺兵衛

定價　小瓶金十錢　大瓶金廿錢

吹出物ひゞしもやけに特にきびにはにして其他

是ニキビ水の第一色をあせも白粉やけに特にきびにはそばかすに白くしつやを能くし

特約販賣
日本橋區横山町一丁目　中花王堂
同日本橋區本石町二丁目　森田
同南茅場町　大賞商會
同通旅籠町二丁目　大谷萬次郎
同横山町二丁目　和田善次郎
同銀町二丁目　大和屋小兵衛
酒井金太郎　花王堂

陸軍御用品

兎月石鹸は世界流行石鹸石鹸の王

發賣元　東京通り油町　清水開花堂
大坂南八寶寺町二丁目　萩原吉右衛門
代理店
改良有功新化粧劑

五列にハ小間物類、婦人化粧具、ひしゃ二十三ヶ所の櫛類、髮梳香油の類、洋服、小間紐、鬱甲細工もの、櫛、笄の類、六列は東の端にて、白赤の三段革に洋傘、齒磨、楊形、髭、洋銀細工、茶器、象牙細工、有職指物、雜道具、是より東西に通ずりたる六列ゑて、南よりする列に段通、洋紙、革提、由多加織、肩掛の類、島津の製作器に電氣作用のもの多し、二列には人力車、莫大小、浴衣地、瘤布細、椅子、勝手道具、唐木紫檀の細工、列にハ蒲團柴蒲團、柳合利、楠類、太物類、綿、蚊帳、金網細工、樟脳細工、に接して、京扇の組合商は別に一劃を設く、柳の上にハ車を樹て幟幕を垂れ、幕の間に應天門を模せし古体の額面を打ちて京扇の二字を大師様に認め、柳は正三角なるもの二個、其中間の寶場ハ矢笠形に切組たり、四列に中井、大谷商店、座敷造り穀仕立に表具屋の出品、更紗染、傘、弓矢、行李、メリヤス、浦團、五列にハ屏風、筆墨硯、封筒、水引、短冊色紙、油紙筵紙、最北の六列に ハ煙草盆、パイプ、籐類、小兒車、眼鏡風物、玉籠の類に て雜貨部を配せ ば、出入口へ出べし、是を大坂は黒鉛坩場、算竹、秋田、煙管筒、油國、金銀箔押紙、裏物、彩製物、水引、香油、齒磨、唐木細工、線香、壓搾器、根付、眼鏡、友禪染、金属器、風物、堺市にハ打物、長通、醤油、異田鍋、毛布、其他朝日ビール、安全パイプ、抔混合せり、此處の出口には島屋の休憩店あり、留米には絹織、筑後の三潴三井郡の造酒、演松にハ紬、塗物、鶴織物、風琴、東京にハ小間物、香油の類、甸愛知、石川、天庫の出品ある等に此處の出口には大名蕎麥の店あり、此邊、順ゝ再たび裏門へ來るべし、裏門は美術館と相對して、裏門に續きて西の方に二棟ゝ立るべし、裏門に續きて西の方に二棟ゝ立るべし、一ハ紀念博覽會事務所、一は五二會出品協賛事務所なり、館内地坪三千坪、一日の遊歩樂しいかな　(畢)

●農工銀行の設立

設立委員の選定

就て、昨年春期に開きたる地方官會議に於て前大藏大臣より訓示する所ゝ為りたる地方官は右訓示に基き去れ〳〵候補者の選定に着手し中にハ其候補者内定し大藏大臣の認可を請ふのみになり居りしも少からざりしが由なる先ゞ地方官二十餘名の更迭ありたる爲め前に内定し居りし候補者も新知事の意見に依りて多少變更を見ることゝなるべく又新に民間より登用されし者及ハ中央政府より轉任せし者等は同候補者選定に關もる方針等も亦知らざることなれば かたゝ同候補者の選定は近く開かるべき地方官會議後に在るべしと云ふ

農工銀行の設立の件

農工銀行の設立の件は大藏大臣の認可に同じく設立委員に於て定款を作り大藏大臣の認可を經たる後右定款に依り期限を定めて株主を募集し株式申込濟を待て出資免許を受け設立委員の手より取締役に引渡す濟なるが農工銀行は勸業銀行の如く其組織大ならざれば其設立も勸業銀行の如く手數を時日を要せざるべく同銀行の定款は大藏省にて起案しある由なれば設立委員は右定款に依り其地方の狀況に適合せざる點を調査し修正する位に止まるべしとなり

農工銀行と勸業銀行との目的は共に産業の奬勵にあれど農工銀行は主として中産以下の農工業者を保護奬勵するにあれば其株主は成るべく其地方の小農工者を以て設立區域内を通じて公平に應募せしむるの方針なりと即ち小農工者をして一方には銀行の株主たらしめ一方には銀行の借付たらしめんとするにあり

設立の時期　設立の時期は各府縣同一と期し難く其地方の事情に依り設立急ぐべき後ゝ為るべもあるべきが今日の處にて各府縣を通じて何れも其設立急居る由なれば急々設立委員を任命するに至らば各府縣知事と同時に設立を見ることになるべしと云ふ

●貴族紳士必用の香料廣告

人造麝香

○大瓶價六拾五錢　○小瓶價三拾五錢
○新小瓶價二拾五錢　○其他三拾五錢
○其他百五錢

用ゆる七友五分入及び分入より比較して人造麝香は純良品にして尚優美の芳香を放ち方今皆ゝ天下に高評を博したり常に使用する紳士淑女は總て此麝香を撰擇せられ以て惡臭を防ぎ武州人造麝香は實に惡臭の感染を豫防し生活の愛玩物なり必ず用ひて其効能を試みよ

○貴族紳士必用の香料

人造麝香

東京市内特別大販賣所

京橋區銀座三丁目　牛込區榎木丁橋前　松澤八右衛門　尾澤良助
下谷區池之端仲町　平尾贊平
日本橋區馬喰町　佐々木玄兵衛
同區本町三丁目　高木與兵衛
同區大阪町　圓城半右衛門
同區本町三丁目　治兵衛
日本橋區通一丁目　杉村治兵衛
同區本町三丁目　鎌次郎

神田區小川町　大沢合名會社
同區本町三丁目

市内は勿論全國各地の藥店及び小間物店にて

●東京市内に評判のよき　ねりおーろい花の雪

中瓶共口定價改正金十五錢

東京市内に於て評判のよき尤も敷品ナレバ得ンコト一刻モ早ク賣ンヿ品薄ハレ候ニ付御注意御求メ願上候

全体香氣善良にて價格廉價

賣口御販

伏テ奉願候

東京銀座　日本橋馬喰町　京橋銀座二丁目　神田淡路町　日本橋本町　横濱尾上町　北海道小樽市

東京本郷　同上野町　同下谷町　同浅草橋場町　同八丁堀　同本郷三丁目　同神田多町　同芝田町　同麻布市兵衛町　同赤坂表町　同麻布龍土町　同目黒不動前　同目黒三田　同目黒上目黒　同目黒中目黒　同目黒下目黒　同目黒大橋　同目黒駒場　同目黒中目黒　同目黒上

●譽高松

第四席
錦城書　真玉講演
今村次郎速記

道具屋の七六ハ。兄の水戸屋重兵衛が金方になって活躍をしたろへ。小僧を一人借りて手土産を持ち、牛天神下水戸横の御師横川治太夫方へ罷り越し、名聞より、当お願ひ申す取次ドーレ何方から、セ、私しハ大阪の道具屋でございますが、一水腰のものを研いで頂ダたいと存じて参りました。先生ハお宅でございますか取次ハイ今日は宅に居ますが御姓名ハ。ヘイ七六といふ小道具屋でございますがどうかお取次を。是ハ甚だ粗相の品でハありますがホンの手札代でございますどうぞお納めを願ひますと出しましたのハ結構なる菓子折。治太夫も始めて研ぎ持て来るのに大層なる手土産でございますから。頓て一間に通され茶が出る茶受が出る叮嚀に扱かひ致して。暫らく過て治太夫罷り出て挨拶を致し。ヘイ只今お結構なる御土産をくだされわもがたく存じます。何か其の刀をバ研ぎたいと仰せの由拝見致しませう。短刀でございますか。ヘイ、ヘイ。短刀ハ此節誂ものが多ございませんから。拙ひ物でございますが。ヘイ。此事によりまして研ぎ上げました上にて拙ひかませうと存じますが。ハ、、、。御然ば御師様ものでございますから。急ぐ事の決定せません中ハ。先様のお名前を申上る訳にハ参り兼ねます。之れでございますと差出したのを見ると君萬友成の短刀。ヤキが鮮に現はれて流石厳重に拭ひ清めたる如く夏猛暑の氷の如く目鎬に裝御紋散し。ヘイ之れハ結構な品だ。是れなれば心嘗ガ有ございますから一の御覧に入れます其の間お預り申します。縦しハ持て参ての高金の品ハ繰頭くらい飯から鍔から鞘其他に至るまで。刀の全部を改めてチャンと受取にして差出します。之れを受取て七六ハ三河町の竹屋源次郎といふ旅籠屋へ帰りまして此方ハ横川治太夫御新造に向ひまして。当稼業といふものハ奇妙なものだ。あの道具屋が何程で買ると云ふか知らんが。自己の見込でハ吃度高價ものに違ひない。此の間から水戸様でお短刀が欲しい〳〵といふ御買上げになるのハ知れて居る。之れで若し儲かったらお前が何時も欲がって居る唐繻子の帶や中差を買ってやる。さうして芝居へでも行て綾くり保養をするが宜い。喜ぶまして戴き度ございます。何れにしても水戸様に御覧に入れやうと。夫れ迄の間。雨宮太郎左衛門といふ人を以て右の短刀を御覧に入れました。中納言頼房卿之れを御覧遊ばされ能くなされたと云ふのハ。今を去ること十年前松屋又左衛門の娘のしまに対して証拠の品。道具屋の手に落た上から最早しまの産後が悪くって相果たと思召したから。思ハず知らず御落涙。之れを雨宮太郎左衛門が心得違ひして早速横川治太夫を呼んで。其方持参の短刀。上御不審の品なるによって。其方へ持参いたしたる者を取逃すと相成らんと云ふゆゑ。横川治太夫吃驚致し。どうして女房に唐繻子の帶を買ってやるどころ。やすやすと直に家へ帰って来ました。三河町一丁目の竹屋方へ参り道具屋七六を差押へに参ります。今でも昔しでも宜い上御厳をして居ると不意に捕縛に来るから油断のならん事でございます。縄ハ私しに掛られませんから布引以て上ます。宗右衛門同人妻おきよ。貞秘等を縛り上て自分の家へ引連れ参りました。宗右衛門愚痴をいふまい事か。実夫だから忠ダ〳〵といった。一体マアどうするのだヘ。之ゝからが此方のものなんだ宗右衛門さん。さう心配をしないでも宜い高輪私の胴にある。実胴にある胴とあると云ったって縛られて引き出されもやアどんな事になるか知れない。此位なら大坂で旦那取をして居た方が宜かったと。ナイ〳〵大宗右衛門いって居ると七六ハニヤ〳〵。笑って。セ、之れから自己が一番引廻し返してやるんだと度胆をすへて居る様子。宗右衛門夫婦ハどうなる事かと心配をして居りました

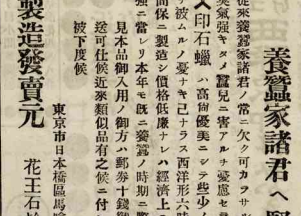
改良廣告

東京芳誠舍石鹸製造所

石鹸ノ形大ニ改良ス
定價ハ從前ノ通

此靈鷹石鹸ハ戊申黄海戰捷ノ紀念トシテ發賣セシ故ニ時勢ニ適合シ殆ド一ヶ月ノ間ニ壱萬打ノ善良ナルガ故ニ今日ニ到ル迄ノ報酬トシテ形ノ高ニ登レリ依テ報酬ニ層注意シ品質モ殖シ品質モ有ノ舊ニ倍シ陸續御注文アラン ヲ

養蠶家諸君へ緊急廣告



製造發賣元

東京市日本橋區馬喰町二丁目（電話浅草九二三番）
花王石鹸本舗　長瀬富郎

從來養蠶諸君ノ常ニ欠可カラサルハ蠶蠟ニシテ然モ和蠟或ハ洋蠟ノ臭氣强キタメ蠶兒ニ害アルナ憂慮セラル、ヤ久シ然ルニ弊店製造發賣ノ人印石鹸ハ高向優美ニシテ些少ノ臭氣ナク光力非常ニ盛ク殊ニ鼠害ナク被ルルノ憂ナキ已ナラス西洋形六時間大形五時間中形四時間小形三時間保ニテ製造價格低廉ナレハ經濟上ニ利益アルコト和蠟ニ比シ殆ド二倍强ニ當リシ本年モ既ニ養蠶ノ時期ニ際シタレハ幸ニ御使用有ンコト新人印石鹸ノ用ノ御方ハ郵券十錢御送付被下候ハヽ右四種ノ見本品郵送可仕候近來類似品有之候ニ付人印商標及弊店名義ニ御注意被下度候

農商務省奮　商標錄番　商標　キング

第四回内國大博覽會賜褒賞
五二會全國品評會一等褒賞受領

諸官省御用

●照會次第説明書を呈す

近來インキ使用の途大に開けたれども雖も從來の本邦製品に就ては大抵褪色し易く又水質に遇へば字体文字無ゆ等の事あり弊舗大に之を憂ひ幾多研究の結果四年前より全國同業者の要望に應じ加之の事業を會に出品せしに全國同業者の要望に應じ亦出品完全なるインキを以て本年第四回内國勧業博覧會に出品せしに幾多の賞牌を拝受せり今日の只一億の弊舗が評判の五億に達し名聲の高きは偏に全國同業者の賜なり而して今日に於ては世間の最も評判の高きインキを以て粗製品世間に迷はしむ故に本舗は其の事業を以て最も信用あるインキを使用し其の優等一等褒賞を受領せり而して今日に於ては世間の最も評判の高きインキを以て粗製品世間に迷はしむ故に本舗は其の事業を以て最も信用あるインキを使用し其の價格を知るべし而して今日に於ては世間の最も評判の高きインキを以て粗製品世間に迷はしむ故に本舗は其の事業を以て最も信用あるインキを使用し其の無價の高を以て粗製品世間に迷はしむ故に本舗は其の事業を以て最も信用あるインキを使用し其の虚實を試み即ち帝國インキ

諸官省御用
帝國インキ
關西特約販賣店
大坂平野町二丁目
福井庄二次郎

（見本見）

ブリウブラック
コッピーインキ
早印刷用インキ

東京日本橋區馬喰町二丁目二番地
篠崎又兵衛
福井庄二次郎

賣藥部外

●のみよけ約定新品着に付廣告

賣錄　安眠請合獨乙產
商標　八のみよけ
人格ハ害ナシ

大日本元祖輸入元　八

東京市京橋區銀座三丁目
大坂屋號　松澤八右衛門
電話本局五百三十四番

定價
大鑑入　金廿錢
小鑑入　金拾錢
發明新案特許
平鑑入　金五錢
平鑑入　金三錢

●賣捌御好の御方へは割引御相談仕候年々賣切候間至急御注文願上候

新專賣發特許明

雲井織

一名改良鹿の子

是は一名を改良鹿の子と稱し、腰掛、手拭、帶側、帶揚等に用ひて最も高貴優美の新發明品にして假令油染み汚れたり其之を清水にて洗へば元の美麗に立戻り且つ伸縮色等の憂なき頗る經濟的の奇品なり

製造一手販賣元　東京發賣元

江州川並　外村新五郎

織元　京都　坂根兄弟商會
京都烏丸六角下る

加納作之助
東京日本橋區橋町四丁目

丸見屋善兵衛
電話浜花四四八番

小間物問屋　善

一石輸入卸　無類有名　ダイヤモンド

無敵勉強

夏向必用
經濟新工夫　衛生必用　便利流行　新着珍品
入帶下　除虫用帶下　各種眞綿帶揚　舶來化粧品

特約
廉香入　透明　三徳　別製　流行　専賣　有名　高尚　佐野都小場枝
美人洗粉　石田　東京　石鹸　廣香水　眞綿　用中　香料　各種紅各種

特約
寫眞　美人　サヤ入　紅付　革入　各種

勉強品
繼玉　田中　東京　なか
高評　石田　專賣文具筥　優等　篠崎　帝國インキ　便利　各種眞綿帶揚　新着珍品　舶來化粧品

都堂販賣品
滿和販賣ニ付機ヲ現金取引ニ多少ニ拘泥仕ル文乞

特約
流行　專賣　強　紙　硝子　石鹸　類　水　香油　強　紙　硝子　石鹸　類　水　香油

勉強品
高評　石田　專賣文具筥　優等　篠崎　帝國インキ　便利　村上　帶金具

勉強品
無類　村田　水彩繪具　專賣　岡崎インキ入　輕便　村上　帶金具

勉強品
高評　石田　專賣文具筥　優等　篠崎　帝國インキ　便利　村上　帶金具

勉強品
無類　村田　水彩繪具　專賣　岡崎インキ入　輕便　村上　帶金具

勉強品
手遊　船來ゴムマリ　輕便　玩上用　紙　硝子　玉　必用　學生　鉛筆類　盤ケ類　小間物類學校用具品一切慰藉服賣用

都築辨吉
馬喰町二丁目
都堂

●本品の特色●

製造元　東京日本橋區橋町四丁目小間物問屋
本舗　善　丸見屋善兵衛
電話浜花四四八番

遠陽　名町

森川積善堂

營通品に比し價格低廉にして量多し
光澤顏色鮮にして長くけずれず
而も永く保つ
太つかるもつきにくわるゝれひなし

●陸海軍御用●近頃非常に名高きはみがき米國シカゴ府……グレード會社製

象印齒磨粉の彼の米國にて世界に其名高なる齒科學博士ヴイルハム氏の方劑にて當時シカゴ府に於て非常の名聲を博し紳士貴婦人社會に賞賛せられたる良品なるを以て這回弊店日本一手特約を結び洽く販賣す其の衛生上有効なるは辱くも左の諸大家の信認を証明により敢て贅々を要せず

三錢
六錢
十五錢

日本齒科醫會會員　英國倫敦王立醫學士　マクドナルド先生……御証明
日本齒科醫會會員　英國倫敦王立醫學士　益田廣治先生……御信認

登錄商標
SANITARE DENTIFRICE Mark
GRADE & Co CHICAGO
米國ハーグハルド大學齒科醫學博士

シカゴ　みがき　西洋象印はみがき

●本品の特色●

登錄商標
安眠
長良
川の水
新發明
特許
東京市京橋區銀座三丁目
丸見屋善兵衛

專賣特許　人造珊瑚珠

驚甲珊瑚珠類小間物商　特約發賣元　善　小間物問屋　長岡商店
日本橋區橋町四丁目
電話花浜四四八番
東京神田須田町
丸見屋善兵衛

梯樹部

緒〆及魯玉之部

甲號六十錢　乙號五十錢
甲號廿五錢　乙號廿錢
甲號十錢　乙號五

●田原氏消毒燈

凡そ傳染病流行の際には何種の症に限らず病者の形体より或樣なる者ハ至て少なく知らず識らずの間に器具衣服又は室内の空氣等より感染すること最も多きを以て傳染病の豫防には其病室を始めの器具衣服等に消毒を行なと最も肝要なりと雖ども何人も能く知る所なるが其消毒には硫黄蒸氣を用ふるの樂品を用ふるもの尊數種の方法あれども其病菌を撲滅するの効力に乏しく或は其方法も重く且つ多費を要し或ハ器物衣服等を變色損傷する替の故障なり何れも實用に適せざる缺點を生じ其中にも硫黄蒸氣は最も効力を有すれども其方法も繁雜にして容易に行ひ難き事なり如何なる細隙にも行渡りて室内の器物衣服等一時に消毒し得べしと云ふ又此消毒の特長と云ふべき第一フォルムアルデヒットの瓦斯は空氣より比重を同ふするを以て能く隅々迄行渡る事第二瓦斯の原料は木精一瓩（凡三合三十五錢）を用ひ得る事第三フォルムアルデヒットの瓦斯は殺菌防腐の効力著しく人体に害を及ぼさず第四衣服器物等に浸入するも別に變色損傷等の憂なき事等にて尚之を害蟲驅除等に用ふるも効なるべく經費に依れば南京蟲の如き蚤の如きは凡そ三十分間にして死するに至ると云ふ要するに此消毒燈に依て容易く病毒を驅除し傳染を豫防するとを得ば田原氏の功德實に偉大なりと云ふべし因に記す秘方有り相の病毒ハ丹毒と稱する一種の傳染症なりと雖ども以て田原氏に依頼して其病室を始め永田町官邸内なる客室及び一切の器具等に消毒を施し又大阪外相の新に買入れたる大磯別邸の故吉川侯爵氏の所有にて氏の肺患に代へて同別邸に病室を設し事あるを以て是亦田原氏の消毒を行なはれたりと云ふ

●遠東洋行の日本銀貨

戰爭以前牛莊に於ても日本銀貨頗る稀少にして通用貨幣としては殆ど用ひられざりの狀況なりしが戰爭中遠東半島に於ける我軍費金の散布と共に日本銀貨の流通盛にして牛莊市場の如き銅錢に對する相場を見るに至れり而して其相場は侮墨銀に比し二百文乃至三百文（銅錢三千二枚乃至四十八枚）の低きを免れざりしに遼河結氷後に至りて形勢一變し日銀の騰貴甚だしく近頃に至りて却て墨銀に比し二百文餘の高きを見る に至れり原因の遠東内地より豆類を牛莊に輸出する日露の士民が其代價として日銀を望むこと多きがためなりと云ふ而して更に該士民が墨銀に比し日銀を擇む所以は墨銀の清國各地に流通日久しくして其摩損の度甚しきのみならず銀面の形象日銀に比し粗にして往々偽造貨と區別し難く之に反して日銀の形象精美摩損の度少く偽造等の憂なきに因ると云ふ我軍牛莊、古城、頭中、同清、遼陽等の要地にハ既に日銀のみにて散布したるを以て日本銀貨の上出でたるも其多くハ遼東内地に流入し目下牛莊の有高ハ一萬圓に滿たざるべし然るに最近市場の狀況ハ右の如くなるを以て日銀の掃底愈々甚しく相場ハ鷹貴の一方のみなりと謂して於て上ハ唯一圓銀に附きて云へるのみなるが牛莊にては多くの貨幣の間々香港銀貨を見ざるにあらざれども多くハ我十錢、二十錢銀貨にして信用ハ尚ほ着の上に在り是亦摩損の度少きに因れり前年の占領地に於て到處日銀の通用を見ざるなく其最も盛に發達せしハ三月中旬にして死するに至ると云ふ要するに此消毒燈に依て容易く病毒を驅除し傳染を豫防するとを得ば田原氏の功德實に偉大なりと云ふべし因に記す秘方有り相の病毒ハ丹毒と稱する一種の傳染症なりと雖ども以て田原氏に依頼して其病室を始め永田町官邸内なる客室及び一切の器具等に消毒を施し又大阪外相の新に買入れたる大磯別邸の故吉川侯爵氏の所有にて氏の肺患に代へて同別邸に病室を設し事あるを以て是亦田原氏の消毒を

美人社會高評博したる化粧品大王

西洋各國にて大流行の實に奇妙なる「無毒せる御梅花粧」別製おあろい一名透明水白粉

獨一ユニスング會社

定價　大瓶十錢　中瓶十錢　小瓶七錢
別製　五十錢　三十錢

◎此別製おしろいハ一目見れば只の清水の如くなれども不思議にいろを白くする事雪の如く玉の如く肌の美なること云ふべし

◎此藥は白粉に代へて容易く病毒を驅除し傳染を豫防するとを得ば田原氏の功德實に偉大なりと云ふべし因に記す秘方有り相の病毒ハ丹毒と稱する一種の傳染症なりと雖ども以て田原氏に依頼して其病室を始め永田町官邸内なる客室及び一切の器具等に消毒を施し又大阪外相の新に買入れたる大磯別邸の故吉川侯爵氏の所有にて氏の肺患に代へて同別邸に病室を設し事あるを以て是亦田原氏の消毒を

賢學士稲生悌先生新方

登録商標

さらく石鹸

定價　鹸石鹸　個十五錢郵稅二錢
蜜石鹸　個十五錢郵稅同

◎肌を濃にし色を白くし皮膚の荒を防ぎ艶を出しにきび、はたけ、しもやけ、あせも、水むしーできもの其他皮膚病一切に大功あり特に注意近來類似の偽品を販賣する者有之ハ間商標下名賣を白くし皮膚の荒を防ぎ艶を出しにきび、はたけ、しもやけ、あせも、水むしーできもの其他皮膚病一切に大功あり特に注意近來類似の偽品を販賣する者有之ハ間商標下名賣

驛番人里設林石鹸　製造　本舗　東京市芝区金杉川口甘一番地
鈴木保五郎

特約大販賣

登録商標

各石鹸製造元澤井栖蝦

東京市神田区淡川町拾弐番地
東京市日本橋区横山町拾番地

歌舞伎石鹸

天野源七

特約店

白光液本店

化粧品小間物齒磨問屋
東京市日本橋区横山町三丁目一番地

㊐三橋兎喜次郎製

東京日本橋区横山町三丁目
同横山町四丁目
同通塩町
同通塩町三丁目
同神田区淡路町
同吹喰町
同横山町
同横山町三丁目
同横山町三丁目
天野源七
平尾賓平
武井善兵衛
武田鶴次郎
丸屋善兵衛
大木口哲合名會社

全國各所の小間物商店及び藥店に販賣所あり

大販賣

小間物問屋
東京日本橋区横山町
定七　佐々木定兵衛
森谷　十左衛

定價　大壺壱錢　中壺十錢　小瓶五錢

●此の藤の露は醫藥の肥伝として世の肥類を為全く有效なる物也化粧水高尚なる美容品

●藥材料を以て製造せり故に藥効顯著なり且つ其性柔和なり故に婦人の髮を高尚に結ぶ事能はず

●此藥は髮の油にして生油を用ひ其他の油水油の代用品なり故に其性柔和なり故に婦人の髮を高尚に結ぶ事能はず

●賣揚所は市販及び全國の藥店小間物店

定價　大器八錢　小器六錢

藤郷造製
東京日本橋区小伝馬町
芳香堂本舗

其他各小間物店にあり

●營業稅法の解釋　營業稅法實施に就ては當該官廳と當業者間に法文の解釋を異にし現に各地に於て紛擾を醸しつゝあるが同稅法に依れば小賣一萬分の十五即賣い一萬分の五を課せらるゝ筈なれども一萬分の五を課せらるゝ筈なれども一萬分の五を課せらるゝ筈第にて此兩者には大なる徑庭あり而して東京稅務管理署は之が解釋を下し卸小營業者に賣却するものゝ又小賣い直接需用者に販賣するものゝ爲し問卸賣と稱するものゝ內米屋より酒造用として砂糖屋が砂糖を菓子製造業者に販賣をするもの及び菓子用として米澱粉を卸商が米穀小賣商に販賣をするものゝ如き問題は至極公平なる解釋を下せるに拘らず東京各區の稅務官吏の法文を狹義に解釋して卸賣を小賣の部類に屬しめんとする傾きあり當業者の迷惑一方ならず爲めに管理署に此解釋を稅務署への解釋に付注意の通牒を發したりと

●米國新關稅に就て

北米合衆國政府が海關稅を引上げんとするに付て其影響する所大なるを以て特に議會に於て朝野を擧げて熟考する所なりしが遂に朝野を擧げて該改正案は否決せらるゝに至れり而して此案は近來米國新聞に依り元老院に於て無念なる所なりしと傳へ自ら慰むる者あり是も現米國通の說にては決して安心すべからざるものゝ大統領マッキンレー氏が該案を提出するに至れるは大なる深意の存するとに即ち關稅を增加して數年來の不景氣を回復し欲中に在り元來米國の南北戰爭の際に不換紙幣を創發したる結果今日と雖も三億弗の大債と紙幣流通を爲に前クリイブランド內閣は一億弗の正金を準備し銀貨引換を爲し貴幣增發より來れる物價騰貴を緩和たらしめんとを謀り以て不景氣を挽回の一策とした為るに米で千八百七十九年時の大藏卿たしるキャマン氏に有名なるシャマン購銀例を發し年少くとも四五千萬弗の銀を購入し之が支拂を爲すに大藏省發行の一種の證券を以てし證券は紙幣同樣流通し無慮一億五千萬弗の市場に通用せらゝに依り今日四億五千萬弗の紙幣流通を見るに至れり故を以て一億弗の正金準備にては迚も引

足らず加之合衆國の海外貿易は昨年を除くの外數年來輸入超過し正金は海外に流出するの實況を呈し海外特に英國より放貸ある負債はシャマンの購銀法其他銀黨の運動活潑なるより他日銀貨國たるの日あるやの經驗に依て諸種勞を費却し貿易にて餘り得たる紙幣を其に大藏省に引替を求め益々海外に向つて流失せるを免換したる紙幣を燒棄若くは國庫に蓄積せしめて增發紙幣を縮少するの手段を執り能はず之を以て政府の不足を彌ゝ賒り再び市場に出し循環極り無く到底其弊に堪へずマッキンレー氏は就任前より大に此に見る所あり紙幣始末の付ざる歲入の不足を補はんが爲無限に使用するに在りと之を知り且するの歲入增加の途を求むるより外なしと確信し初めて關稅を引上るの策を取し者なれ且保護貿易は米國の國是とも見るべき者にて特に夫の日本の絹織物に十割乃至十一割等の背稅を課し伊佛等に比較的低額なるは彼國機業家等が伊佛に比肩し得べきも日本の功勞なる手輕と低廉なる賃錢とに歎賞すべくもあらざるに依り同盟して屢政府に請願する所あるも結果は外なりず人或いは元老院中最も勢力ある可銀論者の歡心買収が爲め就任以來歐州各國に特派使節員を派遣し其實行を期し然る替に國稅案の通過を望の政略を行ひ居れりと說く元老院中には寧ろ氏より經驗、德望共に高き老傑人に乏しからざるを以て期する撓濟の政略に乘らるゝ人は恐らく無かるべしや氏は金黨の推薦に依て就任したるも其本來は是も熱心なる複本位論者なりブライアン氏の複本位に反對したる合衆一國を以て實行せんとするを以てのみ故に其意の在る所を知るべしまたルッシュ氏の複本位說實行は政略に關せず熱心論者なり力が可く元老院の議員氏の義を知るを以て之に助力すべく之と同時に氏の增稅說は以上の諸原因より極力通過の策を講ずるならん那人たるもの今日の有樣決して空想を畫さゝ徒に沈默すべきの秋にあらざるなりと云へり

粗製摸造品に欺かるゝ勿れ

弊舍石鹼製造を創始以來一意專心各國の原料を調査し取捨折衷專ら實用に適合する佳種を撰拔し加ふ熱心勉强と着實なる研究を盡し斯業の發達に伴ふ吐會辛酸を嘗めの結果遂に今日の信用大喝采を博し需用者日に增し製販頗る盛況なる所なり然るに近頃元是れ品質純良價格低廉の致す所と以云へ久愛顧諸君の贊助を再る親切なる他に先だち美麗の粧飾斬新の意匠を要素とし斯業の發達に伴ふ吐會の流行に先ん七月頃の經驗殺多の需用者に引替を求め全國到る處に芳誠舍の名の復都芳ばし品質純良價格低廉の致す所と以云へ久愛顧諸君の贊助を再る舍に至れ元是れ品質純良價格低廉の致す所と以云へ久愛顧諸君の贊助を再る

諸方に於て奸商狡奴頻りに願れ盛りに弊舍の製造品を摸造し或は粧飾品名を同ふして中に粗惡品を埋むるものあり彼れ狡奴等は只一瞬着するに止り敢て寸毫たりとも責任なしと雖も眞個に重大の責任を有する弊舍に於ては其迷惑最も甚敷の為のみなら ず需用者諸君に在ても其不幸不利は是れ一も大なるもの無けれども及び羽車の商標御注目の上必らず奸商狡奴等に購買せられ給はざらん事を偏に願ふ

東京芳誠舍石鹼製造所

芳誠商標東京芳誠舍精製石鹼之雛識也

TRADE MARK

登録商標

弊舍製品以上諸君愛顧品質純良價格低廉博聞市

紀念石鹼

花の司

水晶石鹼

芳誠

餘興

▲東京名物狂歌合（五）

秋の屋列

露交

左　勝　桃太郎團子　　淺草に名代となりぬつく杵の　おとともにせの桃太郎團子

右　　八百善料理　　壺天窓元醫

昔から研すましたる庖丁に　さびた料理をいと光を八百善

左　勝　神田川鰻　　繪馬屋

四方に名の高れる梅が神田川　人の鼻をも通すかばやき

右　　岡野汗粉　　月暦

過したるさへの紙屋に廿冬さへ　薄茶汁粉をいたの岡野屋

左、梅がかむ田川四方にかをれど、右の方人のわる口にい、鼻を通すといふことは、鰻でいなうて牛の樣にやすいはせし。

右、さいをしたいか通せし後、再び薄茶汁粉とい、虎列刺の流行時には不用となれば、滋養にとめる漬燒を食ふべし。

青山　秋風堂

夜嵐に意馬心猿のくるひ出し　とめてとまらぬ八丁の土手

春の日に屋内著の袂をつれ　ひるなるかがけばとかく去ら〜〜

◎狂体附合（加藤葉々）

木の眼のさけるやうなり春の雪　足をのばした蛙一疋

霞花の奥から髪のかけられて　けばる石のころかすを見る

園の口を明れば月の光りさし　点らりと下る棚の蠟たん

午後九時になれば園を喰ひ始め　着た手紙を封切て見る

巣りて寝を静かに蚊がひらりと風に杜若さく

婆々達をよせて和尚の仕立物　あふぐく見ゆる辻の假橋

風山　羽峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯　山峯

山の蹟にまだ程のある三日の月　關田の柴山子まがり直して

手をさせば直にとけるよ初氷　まだたせて置てくしけづる髪

花滿て田蟻茶屋もいそがぬ敷　蟻三ッ來て笠にとまれる

よく揚た子供あそびの凧　洗ひる水にかこつ我面

すりこ木を廻して蛇い急づかひ　小つまを摘んで坐り込ふり

短夜の夢の最中に嗜からす　清水見掛て備ふ小柄杓

初嫁のぱんとふくれた腹かくし　昨日の馳走鯉のすひもの

思ふ儘ならぬ浮世の習ひとて　石の地藏を轉がして行

武士をとりこにせんと勇みたつ　胸かに見ゆる富士の白雪

嘯きつて松に影澄く池の月　掛た行燈にさりしす鳴

紅葉して賑ふ里の小間物屋　守りの札に知れる迷ひ子

花咲てはこりの溜る唐机　嘶りけ掛る旅の長閑さ

◎青山秋風堂君、此頃贈二于道人一、以通鷹七十四餘之眞蹟、通應者蓋天海之高弟也、道人不堪欣喜、賦之以謝

骨皮　道人

蓋因無聊春雨天。松風堂主展華箋。披來中有珍書場。眠氣忽醒意快然。

◎春　春　次郎　　全

如矢光陰難替金。蒼花狼藉奈春深。有情人間無情鳥。唱法華經爽金心。

◎賀茂氏新婚　　全

恰是春風駘蕩天。佳人才子結良緣。謂看麗上亦添艶。花舞鳥歌自靄然。

◎賀茂氏之出世　次郎　　全

窟舅瀬遂上扇堂。奏任不離仰棒樂。俄誕人車京橋畔。或求無服物原坊。若若幾念擊物見。奥樣欣然帶更長。午去留金眞此際。應敬附布本當長。

全世界無比

またのだは

登錄商標　**匂袋兼用玉の肌石鹸**（郵券代用式錢切手に限る）

玉の肌は密着郷四方を拂ひ切袋の代用を爲す日常に必携の高等石鹸なり
玉の肌はきめ細に宜しき色を白く衛生至一切用を爲す日常に必携の代用
玉の肌は純良の桑品を使ひ精製し肌を白く宜しき色を白く衛生至一切
用御送付次第御屆可申上候効能及詳細の本品は副書あり

玉の肌　東京日本橋區蠣殼町二十番地　**本舗**　**稲生商店**

○取次所へ全國至る處の賣藥店和洋小間物及び雜物店等にて販賣せり

最上米國製本目入あつま玉新荷着謹告

今回荷着發賣致し候本入あつま玉は米國本會社に於て多年苦心の末好結果を奏したる精功の奇品にして本目鮮明一見眞珊瑚と識別に難からむる程高尚優美の品に候得ば從來無地東玉同樣陸續御用向きの程偏に奉願候

發賣元謹白

江川商廛賣品廣告

◎鼈甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種
◎舶來最上黑茶本ゴム櫛各種
◎舶來最上人造ゴム無地鼈甲ばらふ各種
◎舶來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ皆ク米國幷ニ英國ノ確實ナル會社ト特約直輸入致シ居候間物品ハ精々御報廉價ヲ以テ販賣仕候ニ付御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區蠣殼町二丁目六番地

發賣元　**本舗**　上總屋　**江川金右衛門**　同町十四番地（電話浪花二百十九番）

小間物問屋　同　**支店**

花見の旅

秋の屋望成

此の春の嵐山の花見て來むと、四月十三日の朝、家を出でゝ西の都に向ふ、散いそぐ上野の櫻ながめ、はし待て嬉峨の花見てとゝ帰りゝこゝ大津の驛にて宿車を降り、義仲寺に詣でゝ、木曾殿と桃青翁の墳墓を見て、宵ごとに何を語る蛾英雄と詩人とふたり苔の下にて

西の都に着いて三條に宿をさだめ、まづ清水寺に參りて、舞臺より四方を眺めてよめる、

見渡せば伊達に霞の薄ぎぬを八阪神社にて有名の乘絲櫻、いま其盛りなり、香薫ゝいづれ薫りや優るひ祇園をやしの糸さくら花

西京市中の區畫、井然たるを見待りて、西京の井桁にも似てはね釣瓶上る町あり下る町あり

市中に驚知らずと書けり百版のあるを、何ゆゑと問へば、若御ゆゑ事なりと答ふるに、若おゆの事とし聞けば驚きらず

二の足踏まで我も買はゞや

あんみる中を嵐山にゆきて見れば、いまだ花ゝ盛りならねど、風景は畫圖のごときに、渡月橋のもとにしもとし佇みて、

旅衣ふきこゝて見れば降る雨に綻びぞめし花もありけり

嶋原の遊廓にゆきて見しに、田口の柳の大門のひだりにありて、千節の糸を繰出だせり、

うかれ女が逕り出口のあを柳人の春中をもと叩てなり

色好む男ゝてとこゝろ

足をなぶれと女護の嶋原

京の人の淫ごりがに、廣澤の池のごとき、東京にもあるまじと云ひければ、よみて示せ、

廣澤のいけの心をひろしてム人に見せばや武藏野のはら

奈良の名所をみめぐりて、師範學校の門内にある古都の八重櫻を見るに、花いまだ咲ゝざれば、

伊勢の御がひつたおなちの八重櫻

けふ此頃ゝには咲たに世ず

京を見ばて一ゝ後、温泉を浴みむと、豆州修善寺村の野雲樣に宿りしに、前の山を嵐山といひ、川を桂川といふと聞きてよめる

思ひきや西の都の名どころを吾親しき友桃の屋うしとより、うまのはなむけに、西陣もおよばぬ筆のあやにしき織出してよみや伏雄の友

とよみて贈られたれば、家に帰りて後、文のはしに書いつけておくる、

若倒れの京の見物八名のみにて故郷にかさる錦だになし（完）

名古屋　道樂亭

五六の同業者辛くも半日の閑を得たれば春の野の氣氣を見やゝて舞鶴の里なる某氏の別荘に集ひしに折から小雨降出しれど却つて一入の詠めを添へ剩さへ頻りに蛙の鳴きたつるを聞しかゞおの〜出鐘目の駅句を吐きたり。枯木も山のにきはひなら

友吉

和助

庄二郎

ためめと蛙の面より猶おしづよくも貪欲へ投じて

ふりかへり見れば居ならん蛙哉

池に鳴く蛙も友よ住居

川一ツ越せとかはらす鳴く蛙

行く人をとめて飛越すは蛙かな

田から田へ流れて蛙越にけり

黄昏や次第に高き鳴く蛙

彌七

○貴嬢紳士必需の香料廣告

真正人造麝香　大瓶拾　小瓶拾

雲南製麝香水　大瓶一個入　小瓶一個入

人造麝香水　一打入　一打入

人造麝香水　一打入　一打入

麝香入御包袋　君の葉　新形縮緬製

麝香入御包袋　袖の薫　舶來製　ブラシ天

麝香入御包袋　都　新形　ヨリヌキ

麝香入御包袋　都　新形　ヨリヌキ

製造本舗　東京淺井旭堂謹製

横山町二丁目　淺井旭堂

○鈎賣ハ小間物屋各位ニ於テ勉强撰

何品ヲ不問御注文ニ應ズ

奥村改　上總屋商店

日本橋區馬喰町三丁目二番地

雲南麝香入

式部石鹸

壹個美艶箱入　代金三十錢

麝香入

歌姫石鹸

壹個美艶箱入　代金廿五錢

麝香入

梅ケ枝

壹個代金拾五錢

麝香入

花の露

壹個箱入　代金拾八錢

麝香入

大日本

壹個代金拾貳錢

理化應用衛生化粧

今回驛社發賣ノ石鹸ハ品質善良高尚優美ニシテ其原料及ビ製造法ハ如キ大ニ奮發シ眼ヲ辛苦ノ末ニ輸ヲ精製シト欲シ

謹啓

弊店義年來水名古屋扇製造販賣罷在各地御得意樣御愛顧ヲ以而益業務盛大ニ相進候段難有仕合社員一同奉謝候扨一昨明治廿七八年戰爭凱旋以來御祝品トシテ需用一時ニ相增シ各地御店樣ヨリノ御注文相嵩ミ夫故昨年中ハ品拂底ニテ折角ノ御注文モ應シ兼候場合尠ナカラス遺憾限リナク奉存候而本年ハ昨年中ヨリ熟煉ノ職工相增新意匠ヲ盡シ時好ニ相適シ候雜品擇山製造有之何程多數ノ御注文ト雖迅速御間ニ合セ可申上候間何卒擇山御用向被仰付被下度偏ニ奉願上候也

東京日本橋區堺江町貳丁目

平谷合資會社

男女を問はず眞の白色美人となるは此藥に限る

第一白色艶美の光澤を出し又鉛毒を消し顏あさ黑くあれ症にさびびバラカス或は無名のぼつぽつ出來顏のハ又は紫色の塊出來あぜも日にやけひとまもやけ等總て皮膚の病をとりさつめをてまかに艶と能く小兒くさい臭毒の類は忽ちぬけすキレー水の製法は全く普通化粧品と異りて

一種特別の調劑なれば彼のリスリン劑又は蒸溜水製の類ならず殊に白粉下に用ゐれば鉛毒を防ぎ白粉のノビよく逆上を防り邪氣を拂ふ當時化粧水の種類多ク雖も外國製品多ク日增に賣高增ト加スるも全ク原料室販ならるの可き

本舗よりは容器を預ゝ詰替も致ス升定價は小十錢廿錢五十錢一圓ためし小瓶金五錢遠國へ送料十錢瓶は四錢以上一瓶送料十五錢相係候

發賣元　兩國米澤町五丁目岡本舗
横濱田町二丁目　大木口吾
永井永進堂

宮内省御御用品

顏の吹出物は只一瓶で直り升の以實に奇妙で御坐い升其上艶の美しくなるのが嬉し御坐升

本舗　東京外神田北房町角無海松しろい小間物店貴藥店唐物店各地かんこうと等にて取次は各國至る處の小間物店貴藥店

山崎帝國堂

問正啓

佛國化學的新發明

新輸入化粧品廣告

佛國生昇府ラボーラトーピーフレザー會社造

人錄登商廣標錄登意匠

麝香薔薇（一名モスローズ）

定價

高等彩色燒付瓶入	高尚彩色燒付瓶入	紙包入
金壹圓	金五拾錢	金廿錢

日本特約一手發賣元

松澤常吉
化粧品部

東京市本橋區堺江町四丁目

特約大販賣

佛國化學的新發明

新輸入化粧品廣告

佛國生昇府ラボーラトーピーフレザー會社造

人錄登商廣標錄登意匠

麝香薔薇（一名モスローズ）

定價

高等彩色燒付瓶入	高尚彩色燒付瓶入	紙包入
金壹圓	金五拾錢	金廿錢

日本特約一手發賣元

松澤常吉
化粧品部

東京市本橋區堺江町四丁目

特約大販賣

東京中村喜三郎　中村喜兵衛　田中萬之助　富岡初次郎　田中直次郎　平尾贊平　井上勇助　井上文吉　伊藤助次郎　佐々木玄貴　佐野小兵衛　佐野文八　佐野傳　森本大塚　柏屋善藏　佐野善衛　三橋鬼喜次郎　井上篤三　佐野小兵衛　齊藤助一　清水次郎　平尾贊平　松本伊兵衛　佐野傳　福原有信　西田染藏　藤井助兵衛　佐野傳　田多助藏　東兵衛　佐野傳　田中直次郎　白井敬化　小林駿吉　栖原市郎　佐野傳　田中助一　清水次郎　平尾贊平　松本伊兵衛

謹告

各地同業各位御仕入の爲め御出京御滯在の際其御旅宿へ商品の見本を携帶店員を差出候は殆んど一般の事慣共右に對し甚だ不便少と相成居候間今各位に對し爲めとして本店は商品を携帶せしめ自宅に御出京の節は直接に御注文の程偏に願上候敬白

定價
袋入金二錢　小箱金三錢　大箱金五錢　圓形銀付
鑵入金八錢　瓶入金十錢　鑵付錢入十五錢高等
名木箱入金卅錢

本品へ明治廿四年創業以來內外各地に非常なる好評を博一從て販賣高之多き事日本全國中第一とす且品質之純良と價格之低廉なるは普く諸君の認むる處なり

大販賣神田區新石町
同同日本橋區横山町一丁目
同同同

◎牛疋に於ける本邦鞦韆賃案況　清國牛疋に於ける本邦鞦賃の景況ハ既に同地駐在名譽領事の報告中我が同業者の參考となるべき二件を抄錄すれバ左の如し

石鹸　從來當地ハ土民ハ主に獸脂を用ひ居り多く上品ハ需要なく安物にて香氣あるもの氣受多し上品ハ需要ハ一個入一箱代四五錢なり洗濯石鹸も亦賣行あり相場ハ二十本入重量箱とも六十五封の物卸賣一函一圓四十錢、小賣一圓八十錢位なり需要ハ邊外客（廣坪省の北境以外を指す）に多し嗜好ハ黄色にて文字の彫込あるもの宜く就中横字最も佳なり

小銀　大阪製にして需要地ハ遠く邊外及ム下等品ハ硝子面に凹凸ありて客受惡しく殆ど上品に限るの変なり形ハ長方形を可とす猶圓形ハ氣受宜から才花紋ハ又ハ蓋の裏面に女人の寫眞を入れしもの佳なり價格ハ一圓三四十錢より六七圓まであれども四五圓の處最も賣行宜し

硝子懸鐘　大阪製にて需要地ハ本天、遼陽附近とす四尺に八寸の縦横かゝ或ハ二尺に一尺七八寸の横額最も上向なり輸ハ南水花鳥を好み人物畫ハ嗜好少し

小鏡及本品ハ仕出地に於て荷造の不完全なるや船中にて破損多く從て賣售に際し高價なるを免れずと云ム一枚の小賣價格一圓五十錢乃至二圓五十錢なり又本品ハ上海よりの輸入品多しと

莫大小（シャツ）　是れ亦大阪製にして當地相場ハ打我七圓位なり該に注意すべきハ本品ハ頭部より被るもの前部を開き「ボタンクロ」附のもの氣受宜し裏毛ハ成べく深濃なるを可とす毛湯さものハ廉價にて賣行なし是れ當地の氣候に因て然るべし賣額地の需要ハ主に上等ハ本品ハ半打入紙箱四十入を一個とす運賃神戸より凡そ一圓内外なり

洋手巾　重に大和、河内地方の製鍋に係る顧客は邊外客に多く尺三より尺六位のもの最も多し鐵初めし枠形鍋（自地に淺黄又は赤糸を以て井字形の柄を縫れるもの）最も嗜好に適す本品ハ冬季土民の襟卷に用ムと云ム一打我七八十錢乃至一圓二三十錢なり神戸より運賃一圓（二百打乃至三百打入）一圓内外なり

花瓶及花械　是れ亦大阪製にして邊外に向て賣行より大形にして蝶、菊又ハ牡丹等寶行宜し安物より以上品の方需要多し卸賣一打我七八十錢乃至二圓迄なり

以上ハ單に當通貨品に附き調査したる一班を記述したるものなり而して滿州に於ける本邦品の販路ハ今後益々擴張せられんとす然るに今日に至るまで本邦品の輸入は特に清商の經營に屬し有爲の本邦商にして之と抗拒を試る者なく彼我貿易上將來有望の利場を擧げて一に彼に委ねる遺憾なりすやに云ム

◎帝國京都博物館開館　せられた帝國京都博物館は去一日を以て開館した同館ハ明治廿五年六月に起工し同廿八年十月竣工したるものにて工學博士片山東熊氏の建工に係り佛國ドリック式に倣ひ純築したるもの館内ハいろゝ十七室に區分し室に依りて陳列品の部分を異にしたるがいづれも稀世の名品寶什にして京都博物館の名に背かずと尤も目下宮中の御愛期中なれば同館にても御遠慮申上げ別に開館式を執行せず時より縱覽せしめたりといふ

◎昨年の英國貿易　本年二月發行せし同國貿易表の示す所に據れバ昨年中の英國貿易ハ輸入總額四億四千一百八十七萬三百三十五磅（我銀貨換算四十三萬六千五百六十七萬八千九百九圓八十錢）にして一昨年の四億一千六百六十八萬九千六百五十八磅に比し増加せる事二千五百十一萬六千六百七十八磅なり其内最も増加せし食物及び飲料の無稅品にして之に次ぐは內國費の製造品なりとす又輸出總額ハ英國及び製造品及び製造品を併せて二億三千九百九十二萬一千二百九磅（我銀貨換算二十三億七千四百十三萬一千四百廿四圓九十二錢）にして一昨年に比し二百三萬二千百九十二磅の增加を示せり輸出品中ハ最少を示せしは化學品、化學用及び醫藥用品、稅品にして增加せしは金屬、絲、織物類及び機械なりとす又外國品及び殖民地品の通過は總計五千六百四十六萬六千四百十四磅（我銀貨換算五億五千七百八十八萬八千十四圓廿錢）にして一昨年に比し出入總額及び外國品殖民地品の通過を合計すれば實に七億三千八百廿五萬九千四百十四磅（我銀貨換算七億七千一百九十九萬九千八百九十二錢の巨額に達す同國貿易の隆盛知るべし

第四回內國勸業博覽會有功賞牌受領

最良香油　ハチヨ代

精撰香油　ゆたか油

直上け廣告

謹告八千代ゆたか油の原料迫々鹿貴仕困迫致居候處湯利は驚昌の悲と信し彌勉强仕候然に昨年來非常の鹿貴と相成候得共猶御愛顧の厚に對し是迄相耐へ候處今や如何ん共難仕場合と相成萬不得止直上け仕候何卒深く御推察被下不相替御用者願候

東京市日本橋區田所町十番地　井筒香油店

渡部三吾生光發明　登錄商標　世界の元祖　ちゑごち　東京發賣元　榊みよじ堂

大機名産　さゝれ石御菓子　發賣所　東海道大磯　龍館　東京銀坐二丁目廿三番地　中川商店

特約販賣店　柳三好堂　敬白

迫白弊舗の製品ハ他の品と異樂料理の調製に付何分御望相如く安價に仕り難く見て燒菓子類の精粗を撰ミ文に依り候へとも特に製品ハ秘水と水質及び粉と安ハ御用者の嗜好に適し可申候也

通油町　柳下藤五郎
横山町二　小田善兵衛
横山町一　小野金五郎
馬喰町一　脇田兵六
馬喰町一　高橋博義
横山町一　佐野善衛
横山町一　水野彌吉
下谷上野町　重田長八
横山町二　森本支店

關西特約販賣店　大阪新久寶幸町三丁目　三久堂　寺澤覺兵衛
兩國吉川町　岩田善藏
横山町一　熊田太郎
横山町一　徳太郎

品質純良芳香馥郁

登録商標

白菊洗粉

此の白菊洗粉の義は舊來の日本たる淺に不係江湖の御賞贊を蒙り日に月に御注文殖るは偏に全國御花主樣の御恩賜の至り強より且つ御仕出諸方の增加を立ては依る者製者の感謝の意を表し不堪候付は此度元祖白菊粉の名稱を冒用し御注文の程伏て願上候間何卒御用向御引立に相成度願上候に付今般爲相廻候間何卒御差出候節は必ず本舗の標印を確と御認の上

郵信省認可　第三種郵便物認可　明治三十年五月十五日　第五十八號　（一）

東京小間物商報

謹告

季候鬼角に不順に候得共各位愈御清適御繁榮之段奉大賀候陳者各位も兼て御了知の如く近時何品の原料原材も概ね拂底騰貴致候得共本組合員は夫是に拘はらず一同に特約を結び各店の製賣品は勿論從來東京の特色製品として各位の御賞贊を博しつゝある新形物流行品を始め其他何品にても總て非常の勉強と薄利を旨とし專ら着實懇切に御取引可仕殊に季節に適する新意匠の粧飾化粧品等も數多出來致居候間不相變陸續御注文之程奉願候敬白

追伸　出荷之都合も御座候間全く御品切に不相成候前御注文書御差廻可被下候

東京小間物
御商組合　一同

全國同業者各位御中

本號は記事殿牛共に輻輳に付特に四頁の大附錄を添へたり

八王子火災義捐者報告（第二回）

一金五圓　日本橋區横山町二丁目　江川金右衛門
一金五圓　同區通塩町十三番地　佐野小兵衛
一金五圓　京橋區銀座二丁目　佐々木玄兵衛
一金五圓　日本橋區横山町一丁目　天野源七

一金貳圓　同區同町一丁目　柏屋善藏
一金貳圓　同區同町一丁目　天野利助
一金貳圓　同區大傳馬町二丁目　沙見儀兵衛
一金貳圓　下谷區車坂町　守田重兵衛
一金貳圓　淺草區駒形町　無名氏
一金貳圓　日本橋區通油町　谷儀助
一金貳圓　本所區横網町一丁目　叠藤吉次郎
一金壹圓　日本橋區横山町一丁目　前川忠兵衛
一金壹圓　武州飯能町　中屋清助
一金壹圓　鳥取市智頭街道川端二丁目　鷗澤安次郎
一金壹圓　東京府下南高師郡寺嶋村　羽根田作兵衛
一金壹圓　下野國足尾　田嶋儀市
一金壹圓　上野國駒形町　井野利八郎
一金壹圓　近江國水口町　中西傳兵衛方　麗嶋鰻造
一金壹圓　芝區宇田川町　清水作兵衛
一金壹圓　信州長野後町　木專助
一金壹圓　高知市播摩屋町　井上作兵衛

一金五十錢　上州高崎田町　木暮彌平
一金五十錢　武州熊谷町　尼張屋熊次郎
一金五十錢　日本橋區若松町　富岡初次郎
一金五十錢　丼に子供綿入三枚　同拾一枚　同よだれ掛三枚
一金五十錢　上州高崎九藏町　横田栗三郎
一金五十錢　日本橋區馬喰町二丁目　魁文堂後藤
一金五十錢　武州熊谷仲町　國田屋萬之助
一金五十錢　羽前國鶴岡十日町　松永嶋三郎
一金五十錢　牛込區細工町　小林幹治
一金五十錢　播摩國北條町　尾芝作兵衛
一金五十錢　上州桐生町　小久保きん
一金五十錢　越前敦賀大内町　堀川治吉
一金五十錢　上州高崎九藏町　長野清次郎
一金參十錢　信州坂下町　松原仙藏
一金參十錢　東京府下上大崎永峯町　今村末吉
一金參十錢　高知市播摩屋町　井上作次郎店員　濱口萬之助
一金參十錢　羽前國谷地　柴田萬藏
一金貳十錢　信州坂下町　松原仙藏支配人　上村榮吉
一金貳十錢

計金五拾圓拾錢

外ニ物品子供綿入　三枚
同　袷　壹枚
同よだれ掛三枚

合計金百拾參圓拾錢

●正誤　前號第一回報告田中花王堂取扱中菊屋秀平は菊原、鯖津屋菊五郎は鯖澤屋の誤り

廣告料　五號活字廿二字詰一行三回迄一回金拾錢　四回以上六回迄拾壹錢同七回以上拾錢

發行所　東京小間物卸商組合事務所

雜報

（禁轉載）

○向差類

○一本箱入物、丁貝、松に鷹、松に鶴、松に鶴、鶴、鶴、

●細有經濟事情

本年三月中米國紐育に於け る經濟事情に關し同地在帝國一等領事内田定槌氏より去月十二日附を以て其筋への報告は左の如し

新大統領マッキンレー氏八樣定ノ如ク愈々三月四日ヲ以テ就職ノ當日例ニ依リ官邸ニ於テ演說セリ其要旨ニ曰ク目下商工業ノ不景氣ハ速ニ之ヲ挽回スルノ手段ヲ執ルヘシ財政ヲ整理シ貨幣制度ノ基礎ヲ強固ニシ汎ク列國ヨリ金銀用本位ノ維持スルノ策ヲ講ズヘシ輸入關稅ヲ增加シ一ハ以テ國庫ノ充實ヲ圖リ一ハ以テ內國ノ產業ヲ保護スヘシ製造家カ同盟シテ其製作品ニ不當ノ代金ヲ徵收シ又ハ運漕會社カ同盟シテ不當ノ運賃ヲ徵收スルカ如キ所謂ハ商工業ノ自由ノ權利ヲ侵害スルノ惡弊ヲ矯正シ汎ク覺良ノ士ヲ採用スヘシ我海運ハ之ヲ擁護セサルヘカラス移住民規則ハ尙ホ改良ノ加ヘ無學不良ノ徒我國ニ渡來スルヲ防止セサルヘカラス文官登用規則ハ改

●我工業に對する米人の批評

合衆國製造業協會より商工業視察の用務を帶びて先頃我邦に派遣せられたるロバート、ポーター氏は本國に於て視察報告を公にしたり其要旨を擧ぐへは我邦の工業が全く手藝に當る其製造するものは多く實用に遠き貨物にして其に實用に適する貨物の製造に就て外國の工業に匹敵する能はす此は決して工業の發達に於て喜ふ可き事にあらずと雖も我工業を戒めたるが一方には我工業の發達の著しきを稱揚して二十五年來日本が實施したる事業の亞細亞各洲を一新するに力あるは恰も英國が歐洲諸方に文化を導きたるに同じかる可しとなし次に我邦の人口を觀察し西洋諸國にては蒸汽電氣及び鐵類を用ひて物品を迅速撰擇するに日本に於ては此の用法は未だ物品の迅速撰擇にも人力を要するが工業を進歩しむる所以に非ず顧然運搬の方法を改良し分配者の供給を豐ならしむ可しと云へり更に進んで我邦細民の生計費が近頃三分の二以上の増加を來たしたる實況の結果に於て日に於て熟慮す可からざるを實施後に於ては愈生計費の増加を促がす可しとへり

●水産博覽會　第二回水産博覽會の事務に目下農商務省内に於て取扱ひ居らるゝ所なるが五月より同事務所を神戸に移し事務員一同該地に赴任の上七月一日より出品陳列に着手し審査員へ九月開會前に至り任命せらるへしといふ

故平尾贊平君傳（承前）

君の名を謂へざるも、小町水の本舗として云へ小三歳の童子も、亦平尾贊平氏の製造發賣品たる事を知る。是れ蓋し君が平生の營業を爲すや、僅に數年前、己に業に土着を發賣しつゝあり、されども、君は、幼時、東洋氏に來る、此時知人、渡邊東洋氏に來る、年齢水戸藩の士族にして、三井銀行に移る。君の製法を授く。且つ之に能書を添へて其奇効を實驗する能はず此は決して工業の發達に於て喜ふ可き事にあらずと雖も我工業を戒めたるが一方には我工業の發達の著しきを稱揚して二十五年來日本が實施したる事業の亞細亞各洲を一新するに力あるは恰も英國が歐洲諸方に文化を導きたるに同じかる可しとなし次に我邦の人口を觀察し西洋諸國にては蒸汽電氣及び鐵類を用ひて物品を迅速撰擇するに日本に於ては此の用法は未だ物品の迅速撰擇にも人力を要するが工業を進歩しむる所以に非ず顧然運搬の方法を改良し分配者の供給を豐ならしむ可しと云へり更に進んで我邦細民の生計費が近頃三分の二以上の増加を來たしたる實況の結果に於て日に於て熟慮す可からざるを實施後に於ては愈生計費の増加を促がす可しとへり

●水産博覽會　第二回水産博覽會の事務に目下農商務省内に於て取扱ひ居らるゝ所なるが五月より同事務所を神戸に移し事務員一同該地に赴任の上七月一日より出品陳列に着手し審査員へ九月開會前に至り任命せらるへしといふ

改良廣告

登錄　靈鶴石鹼　神國系統學靈鶴

商標　帝國鹼嚴

石鹼ノ形大ニ改良ス
定價ハ從前ノ通

此靈鶴石鹼ハ戊申黄海戦捷ノ紀念トシテ舉賣セシニ時勢ニ適合シ又品質ノ善良ナルカ故ニ今日ニ到迄敢其打ノ賣高ニ登レリ依テ報酬トシテ層注意ニシ目方ヲ殖シ品質モ有ハバ倍ニ陸續御注文アランヲ

東京芳誠舍石鹼製造所

登錄　特約商標

まつ乃緑ひ粉

●品質純良芳香馥郁

此の白菊洗粉の義は發賣の日未だ浅き内に在て既に紅白諸賞を獲り且つ日々に進歩し且つ御注文の増加するは偏に御愛顧の賜なり今日に於ては御出品諸君の御引立を以て益々本品の改良に力を盡し猶ほ進歩の目的を以て日々に工夫を凝し猶ほ倍蓰の御愛顧に報ふへき心得なり

●白菊洗粉（袋入定價金四錢）（東京製造匠舗入定價金四錢）

謹の御勉强と且つ御世用諸君の御引立とに依る者と雖も本品は偏に御注文の増加するは偏に御花王製造匠舗の御愛顧の賜なり今日に於ては御出品

登録商標

世界無二衛生劑齒磨玉圓の儀は既ゝ江湖諸君の御了知の通齒磨種類千戸千種中第壹等品也に者て在らざる良品也猶改良に改良を加ゑ口内に奇功ある長襲を加味して口内一切の患を除き齒質を強壯にし銀を堅固になす事等奇功愛顧本舗上候

○東京市諸縣下有名小間物店洋物商に賣捌特約有之候間冷もよりにて冷需用願上候

東京日本橋區小網町壱丁目　鐵橋

製造本舗　伊勢屋吉三郎製

純花長の御精製君のしい

○大箱　○濃。○化粧粉製
小箱　○包　○十個入　○一
改良　○包　○桐箱　○一包　○十個入　○金六錢
同　○包　○桐箱　○十包　○金二錢五厘
正紙　○包　○袋　○十包入　○金四錢五厘
同　○包　○袋　○同　○金五錢五厘
○ねりおしろい
○丸一個入
別　○個　○金二十錢
同　○個　○金二錢
大瓶　○個　○金六錢
中瓶　○個　○金四錢
小瓶　○個　○金二錢
別器　○水おしろい
○正味五合入　○三合入　○一合入　○各種
小瓶　○一箱十本入　○一個　○金八錢
小瓶　○一箱十本入　○一個　○金四錢

商標

萬國無比　高等散

東京市日本橋區小網町壱丁目
小間物問屋
製造本店
近江屋源七

本品は化粧用より多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を撰擇して精製したるのなれバ従来世に行はゝ普通齒磨と共賞に其効を雪白健全なる世界無比に使用して且該品を常に使用するときハ齒質を強壮にし口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白健全なる世界無比に使用して且

製造本舗　天野源七

東京横山町壹丁目（近江屋號）
小間物問屋

善

小間物問屋　丸見屋善兵衛

日本區橋町四丁目
電話浜花四八番

○婦人用小間物等諸品
○櫛掛物類
○新形流行品
○各種
○歩揺
○簪
○拝
○板
○地
○筒
○生
○化粧
○管
○名
○類
○特約
○保證販賣
○製造
○各
○地穴

登録錨標

發賣元　香水本舗　尾崎榮之助

東京市鶴町三丁目壱九番地
内外化粧品石鹸問屋
電話本局一四八〇

定價（フリ出シロ付）金五十錢　金三十五錢　金壹　金六十錢　金壹圓

供口角瓶入弁ニ丸瓶入種々
金六十錢　金十錢
其他斗り賣

謝罪証

一自分儀貴店ニ於テ專用權ノ特許ヲ得ラレタル齒磨白光散ナル物アル事ヲ承知セズ同名稱ヲ製造販賣致候處今回發見ニ相成恐縮仕候者ニ付被成下度段難有御忍召奉存候ヲ以ヲ勘定御許申上ル上ハ以後決シテ壹袋タリトモ販賣ノ商標ヲ偽造萬一他人ニ於テ貴品ヲ取次販賣仕候ハヽ亦遠ル濫用ニ係リ候ヲ以ヲ謝罪ノ意ヲ表スル如件

明治卅年四月廿一日

本所區緑町三十一番地
濱田卯之吉（印）

白光散本店
三橋兎喜次郎殿

發賣元　約特大販賣店

東京銀座佐々木兵衛
日本橋馬喰町五丁目
同京橋銀座二丁目
同神田銀座二丁目
同日本橋通二丁目
同神田淡路町
芝神明前
東京銀座佐々木兵衛
日本橋馬喰町五丁目
同京橋銀座二丁目
同神田銀座二丁目
同日本橋通二丁目
同神田淡路町
芝神明前

田部重兵衛

電話本局一四八〇

全薬香氣善良

尤宜敷品諸品倉得意
勉強案諸品倉得意
近頃類似ノ品顯ハレ候ニ付御注意願上候

賣アラ伏テ奉願候

一刻モ早ク

信用

賣口御販

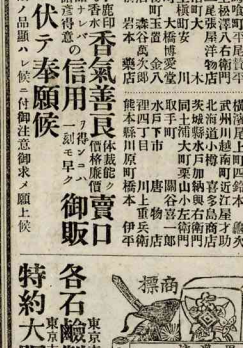
特約大販賣店

東京市神田區江川町拾弐番地
東京市日本橋横山町壹丁目
電話浜花四八番

各石鹸製造元　澤井栖蝦

歌舞伎石鹸

世界無比



○瓶入十錢大瓶弁錢二銭入五錢懸中持十錢
○瓶入十錢大瓶原料は總て鹿遊の學ヲ樂劑師尊が製法を謹て蔡故無責任出放題廣告い不任是弊堂の特○色○なる意匠に至りて尾上菊五郎新意匠に基き故美術會員鈴君に謹て調製致候に他品より高尚優美なる事弊店の大○特○色也○尚又諸品賣價の低廉なる事實以て弊堂の大○特○色也○

東京新橋宗十郎町

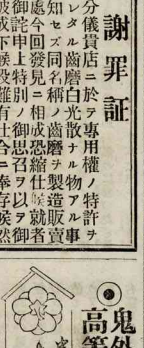
特約大販賣店　伊東鬼外堂

製造場撰擇任者
全横山町二丁目
全江川支店
全馬喰町三丁目
大和屋
見番
丸平
柏屋

藥劑師
野田先生
白壬尾部

鬼外堂發賣口上

高等白粉の



○瓶入一個金十錢二瓶同箱入弁五錢懸中持十錢
○瓶入一個金十錢二瓶同箱入弁五錢懸中持十錢

○蓬山霞

（第十四回）

一瀧子稿

夜へはの〳〵と明離れたれども其身ハ子故の間に迷ふ結城七郎朝光ハ事に臨んで更に動せず天晴勇気の面色の中に自づから愁ひの色の浮べるを見る続いて石京之進仲業是また小素襖の袖引きまくりて甲斐〳〵しくハ扮装しとも綾衣の上心元なく何となく氣遣ひの色を示しぬ之に続いて海野八郎三平太が細引ハ捕へて共に大江殿の御前へ近く引つ据ゑ故正面にハ大江兵庫頭廣元中啓を翁に採つて朝光に向ひ「イヤナニ結城殿御訴訟の趣き一應ハ承知致したが尚精しく承知致し度い定めし左様な場合でハ平偽を貪ふた者も御坐らぬ又綾衣をでハ如何致された　朝倉せの如く咲夜の雨雲も且ハ夜中の折柄とて腰元はしたの共に手傷を受けた者少なからず中太左衛門敗死とす者を始め二名ほど其場に於て最期を遂げたれど除ハ皆刀傷打傷なれバ夫々に手當致して参りたり唯一人綾衣のみハ數多の野武士共に何れへか昇き行かれたるが是全くハ梶原殿若しくハ其邸へ匿ひたる者なる事ハ此三平太の白狀に依つて事明白に相分りました當時翻倉の大小名の中に在て權勢を張る梶原殿が如何なる恨れハ[illegible]て羽林殿御許しも待たず猥りに他の邸へ飛入り搗さへ縛り女童を引さらつて立去るとハ大名ハ加當る町人百姓さへ爪弾きする卑怯の振舞大名が盗み盗賊働らいたとあつて此鎌倉の御大事打捨て驚かれぬ事なれバ大江殿の御調べ願ひ度く斯樣に訴へ申したりと理非を正して言葉ハ[illegible]大江殿筥と聞詰り　廣聞くが如くんバ平太の白狀ハ一大事コリヤ〳〵三平太どやら顔を[illegible]げ唯今結城殿の訴へ如何にも夫ハ相違ないかも温成備ハる言葉の端梶原父子の造り放しに慣れ染みた三平太ハ其窮屈さハ[illegible]方なく二ツの膝を一ツに集めて三ヘイ〳〵恐れ入りました　廣シテ其方ハ梶原父子より頼まれたか　三ィェ〳〵

私が組まれ主でハ御坐りませぬ私へはんの盗人の提灯持の結城殿の周囲を俳徊いて居ました所是なる石京之進殿に生捕られ終くと是へ引出されました御坐りまする命ばかりハ助け下されませと大地へ頭すり付けながら密と石京之進を偷み視す仲業ハ腹の中に此奴中々の横着者と思へバ態と聲を厲まし　廣イヤいふな陳するな梶原殿の身内にて

と言す事ハ御坐りず唯何樣の者に使られて参りまし[illegible]た迄の事別に恐いて個ハ御坐りませぬ卒か助け〳〵と同じ事のみ繰返す石京之進打聞立ち　廣此奴手に負へぬ横着者現在結城殿邸に於て明白に白狀しながら此處へ参ると又かうと縋り命ばかりを欲がるとハ鎌倉武士の面汚し海野殿大江殿の御許しを乞ひ水喰いませてふ遣りなされと聞くより三平太縮み上り　三ァ、ナニし〳〵何もかも申しますから其別命は平に〳〵と叭面下ぐる折柄に表玄關の方に當りて「梶原殿御入りの聲手に採る如く聞ゆしかば廣元ハ聞耳立て　廣ナニ梶原殿が來りしとな那の老爺め何か云ふ黒めに参つたと見える石京之進殿にハ夫なる三平太を預かり暫時青

侍溜へ又結城殿にハ奥書院に於て暫らく御控へ下されと云ひも終らぬに一人の若侍廣元の前へ兩手を支へ「唯今梶原殿火急の用事あつて是非も御意得ず度いとの仰で御坐る如何取はからひ申しましやうや　廣ヨシ是へとヤセ

●對米國關稅改正の建議書

日本貿易協會にハ米國關稅改正に對する意見を定め外務農商務の兩大臣に宛て左の建議書を差出したり

當協會窃に思ふに我邦貿易業の現狀は尚未だ幼稚の域を脱せず今の時に方り前途の障碍を排除し着々誘掖の計畫を爲すハ完全なる發達を後に期すること能はざるべし是れ當協會の杞憂堪へざる所にして朝野共に潜心經營すべき急務なりと信ず

抑日米の貿易ハ我海外貿易中現に最要の地位を占むるものにして近年頗る増進の傾向あり加ふるに我海運業ハ今や米國直航の路を開きたるを以て前途倍々隆盛の機運を迎へんとす是れ日米兩國の爲めに最も慶すべく又最も留意すべきの秋なり

去れ乍今の時に於て彼我共に貿易の前途に横はる利害関係を調ふ務めて便益を進め斯業を興助長し相互の福祉を全うするの策を講せざるべからず然るに頃者米國議會の虚置廷に出でず極端な保護政策に基き我製造品特に絹織物（段通花毯等に課する輸入税等しき重税を以てせんとす此案果して元老院を通過し實施せらるゝに至らハ日本貿易ハ[illegible]に順調しつゝ[illegible]現在に於ける日米の貿易ハ[illegible]幸に逢遇せざるを[illegible]不測の禍を[illegible]政府が國の福利を増殖する良策なれ[illegible]是れ豈に[illegible]

[illegible]

[illegible]

◎巴里博覽會出品の事　明治三十三年佛國巴里に於て開く隣時世界博覽會に付我邦より出品すべき種目其他出品方針等に關して去月上旬農商務大臣より諮問ありたるを受け直ちに出品種目十七部に各分擔せしめ委員等へ爾後數回會合し精査の結果、第十二部（公設建物并に住宅内装飾用に係る什器類）第十三部（絲、織物、衣服類）第十四部（化學的工業用ち紙類）第十五部（各種の工業）の四部門に限り主要と認定し出品入賞格同の為に入賞上金高製造者に製出金高及び賞與の制限を加へ本年、生絲、繭、清酒、醬油、竹材、木蠟等へ博覽會事務局より出品人及其數量を指定するとし其他出品品願書に依り審査員に取捨せしむる事等に去る六日確定し翌七日直に主務大臣に報告したる依り其細別ハ近日の官報に公表せらるべし而して既に發表せられたる出品手續に依れば普通品ハ本年十月三十一日限り美術及び應用美術品ハ來る三十二年九月十五日限り各出品目錄を作り各地方廳を經て主務省に差出すべきものと故に適多少の日子を有するが如しと雖も元來美術品の如き一朝一夕に製作し得らるゝものにあらずして或ハ品種に依れば數年若くハ十數年を要するものも尠からざるを以て期日の寧ろ切迫せりとの感無き能ハず況や當局者ハ其發表を急ぎつゝあり出品者も亦其迅速ならんことを希望し居ると云ふ

◎萬國大博覽會　濠洲に於ける英國殖民地改府の來る明治三十二年シドニー府に萬國大博覽會を開設する事に決したる趣ろ横濱居留地キヤユル商會へ來電ありしと　去る七日より廣島に於て開かれたる全國商業會議所聯合會の議案ハ左の如し

第一號議案　熊本商業會議所提出

商業會議所會員被選舉人資格年齢滿三十年以上を廿五歳に改正を希望する件

第二號議案　同　上

取引所稅を營業稅法を編入せらるんことを希望し其筋に建議の件

第三號議案　同　上

營業稅法改正に付臨時聯合會決議の趣意貫徹の爲め再建議請願の件

第四號議案　函館商業會議所提出

商業會議所聯合會を便宜の爲め帝國議會開會中に東京に相會すると該規則改正の件

第五號議案　同　上

商法第六百九條を修正し旅店營業者背重の責任を輕減せられんことを法典調査會總裁へ建議する件

第六號議案　福井商業會議所提出

營業稅改正の件

第七號議案　同　上

全國蠶絲并輸出絹織物業に係る新營業稅削減の儀請願の件

第八號議案　長崎商業會議所提出

背負郵便物の紛失或ハ損害に對し逓信大臣に於て責任を負ふべき規定を郵便條例中に設けられん事を其筋に建議するの件

第九號議案　同　上

金澤商業會議所提出

再び營業稅法改正の儀を政府に建議し貴衆兩院へ請願の件

第十號議案　同　上

鎖店銀行の發行紙幣引換期限延期の儀に付大藏大臣へ建議の件

第十一號議案　東京商業會議所提出

株式會社に關する商法の規定中左の趣旨に依り改正を加ふる事

一發起及設立の認許に關する規定を廢止する事

一創業總會を了したるとき會社ハ十四日以内に登記を受べき事

一會社ハ登記後六箇月以内に少なくとも株金十分一を拂込ましむる事

一株金十分一の拂込を終るにあらざれば株券を發行することを得ざる事

一株金十分一の拂込前に於ける株式の譲渡ハ會社に對して無効たる事　松江商業會議所提出

第十一號協議案

職工保護及取締の件

各商業會議所に於て法律制定の目的を以て職工の保護及び取締に係る事項を討究し之れが意見を主務大臣に開申する事　岡山商業會議所提出

第十二號協議案

米國改正關稅案の儀に付善後策を講ぜられん事

米國關稅案の改正ハ本邦輸出貿易の消長に關係する所頗る大なるを以て政府へ宜しく善後策を講じ輸出貿易を蹉跌せられん事を外務農商務兩大臣に建議あらん事を希望す

特製
文長
金鶏掛發賣廣告
牧製定長金鶏掛製造主任　金坂天蹄

淨嬢人の紐飾品は總て其品位減ハ模倣休裁等の如何に因て大に其人の品格に關す就中優掛品の如きハ其品優なれば之を用ふる人ハ亦自ら野卑に陷り其品優劣なれば之を用ふる人ハ亦自ら優美なるの故に之を製出して需用に供する者ハ其品の精粗に拘らず價格の高下を論ぜず宜しく高く買ふべし高い買ふ人ハ亦自ら其品の優美なるを見て直ちに其品の優劣を鑑別し其品の優劣を見て直ちに其品の優劣を鑑別し其品の優劣を見て直ちに其品の優劣を鑑別し其品の優劣を

◎墨國に於ける我商品の好望

墨西哥國駐劄辨理公使室田義文氏より同國に於ける日本品に關し其筋への報告ハ左の如し

（前略）陳者過般來申陳置候通近來日本品の當地に於ける景氣實に宜しく府内以上の何れの商店にも多少の日本品を陳列致居候有樣にて個格も意外に高く販路又益々擴張致來候處今日迄日本商人中當地に見本を送るものハ有之候得共現在當地商店に陳列せる日本品ハ多くハ横濱邊外商の手より輸出したる物にて日本人直接出荷致候ものハ嶋に僅少に有之候是巷覓當地商人ハ日本商人を信用せざるより前金にて物品を注文すると躊躇し萬一現品の到着せざる場合若くハ見本品と相違の物品到着する場合等に於て最も慮置に窮せんとの憂慮を抱き又一方に日本商人ハ前金即ち荷爲替に非ざれば品物を出荷せざる恨きにて双方相譲らざる間に立て横濱邊の外商銅り日墨間の商機を覬破し續々出荷致候爲斯くの近來俄かに當地に於ける日本品物の輸入を増加致候次第にて從て前便に申述候通り摸造日本品（重もに鋼逸製にして佛國に次ぐ）稍當地市場に現出致來候勿論日本人の眼より見れバ其摸造品なるハ一目瞭然致候得共當地購買者ハ申其摸造品を以て其誠に日本製品と信じ販賣致候是等ハ要するに當地に日本品の評判販路共に富敵に匙因する者に有之候去れど此際日本商人が依然傍觀の位置に立ち居られに於ては其商權を外商に委するど他ハ摸造品の爲めに日本品物の聲價を失墜せしひるが如き結果を生ずるおそれ誠に慨歎の至りに御坐候に付其邊十分當業者を御警戒被下候磯相願度候尤も今度當地に日本品陳列所を設置する場合に至らば當地の購買者及商人等も日本品の價格品質を稍熟知し來り摸造品よりは其物を望み外商よりも寧ろ日本商人の手を經て日本品を注文するを愛ゆる樣に相成可申と豫想致候然れども之と同時に一方にハ日本商人一歩を譲ッて其所有樣の帳轉を最も重くと之を視ず、公業ハ子孫祖先に向ひて蔑意を表するなかに敢て輕く視ざるなり

臺灣の戶口　去月現在臺北縣管内の戶數十萬七千八百三十四人、人口六十四萬二百四十三人（男三十五萬二百一人女二十九萬四十一人なり）但頂文山堡八土庄出没のため戶籍調査未濟に付之を包含せず

分且當に可有之存候

●公厝及び公業の管制　臺灣總督府民政局臨時調査掛の調査に係る公厝及び公業の管制左の如し（臺灣總督府）

公厝とハ同族世襲家屋の義にして祖先たる者其子孫として合居せしめ分割をなからしむ即ち該家屋ハ所有權ハ同族世襲のものにして族長と雖も擅に之を左右するを得ず

公厝ハ祖先祀の場所にして子孫祭に之を賣與するを得ず

公厝ハ其族繁衍し或ハ數支派と爲り或ハ數十支派と爲る場合に於て一支派の人狀に之を賣與する得ず

公厝内子孫居住の或る一部分を買却せんと欲するとき内に本宗族中の人に向ひて之を賣與すべし族外の人に向て賣與するを得ず

倘し公厝の全部或ハ一部を族外の人に賣却せんとするとき同族の數十人あるとき數百人あるとに拘らず其全數の衆て承諾を表し連名捺印したる以上にあらざれバ賣買成立せず如し其同族中の九人まで承諾したりとも一人不同意を唱へたるとき賣買ハ遂に成立せざるなり

公業とハ同族世襲財産の義にして田園或ハ骨家を公同で所有し其利益ハ專ら祖先祭禮の用に費すものにして子孫ハ輪番に承祭の役を受持つものなり子孫一般に極貧に陥るにあらざれバ更に賣却するを得ず其賣却手續に至りてハ公厝と相同じ

祭店義年來名古屋扇製造販賣龍在各地御得意樣御愛顧ヲ以而益業務盛大ニ相進候段難有仕合祉員一同奉謝候扨一昨明治廿七八年戰爭凱旋以來御祝品トシテ需用一時ニ相增シ各地御店樣ヨリノ御注文相嵩ミ夫故昨年中ハ品拂底ニテ折角ノ御注文モ應シ兼候場合尠ナカラス遺憾限リナク奉存候依而本年ハ昨年中ヨリ熱煉ノ職工相增新意匠ヲ盡シ時好ニ相適シ候雅品專山製造有之何程多數ノ御注文ト雖迅速御間ニ合セ可申上候間何卒贊山御用向被仰付被下度偏ニ奉願上候也

東京日本橋區堀江町貳丁目
平谷合資會社

大改良新製　まげ形

今樣東京流行とう玄ん入まげ形製造廣告

燈籠入別製
自慢形　壹個入
とうしん入り
じまん形
燈籠入ゆんしゅうちん製
新東京形
とうしん入り
三橋形
とうしん入り
やまと形
燈籠製神旬入
麝香形
燈籠入り
さくら形
紋縮子特別製
花王形
並物縮緬入
いろは形
縮緬裏色不揃
福助形
新橋御橋流行
眞燈入
いさみ形

右之外御注文に應じ何形にても製造仕候に付何卒御注支を乞ふ尤も當工場ハ年中各地方より御注文立込居候間御品切の前に可成御ア越被下度候

東京日本橋區横山町二丁目壹番地
小間物問屋
別嬢白粉
本舗　三橋兎喜次郎

●譽高松

第六席

錦城齋　真玉講演
今村　次郎　速記

此方ハ水戸黄門頼房卿ト夜に至て用宮太郎左衛門をお召しになり　頼　黄門ハ京都に留學の時ハ女中の御ハ京東下向に就き右の通りなる御書を渡しなた處ハ折柄闇に

特別練製

○優麝香入高評石鹼

定價壹號一個廿五錢
貳號一個十五錢

抑此鹼は世間在來の物と大に異なり純好なる原料に純白の麝香を混和せるを以て芳香佳烈一たび用ゆれバ麝香に滞なく風に背かざるを以てなり乞ふ益々諸愛顧を願ふ試用之程

優麝香入

高評石鹼

優麝香入

特別練製

發賣元

東京市神田區柳原川岸十八番地

小林富治郎

市内は勿論全國到る處の和洋小間物店及藥舗に販賣致し居候間最寄なる御購求を乞ふ

○貴嬢紳士必需の香料廣告

○大瓶價六拾五錢
○新小瓶價二拾五錢
○其他香料原料に用ゆる各種各樣の人造麝香ハ佛國製元より持參仕候

人造麝香

○瓶價三拾五錢
○其他香料原料に用ゆる各種各樣の人造麝香ハ佛國製元より持參仕候

麝香の芳香を放ち方今普く天下に高評を博したり常に此人造麝香を携帯せられ度殺人の遊蕩身の皆慎となり悪臭を防き他人ふれ難し身の皆慎となり悪臭を防き他人ふれ難し身の皆慎となり悪臭を防き他人ふれ難し

養蠶家諸君へ緊急廣告

從來蠶蚕家諸君ノ常ニ欠ク可カラサルハ鼠燭ニシテ然モ和蠟或ハ洋蠟ノ臭氣强キタメ蠶兒ニ害アルヲ憂慮セラルヽ人少ナカラス然ルニ弊店製造發賣ノ印石蠟ハ高尚優美ニシテ些少ノ臭氣ナク光力非常ニ强ク殊ニ鼠害ヲ被ムルノ憂ナキ己ナラス西洋形六時間大形五時間中形四時間小形三時間保ニ製造シ價格低廉ナレハ經濟上ニ利益アルノ和蠟ニ比シ殆ド一倍强ニ當レリ本年モ既ニ蠶蚕ノ時期ニ際シタレハ幸ニ御使用有ンヲ所ル見本品御入用ノ御方ハ郵券十錢御送付被下候ヘハ右四種ノ見本品鄭送可仕候近來類似品有之候ニ付印商標及弊店名義ニ御注意被下度候

東京市日本橋區馬喰町二丁目（電話浪花九二二番）

製造發賣元　花王石鹼本舗　長瀨富郎

花王石鹼ハ品質最モ善良にして特に皮膚の美艶をまし且衛生上大に効あるハ長くも

宮內省陸海軍帝國醫科大學○

其他各病院の御用を命せられ或ハ博士大家の實驗證明を與へられ治く內外需用諸君の高評を博したるを以て推知せられんことを希ふ

◎賣捌所ハ全國至る處にあり

近來粗製品に類似の脉裁を附し販賣する者有之に付本品の正國制登錄商標及長瀨富郎名義に御注意の上御求等下度候

東京馬喰町貳丁目　電話浪花九二二　**製造發賣本舗　長瀨富郎**

保新　驗　附　麝　香　北
吸　薄　製　零　南　麝　香
パ　イ　プ　荷

定價　共口瓶入

煉おしろい元祖	小瓶四錢	新大十三錢
	中瓶六錢	極大廿錢
	大瓶八錢	別大卅五錢
定價	小瓶四錢	
	大瓶八錢	

本舗特約大販賣店　東京日本橋區横山町二丁目

（電話浪花四十二番）

東京小間物卸商組合中　脇田盛眞堂

今般弊店ニ於テ㊀印かもし勉强致シ廣告仕候得共ハ印及諸國小間物商店株式會社ハ中子ノ外ニ重複ノ品有之候故直チニ御送申上居リ候所全ク外ヨリ勉强ノ品ト御見違ヘ下サレ跡ニ付テハ右ノ如ク第一時ニ不悪ヲ爲今迄ハ御注文ニ不應ヲ候ニ付テハ右ノ如ク第一時ニ不悪ヲ爲ニ先キ多分ノ御注文ニ不應ヲ候ニ付テハ右ノ如ク第一時ニ不悪ヲ爲シ今ハ付製造場ヲ數ケ月設ケ其上ニ無支障大工之ヲ故ニ種々ノ增加致シ候ニ付テハ何ノ不ヲ足ナ驗

反古たゝべ

▲天保年間觸書の寫し（承前）

（天保十二年四月七日）

此度諸色直段引下げの儀被仰出種々渉世話被爲在候儀堅慥き者共暮し方致爲ゟ者仁悪難有ゟ慥意に付町人一同難有難仰商人之分ハ銘々一已限り力の及次商品直段引下げ正路の商ひに可致等之處多人數の内に心得違の向も有之衰向直下げ致しても内實品拵劣らず又ハ目方等相減じとハ今度渉ゟ決有之ゟハ右ハ風聞迄之事に心ハ得共萬一右体の儀有之名前入渉聽ゟハ何樣の渉等め可被仰付も難計恐入ゟ次第に付一同嚴重に相心得商ひ物品猶相樽み並に目方大さ等も此ゟ事以前ゟ厚く心を用ひ勝ゟ簡末の取計不致止路の商ひゟ致ハ樣召仕の者へも篤と申諭置銘々相勵み諸品ゟ直安相成ハ樣出精可致事に付新ゟ諭し上にて不相用聊かにても不正の商ひ等致ハハ無用捨名前ゟ立ハ樣可致ハ間其節後悔被致間敷ハ爲其無而此段ゟ聞置ハ

（同年同月八日）

野菜物等奉節いたらざる内實賣致間敷旨前々相觸ハ慥ハ有之處近來物を好みハ儀増長いたし然更料理茶屋等にハ銘合買求め高直の品調理致しハ段不埒の事にハ聲やきうり茄子ハんげんさハげの類其外もやし物と唱へ雨障子をかけ井にて任立或ハ室の内へ炭閉火を用ハ發ひ立年中時候外れに賣出しハ段奈侈を導く基にて賣出しハ者ゟ不時の至にハ問以來もやし物物と唱候野菜物類決して作り出し又問敷旨在へも相觸候儀其旨存と堅く賣買致間敷候尤魚鳥の儀ハ自然の漁獵にて賣出し候ハ格別人力を費し多分失脚は赤不相成候若し相背き候者有之に於ても吟味の上急度咎め可申付候

（同年同月十日）

諸色直段高の儀ハ元ゟ相場を見合賣買致候得共諸職人手間賃人足賃ハ元方に拘らざる品なれども地代店賃引下げ候に隠ゟ商ひ品ハ勿論諸職人手間賃人足賃に至るまで引下げ候道理に有之候處稽ハ心得違意と相分ゟ引下候向も有之哉に候得共諸職人手間賃人足賃の儀ハ地代店賃にて物体の贈ゟにも不相成右の果竟地主共渉勞高の歩合に當ル候程の地代店賃取立候故自然高直にも相成候間此ゟ守都て寛政度以前の振合に見合直段引下げ諸職人手間賃人足賃の儀ハ地代店賃引下候上同樣の振合に立戻り早々引下げ候樣可致者尤相違ゟの有之不相用ハにおいて吟味の上急度可及沙汰候條町中不渡樣可觸知もの也

近世奇跡考（抄錄）

○佐文山の碑書

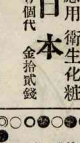
佐ゝ木氏、名ハ襲、字ハ淵龍、文山と號し、墨花堂と稱す、常稱百助、安祖の弟なり、西の館に住す、志し風流厚く、兄安祖と共に、書を以て名高し、故に都鄙諸佛間の屬額、書文山にもとめ性甚だ酒を好み、醉墨筆をふるへバ殊に絶妙なり、世に酔龍の後身と稱ゝ、類本其角ハ安龍に書を學ぶ、ゆゑに文山としたしく酒友の交りふかし、一日文山、宗家の主人に遊び、酒たけなる時、揚屋の主人文山が書名高きを知て、春山櫻花を畫けり、屏風を出して贊辭を乞ハ、文山筆をとりて「此所小便無用」と書す、主人これを見て顔る不興の色あり、其角筆をとりて「これにつゞて「花の山」と書へ、つひに俳諧の一句を成す

此所小便無用花の山

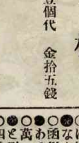
主人大いに喜ひ、ついに家寶とす、其頃わづか壹歩の口さ[illegible]なるが、此所小便無用佐文山」とたはふれいひけるとそ

此事世に傳へて風流の話柄とす、文山享保十年乙卯五月七日病て歿す、享年十七、法增上寺墓中淨運院に葬る

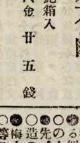
今回弊社發賣ノ石五種ノ石鹸ハ品質善良高尚優美ニシテ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ　曾ヘ斯ク今回精製シタル石鹸ハ其原料及ヒ製造法ハ大キニ意匠ヲ凝ラシ精製シタル者ナレハ當今高等ノ需要ニ應シ大ニ國家ノ榮譽ヲ發揚スヘキ者ナリ



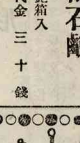
壽香入
花の露
壹個箱入　代金拾八錢



壽香入
梅ケ枝
壹個代　金拾五錢



壽香入
歌姫石鹸
壹個美艶箱入
代金廿五錢



雲南壽香入
式部石鹸
壹個美艶箱入
代金三十錢

理化應用衛生化粧
大日本
壹個代　金拾貳錢

諸石鹸發賣元　東京堀江町貳丁目　平谷合資會社

○改良蠟引紙壽賀（名譽賞牌）

謹て弊店に於て製造發賣致候改良蠟引紙ハ多年研究と數多の辛酸を経て漸く成功の幸酸と雖ども依て其蠟引紙ハ好結果を得たるに付ては不相成右の果竟地主共渉勞高の歩合に當ル候程の地代店賃取立候故自然高直にも相成候間此ゟ守都て寛政度以前の振合に見合直段引下げ諸職人手間賃人足賃の儀ハ地代店賃引下候上同樣の振合に立戻り早々引下げ候樣可致者尤相違ゟの有之不相用ハにおいて吟味の上急度可及沙汰候條町中不渡樣可觸知もの也

○改良蠟引紙壽賀（名譽賞牌）

謹て弊店に於て製造發賣致候改良蠟引紙ハ多年研究と數多の辛酸を経て漸く成功の幸酸と雖ども依て其蠟引紙ハ好結果を得たるに付ては不相成右の果竟地主共渉勞高の歩合に當ル候程の地代店賃取立候故自然高直にも相成候間此ゟ守都て寛政度以前の振合に見合直段引下げ諸職人手間賃人足賃の儀ハ地代店賃引下候上同樣の振合に立戻り早々引下げ候樣可致者尤相違ゟの有之不相用ハにおいて吟味の上急度可及沙汰候條町中不渡樣可觸知もの也

特許
改良蠟引紙壽賀本舗
小間物問屋　善丸見屋善兵衛
東京橋町四丁目
電話第八百四十八番

發賣元
東京橋町四丁目
改良蠟引紙壽賀本舗
小間物問屋　善丸見屋善兵衛

本品の販路益盛大なるに付近頃似て非なる類似品を以て本品の顧客を誘着せんとする者あり有之趣に候間御購求の際は本店の名義御注意の上御註文の程偏に願上候

本品の販路益盛大なるに付近頃似て非なる類似品を以て本品の顧客を誘着せんとする者あり有之趣に候間御購求の際は本店の名義御注意の上御註文の程偏に願上候

（無地廣幅巻十二種あり）一組百錢入

○紀文の傳

紀伊國屋文左衛門は、材木問屋を家業として、世にきこえし豪家なり、性活氣にして、常に花街雑劇に遊びて、任侠を事とし、千金をなげうちて快しとす、故に時の人紀文大盡と稱して、嬉名一時に高し、寛永の頃まで本八丁堀三丁目すべて一町紀文が居宅なり、毎日定まりて盡さし七人づゝ盡をさす、是は客をひかんよりは寧に、あたらし盡をしさかへたるゆゑとぞ、此一事をもつて、其豪富なるを知るべし、そのころ紀文が家に出入せし法名を歸性徹和と云ふ、紀文俳諧を、晋子其角に學び、千山と稱す、紀文、其角、徹雨等とはしたしかりし証、左にあらはす

千山宅をとし忌に

割すゑや八乙女神樂男より　其角

病起　千山より粥を得て（同）

大母衣のうしろを押や瓶の霜　全

千山宅新年雪舟の絵に（同）

隅に巣をとゞこそねらへ五月雨　全

千山亭にて

（朽葉集）

とりかへす老の眼や土用干　敬雨

惜紀文亡父　（同）

手わふりやかたちにやどる膝の上　全

紀文（一代の富家なりとかゝる人おはし、已に父あり、父紀州熊野より江戸にいで、一代にとみけるとゞ）

その女撰（粉のちり）に

三德の撰も浮世無事で裏の菊　千山

香非時に其角一周忌に紀文が手向の句あり

黒方や年い經れとも臘月　全

（紀子に、風流をたてぬきの飛花を惜むとかきて左の句あり（是も其角を追悼の句なり）

今もいさ錦繡の人よみて鳥　千山

紀文が事につきていろ〳〵の奇談あれども、人口に膾ふるのみ、たしかなる証もなければ、こゝにもらしつ「後は昔物語」に寛延の頃、佛譜陳存義、小網町より深川八幡一の鳥居の北側にうつり住む、其座は紀文が寮にて後住みける家なり云々、めづらしき話なれば記しおきつ（未完）

●女中庸

作者不詳

一夫人の妻を親迎る事は第一我父母に我身と興にも能くつかへさせむが爲なりしかるに舅をうらみ姑をにくむ事ならず婦の心より出たる事なりされば素より姑は婦を慈しみ、姑は猶姑に孝行を竭すべき理なり故に誰の人も孝心なる人と讃れんこゝろいさみ不孝なる婦と辱しめ必らずいかり腹たつ然れば孝行なるべき理は人々樣て知れるものなり至極不仁なる婦も人前にては孝行なるふりあるものなり夫婦は いとをしみ大切なる我子の妻なれば其舅姑のこゝろいとをしみ愛せざらんや惡思ふべきの心ぞなられば何の爲にかよび迎ふべきや聚迎ふるときには惜む心露ばかりなければ婦の容儀萬の仕業心質朋の行狀の全く備はらざるゆゑに慈しみ愛するこゝろも次第に薄くなり日に添て意狀心の出ること稀少主角〳〵しく成て不孝にせんとふもふもふ出ましもあるまじ一向に舅姑の心なるべけれど彼の主角〳〵しき品を見せたは陰の噂の好からぬを聞及びて胸にさかひ心の外なる事なと思ふ心に舅姑に事へぬるによりゆゑ〳〵氣にさかひ和を失ふものなり此理をよく〳〵思ふ舅姑は親といつくしみ愛したまふものなりと心得て我父母よりも大切にうちもけて能くつかふべし若舅姑の仕業にあしき事ぞあらば基は舅姑のあしきに拠わらず我身にあしきゆゑなり事のあるゆゑに斯くあるものゝぞと身を省みて我が過ちをよく〳〵あるものゝ改めて却て孝行の實をつくすべし

（未完）

●佛國「ベレーツ」會社製造

金猫印

定價大二十錢小二十錢新小十錢

●此新輸入人造麝香モスクハ歐米紳士淑女社會ニ最モ珍重サルル所ノ品ニシテ品質純良芳香卓絶ナルコトハ從來坊間ニ販賣スル所ノ品ハ大ニ異レリ

●歐米紳士淑女社會ニ最モ珍重サルル所ノ品ニシテ品質純良芳香卓絶ナルコトハ從來坊間ニ販賣スル所ノ品ハ大ニ異レリ

●本品ハ製造元特約ニシテ直輸入ナレバ隨テ原價モ廉ク且ツ薄利ヲ以テ販賣スレバ香料ノ可否量目ノ輕重御比較アランコヲ

●前陳ノ如ク現品月鼈（金猫印）差アレバ（モスクールノ）並ニ（宮野入）ノ三點ニ能ク御注目アランコヲ

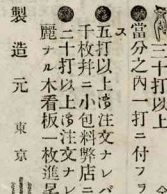
●日本直輸入元　東京横山町二丁目化粧品問屋　宮野入藥舗

●全國一手販賣元　東京神田花房町　田中花王堂

●大販賣元　東京神田花房町　山崎帝國堂

●御賣弘小問物卸商組合御中　御賣弘藥御商組合御中

兎月石鹸



陸軍御用品

發賣元　東京通り油町　清水開花堂

關西代理店　大坂南八賀寺町貳丁目　萩原吉右衛門

新意匠懷中高等器物入

一名一ヶ年保險器物入

香水　麝香水　髮油　レモン油

定價　各金壹錢　瓶　共二錢

此の新製發賣せし四品ハ從來世に有觸れたる陳腐の品物と違ひ實に高尚優美なる新意匠瓢簞形にて嵌られ入れ置き頗る携帶に輕便なり四品孰れも長き極製にして滿ヶ年の保險を附せり右の如く便利且經濟的器物入化粧品なれば續々購求あらん事を願ふ

御賣直段

一打ニ付金一圓十錢
五打以上　一打ニ付金一圓八錢
十打以上　一打ニ付金一圓五錢
全　全　金一圓
當分之内一打ニ付フラフ一枚宛進呈
スエ五打以上ハ注文ナレバ一回限リ引札千枚幷ニ小包料弊店ニテ負擔仕候
二十打以上ハ注文ナレバ一回限リ美麗ナル木看板一枚進呈ス

製造元　東京　山田篤三

東京市馬喰町一丁目

一手發賣元　岳陽堂　平尾贊平

電話浪花六五二番

見本御入用の方ハ通知次第ハ送付可申候也

錄興

◉おとしばなし

東京　竹仙　投

◎三局の調べ

これハ實説で御坐いますして、皆さまも御存じの旧九年十月、日本橋區小網町の現楽亭橋に除幕露顕いたしまして、數多の警察官と荒事いたしました十三名の暴徒の中で、會津藩の浪人正直と云ふ人い、幸くも其場をのがれて行衛知れずと相成りました、此人淺草駒形邊に住んで居りましたので、其筋にてもこれの家へ立寄る事もあらんかと、日々厳重に見張を附けられましたが、一向歸宅いたせ共、此人の家へ立寄る事もあらんかと、日々厳重にて見張を附けられました、一向歸宅いたせ共、此人の家へ立寄る事もあらんかと、日々厳重にて見張を附けられました、一向歸宅いたせ共、此人淺草駒形邊に住んで居りましたので、其筋へ引致に相成り（其頃は三局が刑事の掛りでありましたが、只存じませぬ知りませぬと云つて、どうしても口が開きません、孫官も女おもへバ威しをかけ、さう其方が強情を張ていはぬと云ふおらば、此方に於ても云はせるやうにして云はせると云ふと、おゝホヽと笑ひて夫の行衛知らぬといふが身の眞實、お前方も精出してお責なさるが身のお勤め、勤めと云ふ字に二ツハ女……「コレ〳〵其方は此所を何と心得る、淨瑠璃や芝居でする景清の妻阿古屋のやう女事をすすな「ハイ妾しは阿古屋のやう女事をすてもを宜いと思ひます」「シテそれハどうこう云ふ譯だ「ハイ此處ハ三局三曲で御坐いますから

◎臺所道具

芝　金井生

是は旦那どちらへ「オヽ、牧次郎か此節ハ何處に居る「ハイ神田淡路町を引越して只今では瀬戸物町に居ります……時に若旦那御隠居様ハ御死去りになつたと云ふ事ですが、どうも早やなんとも彼とも如何ものみの上様も御坐いません、私しも御隠居様に二本の杖をヤット持つて居ますから御世話機になりましたから他利あがら無けりやア成りませんのですが相も變らず貧乏暇なしで米櫃がヒチリン茶碗とがたついたり其に女房も此頃は水瓶のやうな腹を抱へて居るから手桶を一ッ提る事も出來ない始末で私しも足を摺子木にして炭取のやうに真黒になつて駈摺廻つて居ますゆゑ、ッイ〳〵上りませんで重々箱々相濟みませんへ「夫いさうと親父や母親は達者か「ハイ有がたう御坐います、モウ両親とも五体はさゝませんが御蔭様でいつも飯食道具に寡して居ります「飯を食ふのハ當然ぢやアないか「イヽエ飯食道具とハ茶碗と家内模膳と云ふ事です

◎骨董店

相州厚木　喋夫

統に骨董の一商店あり武器鐵器を始め種々様々の古金物類を店頭に兵士の隊伍せし如く整列せり此處へ軍人らしき客が入り來り店の片隅にある鐵碗を指さして亭主に向ひ　客　其鐵碗ハ何程ぢや　亭　ヘイ是ハ五十目就で御坐います　客　イヤ就ハ目方でハない代を聞くのぢや　亭　ヘイ當ハ槻で至つて丈夫で御坐います　客　イヤ〳〵直の事ぢや　亭　ヘイ番ハンと云ひますと答へると客人ハ鐵碗買（滅法界）立腹して筒先口先を突らしつゝ亭主を　客　コリヤ斧れハ鍋（なを）抽者に對しねらへ矢ッてよくも〳〵贋鐵碗を銀せるな若し非言品なれバ戸棚へ出せ　客　ヤ有れハ鍋（なを）抽者に對し一發ぬ目り問へバ亭主ハ兵器として　亭　わ鉈もさう鐵輪から御髭を食ひしてハ困り錐ます私しも發藥で御坐いますから銅金かいたい譯で鎗ら手鉢（亜）しめ次第でハどざいませぬ火薬御鉄ハかうと廻ひますと至極穏がに出れ及　客　さうか抽者に於て矢鐵しく銅壺を云ふのでもなし又お前と湯沸し（夜明し）爭ッたとても果しが柄ぬから議論ハ一切筮梅として此品を賣る氣ハないのか夫とも賣るのかハッ錐と撥換をして賣ひ度と云へバ亭主と鍛（答）へて曰く「素より品物が鐵碗の事ゆゑうつて

新案　玉手箱石鹸

（名ニテキン石鹸）

●定價一個十二錢●御賣一打ニ付九十錢五打以上八十五錢拾打入一樽八圓●但シ十打入ニ限リ引札千枚ヲ謝ル●見本御入用ハ郵券拾錢ヲ要ス

全形十六分の一

此玉手箱石鹸は發藥無害なる白色劑テキメン水を以て精煉なしたる品なれば有効無害なるは勿論殊に五十打に對すれば一個鍍金鹸中に打込有之バ使用の節石鹸神を以て得る美術金製製二百個の割を以て石鹸神と云ふ譯なれバ使用の節石鹸神を以て得る鍍金製一個二錢

東京日本橋區横山町二丁目

田中花王堂

東京小間物卸商組合中

發賣元

發賣店

百猫石鹸廣告

定價一個拾貳錢　御賣一ダース七十七錢

大野氏主人ハ尾陽名古屋の産　往年東都に來りて小間物を商業に性　馬唐今世の百猫石鹸を製造す名古屋の人士湖の諸男子ハ之を試用し其意を主人に告げると云ひ主人ハ陸續の恩求ちんと依て背書を

明治三十年十月　吉日　名古屋　横井直白

定價一個拾貳錢　御賣一ダース七十七錢

御白し　百猫石鹸

東京　名古屋　大野金城堂

大販賣

小間物問屋
東京馬喰町二丁目
中川治兵衛
電話十七番

其他各小間物店にあり

堂香芳郷藤

本造製舗

町川小田神保町
電話六番

品用御省内宮
會評品國全會二五回三第

進歩賞

凌駕来舶ス品ヲ

東京馬喰町一丁目三番地
篠崎又兵衛商店

香水

キ　白粧
向ス　髪
日々　蔵用
リ　葵れ香
香　香
ン　小瓶一瓶
　　懐中ポケットス入水
　　持用

永保ツ佳香

大都ぬか百猫齒磨業務讓渡ニ就キ御得意諸君ヘ謹告

時下暖和之候愈御清適珍重之至ニ存上候扨テ從來弊店發賣ノ都ぬか百猫齒磨儀諸君ガ無量之恩引立ニ依リ日増ニ隆盛ニ赴キ辱奉鳴謝候然ルニ近來販路愈シク増加致シ候處元來弊店ハ兼業ノ事故次漸ニ注文ノ應需ニ手廻リ兼候場合モ有之候ニ付今回本業家ナル馬喰町一丁目富屋金五郎ヘ更ニ業務讓渡致候ニ付向後同店ニ於テ發賣仕候間何卒弊店ニ彌益モ引立之程伏テ奉願上候敬白

東京淺草橋際　阿部彦四郎

發賣元　東京馬喰町壹丁目　齒磨本舗　大野金城堂

弊店儀毎々諸君之御引立ヲ蒙リ難有奉深謝候扨テ從來阿部彦四郎商店ニ於テ發賣致來候都ぬか百猫齒磨儀同店ノ依頼ニヨリ今回更ニ業務引繼仕候就而ハ向後品質ニ一層改善ヲ加ヘ精々勉强仕候間何卒倍舊ノ御愛顧御引立ノ程偏ニ奉懇願候頓首再拜

東京市馬喰町一丁目　萬屋金五郎

發賣元　ぬさまー齒磨本舗

追告

百猫齒磨ノ儀財來諸物貨ノ騰貴ニ連レ原料容器包紙ニ至ル迄追々高直ニ相成候ニ付其後ハ殆ト御勤致居候得共又々非常ニ昇騰致最早從來ノ直印ニテハ原料同樣ニテ到底收支相償ハサルノ場合ニ立至リ候ニ付不得止今回大國ノ小匂入共小數百個ニ付五錢宛ノ直上賣行仕候間何卒右御洞察之上宜敷御承引被成下度就而ハ從來ノ品ニ一層改良ヲ加ヘ飽迄製造ニ注意仕候間不相變御賣弘御盡力之程伏而奉希上候頓首

但シ袋入丈ケハ當分ノ内從來ノ直印ニテ御勤可致候

東京馬喰町壹丁目　金城堂　大野金五郎

特約代理販賣店
（順不同各合組名姓）

東京日本橋區横山町　天野源七
全區馬喰町一丁目　平尾贊平
全區全町　小田善兵衛
全區全町　中村喜三郎
全區全町　藤井七
全區油町　柏屋善兵衛
全區全町　付田伊之助
全區全町　前川忠兵衛
全區全町　大坂屋藏
全區全町二丁目　佐野藏
全區全町　秋岩
全區全町三丁目　江川金右衛門
全區全町　汐見屋儀兵衛
全區全町　田中花王
全區全町　見張屋德太衛
全區全町　脇田盛兵衛
全區全町　尾張屋伊勢藏
全區全町四丁目　森井支
全區橋町三丁目　淺草區花川戸町　山上福
全區全町　淺草區材木町　金子榮
全區替然町　丸見屋善兵衛
全區通濱町　今市不老町一丁目　金子榮吉
大坂市南久寶寺町　横濱住吉町一丁目　水留田辰五郎
大坂市南久寶寺町　横濱市石川仲通　寺澤吉次郎
以下全國到る所小間物店賣藥店に無限の取次販賣店あり略す

定價　罐入五錢　袋入壹錢
製造元　東京　大野金城堂

一箱一打入　定價　金十錢
無雙新發明
煉麝香
香通常品より甘倍匂ひ高き

御一箱一打入
一打以上　七十二錢
十打以上　六十六錢
卅打以上　六十三錢

一箱一打入
一打以上　百六十二錢
十打以上　百六十錢
卅打以上　以無代進呈仕候

●煉麝香ハ品よりて多く麝香配合し香氣の佳なるを以て高貴優美なるしむ夏季の暑中汗の臭ひ而已なるも其高位なる種々の悪臭を防ぐ故に貴人に接近する時は少量宛使用あれば自身の不快を感ぜざるべし

●煉麝香ハ男女共身体或は所に塗擦すれば佳香郁々たる塵埃を除き千金匂ひ袋を用ひるに異なり毒取り悪疫流行の際あるにも尤も著しき効驗を有する必要品なり

●煉麝香ハ御愛顧に諸君へ御用命あれば自身の不快を感ぜざるべし

●煉麝香ハ御注文に對しては速に御相談可仕候

●煉麝香ハ未だ天下に類なき新發明の佳品にして多く麝香配合し香氣の佳なるを以て高貴優美なるしむ夏季の暑中汗の臭ひ而已なるも其高位なる種々の悪臭を防ぐ故に貴人に接近する時は少量宛使用あれば自身の不快を感ぜざるべし

製造元　本石灰蒲鉾　日本橋區横山町二丁目　花王堂
發賣元　佐賀屋問屋　日本橋區横山町二丁目　田中商店

關西代理店　播磨谷角　名古屋　伊藤重藏
同　瀬戸物町　喰違　馬喰町　同　玉屋　金五郎　同　馬喰町　同　二丁目　同　横川町　同　一丁目　同　吉川町　同　廣小路　同　山崎町　同　松島町　同　柏屋　同　忠兵衛　同　鑑屋　同　善兵衛　同　盛屋　同　賣哲　同　太郎兵衛　同　太郎兵衛　同　太郎兵衛

▲武富商工局長の演說　去る七日廣島縣會議事堂に於て開ける全國商業會議所聯合會の議案に別項記載の如くなるが同日武富商工局長は起て一場の演說をなし其大要左の如し

日本の面積狹く國を立て國を立ること曼東なしと雖ども商工業は之に反し今日の現狀は商工業と農業の方盛に發達せり然れども農業は土地に限りあり將來の進運を策せんと欲せば大に力を商工業に入れざるべからず彼の商業學校若くハ工業學校等を盛んにして商工業者を養成するの方法は一にして足らずと雖ども之を政府の手に於てなさんよりは民間有力者と共に奮勵せん方遙に優れりと

て國の例證を擧ふる事は常に外國の笑を招けり金國にて一ケ年に產する米を假りに四千萬石とせし荷造の惡しき爲め運搬に際し脫漏する高百分の一を失ひ之を四十萬石の損失と見つゝあり是譬ば今日の四百萬石の損失を見るに一石の代價を十圓とせば實に四百萬圓の損失を見つゝあり是諸君の十分に研究すべき事なり第二品物の不揃即ち品種の多きに反べ種類の異なるに連れ或ハ佳良なるあり或ハ粗惡なるあり或ハ粗惡なるものあり需用者にして嫌惡の念を生ぜしむること少なしなせば是等も出來得る限り其種類を一定する方法を研究すべきなり第三商工業者は十分にせざれ我國の發達ハ覺束なし現今商工業に勤力するハ學校九十ケ所內外のみにて中に就て實際効力あり思惟すべき所に三十ケ所に過ぎず是は決して商工業者養成の道に於て十分効力あらしめて商工業者養成の道に於て十分効力あらしむる方法の如き亦諸君の研究すべき問題なりと云々

▲鐵業銀行株式實況　勸業銀行株式の申込ハ意外の好景氣にして叫ん其實況を報道せしが好景氣の眞況い愈々好景氣を來し發立委員は仁に事務員の非常の困難を背負ひ其調査も從ひて時日を要せしもいよ〳〵申込證書の調査を終りしに其額十四億二分九厘の多額に上り株數は即ち七十一萬四千五百八十五株證據金の一千七百八十六萬二千百圓に達せり之なり扨株式申込の景況を覽ひ更に申込を爲せし者多きも同行設立事務所の受付か一口宛之を受付たりしと以て拂込分は例の際に前後通算せざるべきや否や一問題にして未だ決せず手數を省く黙しよりする時は通算せざるを希望すれと手數の煩雜を省かんが爲に公平を失ふことなからんを期して通算することを至當あれとの說に傾きつゝ前說立委員會に於て開ける全國商業會議所聯合會の議案に別項記載の如くなるが同日武富商工局長は起て一場の演說をなし其大要左の如し

日本の面積狹く國を立て國を立ること曼東なしと雖ども商工業は之に反し今日の現狀は商工業と農業の方盛に發達せり然れども農業は土地に限りあり將來の進運を策せんと欲せば大に力を商工業に入れざるべからず彼の商業學校若くハ工業學校等を盛んにして商工業者を養成するの方法は一にして足らずと雖ども之を政府の手に於てなさんよりは民間有力者と共に奮勵せん方遙に優れりと

て國の例證を擧ふる事は常に外國の笑を招けり金國にて一ケ年に產する米を假りに四千萬石とせし荷造の惡しき爲め運搬に際し脫漏する高百分の一を失ひ之を四十萬石の損失と見つゝあり是譬ば今日の四百萬石の損失を見るに一石の代價を十圓とせば實に四百萬圓の損失を見つゝあり是諸君の十分に研究すべき事なり第二品物の不揃即ち品種の多きに反べ種類の異なるに連れ或ハ佳良なるあり或ハ粗惡なるあり或ハ粗惡なるものあり需用者にして嫌惡の念を生ぜしむること少なしなせば是等も出來得る限り其種類を一定する方法を研究すべきなり第三商工業者は十分にせざれ我國の發達ハ覺束なし現今商工業に勤力するハ學校九十ケ所內外のみにて中に就て實際効力あり思惟すべき所に三十ケ所に過ぎず是は決して商工業者養成の道に於て十分効力あらしめて商工業者養成の道に於て十分効力あらしむる方法の如き亦諸君の研究すべき問題なりと云々

▲鐵業銀行株式實況　勸業銀行株式の申込ハ意外の好景氣にして叫ん其實況を報道せしが好景氣の眞況い愈々好景氣を來し發立委員は仁に事務員の非常の困難を背負ひ其調査も從ひて時日を要せしもいよ〳〵申込證書の調査を終りしに其額十四億二分九厘の多額に上り株數は即ち七十一萬四千五百八十五株證據金の一千七百八十六萬二千百圓に達せり之なり扨株式申込の景況を覽ひ更に申込を爲せし者多きも同行設立事務所の受付か一口宛之を受付たりしと以て拂込分は例の際に前後通算せざるべきや否や一問題にして未だ決せず手數を省く黙しよりする時は通算せざるを希望すれと手數の煩雜を省かんが爲に公平を失ふことなからんを期して通算することを至當あれとの說に傾きつゝ前說立委員會に於て開ける全國商業會議所聯合會の議案に別項記載の如くなるが同日武富商工局長は起て一場の演說をなし其大要左の如し

日本の面積狹く國を立て國を立ること曼東なしと雖ども商工業は之に反し今日の現狀は商工業と農業の方盛に發達せり然れども農業は土地に限りあり將來の進運を策せんと欲せば大に力を商工業に入れざるべからず彼の商業學校若くハ工業學校等を盛んにして商工業者を養成するの方法は一にして足らずと雖ども之を政府の手に於てなさんよりは民間有力者と共に奮勵せん方遙に優れりと

て國の例證を擧ふる事は常に外國の笑を招けり金國にて一ケ年に產する米を假りに四千萬石とせし荷造の惡しき爲め運搬に際し脫漏する高百分の一を失ひ之を四十萬石の損失と見つゝあり是譬ば今日の四百萬石の損失を見るに一石の代價を十圓とせば實に四百萬圓の損失を見つゝあり是諸君の十分に研究すべき事なり第二品物の不揃即ち品種の多きに反べ種類の異なるに連れ或ハ佳良なるあり或ハ粗惡なるあり或ハ粗惡なるものあり需用者にして嫌惡の念を生ぜしむること少なしなせば是等も出來得る限り其種類を一定する方法を研究すべきなり第三商工業者は十分にせざれ我國の發達ハ覺束なし現今商工業に勤力するハ學校九十ケ所內外のみにて中に就て實際効力あり思惟すべき所に三十ケ所に過ぎず是は決して商工業者養成の道に於て十分効力あらしめて商工業者養成の道に於て十分効力あらしむる方法の如き亦諸君の研究すべき問題なりと云々

▲鐵業銀行株式實況　勸業銀行株式の申込ハ意外の好景氣にして叫ん其實況を報道せしが好景氣の眞況い愈々好景氣を來し發立委員は仁に事務員の非常の困難を背負ひ其調査も從ひて時日を要せしもいよ〳〵申込證書の調査を終りしに其額十四億二分九厘の多額に上り株數は即ち七十一萬四千五百八十五株證據金の一千七百八十六萬二千百圓に達せり之なり扨株式申込の景況を覽ひ更に申込を爲せし者多きも同行設立事務所の受付か一口宛之を受付たりしと以て拂込分は例の際に前後通算せざるべきや否や一問題にして未だ決せず手數を省く黙しよりする時は通算せざるを希望すれと手數の煩雜を省かんが爲に公平を失ふことなからんを期して通算することを至當あれとの說に傾きつゝ前說立委員會に於て

を催して右問題を決定せんとすす又検式締定の期い一日も早く之を決せざる時ハ裏付すべき證據金に對する利子ハ申込人の損失に期するより殆んど徹夜の勞に不堪の事なり其職に當り遲く本月二十七八日頃迄に決定しめんとの見込なりと云々

▲物價騰貴の原因　近刊の佛國經濟雜誌に我邦の經濟事情を評して曰く日本に於て從來物價の騰貴せざりし事實ハ銀價者か銀價の不足を示さんが爲に常に引證せる所なりしが近頃に至りて物價は著しく騰貴し今日に於ては物價をして其本來に歸せしむる必要を見るに至れり千八百九十六年十月より九十二年の十月とを比較するに物價の騰貴ハ四割に達せるが其二割五分は金銀價の下落に歸せざるを得ず而して此外に物價の騰貴を招きたる一因は發行流通高の增加　軍事費の高騰に因り額の資金が上流富豪の手より兵卒軍夫農民等に移る事實が時代に比して最近數年間顯著なり殊に良なりしが爲に農民の購買力增加したる事小切手並に信用證券流通高の增加等にして是等諸原因は皆日清戰爭後に於て物價に影響したるものと云へ帝國臣民たる臺灣住民にして內地に渡航する者は所轄警察署者くは憲兵官補の身分證明書を差出して渡航し帝國の下層を呼び之に民名を自記して携帶す

▲帝國住民の渡航　臺灣土民を以て無論臣民と認むる上に其渡航を如何にすべきや是れ一の問題なり先づ同規則を公布し帝國臣民たる臺灣住民にして內地に渡航する者は所轄警察署者くは憲兵官補の身分證明書を差出して渡航し帝國の下層を呼び之に民名を自記して携帶す

▲米は豊作なるべし　米は豊作なるべしに至るも同樣の天候にして雨六、曇三、晴一、位の割合なれハ稻も櫻も、牡丹も藤も花季の三分二を雨に降り損ずされハ米の作日單に多くて肥料を搾ひ我武者の手も今日は綿入の衣を着て肩を搾ひ我武者の手も今日は綿入の襟ハ若者を爲す秋近き今年病なる六の裏に出る小數の兒れ不稔なる年病なるべし六月雨頃に及びて旱魃に出合ひ植ゑつけに困難して山村僻郷の農民等が例の雨乞の驗を爲すことあらんかと或る老人は寒冬多雨の徒年を引證して物議り居たり

弊店製造石鹸ハ總テ香氣馥郁

登錄商標

軍人石鹸廣告

勝菊	桐函	壹個入	同	壹錢
	同大函	三個入	同	三錢
日光	同	壹個入	同	四拾五錢
香寶	同	三個入	同	四拾五錢
撫子	同	壹個入	同	四拾五錢
両開	同	壹個入	同	七拾五錢
軍人	壹個入	壹個入	同	拾貳錢
	同	三個入	同	拾錢

特約大販賣　小間水本店　東京馬喰町一丁目　同横山町二丁目　平尾贊平

倉有餘本舗　同　福見定助

其外和洋小間物店并ニ資藥店ニテ販賣ス

御最寄ニテ御購求ヲ乞フ

石鹸製造元　大阪北久太郎町四丁目　飯田定助

懷別嬪印　中百日香水

定價十五錢の物金形六分の一圖形

此一瓶を帶する時は一百日の間御郡を放つ

一個の錢を添えれは是を襟美懷中袂等宜の場所へ掛置時は其上方針程の微細口より能く百日之間美妙の奇香を發し風れに從ひ身体を穢郡として怡悦增進し悦ひあらしむ如斯未曾有の新意匠品にて高尚優美生經濟共に完備の珍品あれば江湖の諸賢士一卜度御賞味わらん事を乞

東京濱町二丁目
目化粧品問屋
田中花王堂

發賣元

定價登錄

濃厚製造瓶	定價	五拾錢	
普通製小瓶	定價	拾五錢	

磨香水　十錢　同　拾錢　同　五錢

當國代理人　參代用二十錢之家に下

御賣成製一打以上一圓二十錢◎十打以上一圓十錢◎三十打以上一圓十錢◎一番分の內五打に付壱色希者板（改廣告用孔千枚一寫の割を以て無代價呈上仕候）

大販賣店（御名の次は順）

井筒堂　博愛堂　脇田　石田　龜忠　柏善　富岡　大野　大本　尾德
莊園堂　郡築　長瀨　村藤　丸善　岳善　大小　武井　玉置
江川　秋田屋　佐木　三善　近源　萬金　政木
森本　炭定　杉谷　汐見　平尾　其他各小間物店にあり

東京小間物報彙第五十八號附錄

▲移民事業と外務省　近日濠洲其他米國等にて我國の勞働者を排斥するの聲漸くに大を加へ殊に過般米市に於て我移民の上陸を拒絶するに前後三回の多きに及びしより我國移民事業の前途如何を疑遣に抑負に發起したる事業を中止せんとす冬の方針を問ふてあるも今外務省に於ては移民の爲め双方の意情を損じ其結果實為上に逆影響を及ぼすの虞あるを顧慮し例せバ米國及伏濠洲等にハ成るべく移民の渡航を見合わせしめ同時に我移民を親迎する墨其西古及び伯剌西爾の兩國に移動せ多數の移民を渡航せしめ以て相互の利益を企圖する決心の由にて兩國とも熟々心に我移民の來住を希望し政府の由朝西陽政府の如きハ我移民に限り如何なる便益にても與ムべしと申出で居る位にて其實行の曉に入意外の好結果を得べし云ふ而して政府に於て移民事業ハ對する方針を確立し出來得る限り奬勵の方法を講ずるとは其移民官吏の惡弊を矯正するにあらざれバ到底充分に目的を果す能はざるを以て之に必要なる法律の改正案を次期の議會に提出し且つ移民の利益を保護する爲め此の事業に對する取締ハも從來に比して一層嚴重にする筈なりといへり

▲地方視學談　去る教育家の地方視學を評して言へるあり曰く視學機關の必要なること言ふを須ひず然れ共教育會の希望せる所謂視學機關は決して今回新設の如き者にあらざるべし今もし上下聯貫して一定の教育方針を遂行する者とこの必要なる今回設置の地方視學の性質を考ムるに夫の郡視學に對して聊か物足りざる所ありと云はざるべからず視學は縣に屬する一官吏にして郡視學は言ふ迄もなく一郡の屬吏たり斯れ其名目よりして地方視學の位置は個々別等なりして彼れ此を督するにもあらず且つ其職務の如きも地方視學と郡視學との間何等の運庭もなく從つて其俸給も互に相若けり故に名は地方視學の新設と謂ふと雖ども其實質は郡視學の增員に過ぎざる感なきにあらず此國視學間の關係に就ては當局者も實は一向別ちぬ樣に云へり安廣ノ局長は十一ニ關係と言ても別に關係がないでもなく外交に於ては通り職分を異す丈だと從て別ち居らぬ樣に思はれす如ニ地方視學其人は多少資格ある者より選任するの前途は繼を奏し得べし且は思れ有り底此は駄目なりと知るべし止むなくは郡視學中より選任すべけれども左なき地方視學を以て省等の地位として之に就職するに不快と感じ居る郡視學達は無論己の上に郡視學上官りの者を戴く能はざるに服する者なれ共之に反し居る郡視學達は以上は他日必ずや一番しを揚ぐるの必要起り遂には郡視學無止の必要を見んと言ふ迄もなし左れば郡視學機關を能ハざんと欲して却て之を縮小したる者と謂はざるを得ず是れ決して旭人の憂にあらざるなり

視學機關の統一なるは今日何より憂ムべき事たり郡視學の現狀に見る彼等は已に官員を以て遇し官吏養の策を講じ此を以て視學の機關なし故に此等の建議書は空しく却て復半文の價あるなし郡視學第一の不幸は實に是なり知るべし今地方視學を新設するも之を統督すべき機關なく如矣張郡視學に於ては同樣の不平あるは明々白々なり

文部省參事官竹内氏は視學の爲めに出張することなるにあらざるも而かも視學專門の機關なく上下聯貫して督學する者なが故に夫の實業教育の如きもトヤ〳〵西白らぬ感はのめき立つを聞けり實業教育國庫助法成りて實業教育の評判最も高さに際し或人曰はく其地工業の吹聽を以て教育、生徒、規模の感化を設立し以て教官、生徒、規模の感化を以て國庫助を請願したる折ありも當時其評判を養ふし多沿見工業學校が爲め設置の實業教育國庫補助を惑ふ傳聞の結果を收むる能はず且此が爲に地方一般の視學機關として均一の視學より更に一層の覺醒を來さしめん云々

登錄商標　高千代田水　正眞麝香入

藥用おしろい下　小瓶　三錢　中瓶　五錢　十錢以上意匠己願錢瓶入り

本舗千代田水の原法は世界第一の美麗國なり之稱された化粧水の大王なり大喝采を得今は何國々々も用ひざるはなく白色、艶美の佳人と成ざるはなし著聞の成績は宇内の令女貴公子の保証品なり云も敢て謬言に非ず依て弗々有効の新製なるを謹告し弘く御需用の厚きを希ふ

一男女美貌の如く色を白くしきめをよくす。顏のあれ、ひびたけ。にきびのあせも。もとて皮膚のできものを治し其艶玉の如くならしむ

櫻心堂　井高敬述

本舗　新輸入化粧香料廣告

佛國巴黎府、ラー、ピーフレザー會社造人

麝香薔薇（二名モスローズ）

登錄商標　匠意登錄

定價

高等優美絹包壺入　金拾錢
高等彩色燒付壺入　金廿錢
高等彩色燒付場入　金三拾錢
高等彩色燒付壺入　金五拾錢
高等彩色燒付壺入　金壹圓

東京深川西元町一番地陽水本舗

東京市日本橋區本石町四丁目

日本特約一手發賣元　芳香藥種問屋　松澤常吉

化粧品部

東京小間物問屋各店

大阪市八軍寺町三　小栗小三郎

大阪市平野町　飯田治治堂

取次所全國到る所藥店及小間物店に有

特約販賣

大阪市西代　理店

登錄商標

高千代田水

正眞麝香入

藥用おしろい下　小瓶　三錢　中瓶　五錢　十錢以上意匠己願錢瓶入り

本舗千代田水の原法は世界第一の美麗國なり之稱された化粧水の大王なり大喝采を得今は何國々々も用ひざるはなく白色、艶美の佳人と成ざるはなし著聞の成績は宇内の令女貴公子の保証品なり云も敢て謬言に非ず依て弗々有効の新製なるを謹告し弘く御需用の厚きを希ふ

一男女美貌の如く色を白くしきめをよくす。顏のあれ、ひびたけ。にきびのあせも。もとて皮膚のできものを治し其艶玉の如くならしむ

櫻心堂　井高敬述

本舗　新輸入化粧香料廣告

佛國巴黎府、ラー、ピーフレザー會社造人

麝香薔薇（二名モスローズ）

登錄商標　匠意登錄

定價

高等優美絹包壺入　金拾錢
高等彩色燒付場入　金廿錢
高等彩色燒付壺入　金三拾錢
高等彩色燒付壺入　金五拾錢
高等彩色燒付壺入　金壹圓

東京深川西元町一番地陽水本舗

東京市日本橋區本石町四丁目

日本特約一手發賣元　芳香藥種問屋　松澤常吉

化粧品部

東京小間物問屋各店

大阪市八軍寺町三　小栗小三郎

大阪市平野町　飯田治治堂

取次所全國到る所藥店及小間物店に有

特約販賣

大阪市西代　理店

顏艶を白美にする妙劑

●米國大醫ハッサソン氏發明

定價大瓶壹錢中瓶拾錢小瓶壹錢

○男女美貌の色を白くきめかぬ神秘不思議

だのかゆ効あり○日にやけて色の黑きは三四日間用ひて必脫け治し

日にやけるとよみし

●あせ・ぼつ・ふき出物等顏のあれ等は速治す

●ひびあかぎれ・しわいやけ等ひび・あかぎれ・しわいやけ等の人長く用ひて漸次に皮膚の顏面に適する所なし

●いかなるあれ性の顏又あぶら顏にても用ひて美しき化粧

●此水を用ひれば毒なく天然はだの如く美しき美艶を

●大阪市東所松井町三丁目十二　森下喜野

特約代理販賣所

東京横山町二花王白粉本舗　脇田盛貞堂
仝馬喰町一丁目めさまし本舗　金城堂
仝横山町二丁目牡丹精本舗　田中花王堂
仝橋町四丁目　丸見屋号　三田中善兵衛
仝若松町七番地小間物問屋　富岡初次郎
仝兩國深川五軒町五軒目本舗　大木口哲
仝銀座一丁目　小間物賣藥卸問屋　玉置金八
大坂市南久寶寺町二丁目　佐々木兵衛
全市心齋橋筋二丁目八幡筋　山本勉強堂
大坂市心齋橋筋二丁目　森下喜堂分店

●有名外三府各縣地方至る處盛大信用なる

和洋小間物店又は藥店にて特約代理發賣致居

候間御需用の節御注文の際別の程本店發賣の御印刷の證を御望に依て印刷札廣告紙澤山及看板等進呈可仕候間本舗又八各代理店へ御申込を乞ム

▲京城商況　朝鮮京城本年二月中の商況として本邦領事より其筋に送したる報告に左の如し

本月間當地商況は例年不景氣を極むるものにして陰暦正月の準備も終はり各河川に盡く結氷し沿海航行も危險なる上塞威猛烈到底往來に堪へざるが爲め諸商賣い殆んど休業同樣の姿を示せり但中旬以後の寒威も左のみ酷だしからず下旬に入りて一滴江の流洋も舟楫を用ふる等なく以て動き易く剩さへ昨年の豊穣に反し地方民の懷中温かなるが故に田舎行い凡て惡しからず殊に商況を見るならんと各商徒揃へ居るもの、如し支那商い昨年中い其數を左程多からざりしが本年已入りて一寒近の時節未だ以て自由に商業に從事し能はざるに關せず黄海初航の後每船續々入港者增加し而して此等清人い多くい當地に滯在せず殆んど拋力へ向け行商せる者にして四五月の交當國荒井の商賣時に至れば集等の運動如何あるべき最も本邦商人の注意すべき所なりと云々

▲帝國京都博物館　去一日より開たる同館內列品の概況は南部最上位の室に御影及御寫眞を莊重に展列し在り輪奐郡い借畫幾陳列室の餘りに廣からざる爲め僅に寄託品の幾分をのみ展列しあれども大幅物凡百餘點何れも東洋美術の精粹にして就中釋迦金棺出現圖い天平書とも思しく觀經大型宋雕い春日甚光逸と思はる吳道子筆釋迦三尊、隆信筆石大將畫贊及參議先賢畫、傳唐寂業筆文殊菩薩双幅、元の李淩筆龍華繪圖、傳道玄淮后御筆圓魔天、惡心僧都筆山越彌陀、會理僧都筆圓魔天、妙淡筆觀音龍虎二幅、石格筆二祖調心圖双幅等皆優等中の最優等なり又右文書類に豊太閤たい是老宰建立勸進狀、日連大和尚等、鳥居通生坊等の書簡、他熱鎮、定家、空海の眞蹟及び唐吏部尚書筆冥報記、樣の顧野王筆玉篇等亦希代の名品なり而して美術工藝部にハ蒔繪螺鈿陶磁、刺繍織物等の器具あり高臺寺の椅子觀修寺の繡曼荼羅、神護寺の涅槃像等皆場中の優物ならざるなし彫刻部にハ正面入口の廣間に運慶作清盛肖像、運慶湯殿の自作肖像及び聖僧文殊、運慶仙人等あり其奥の中央廣間に九品阿彌陀佛、天平彫刻の吉祥天等ありて上い奈良朝時代より下い德川初期に至る彫刻技術の變遷を徴するを得べし

▲經濟上に於る英獨の競爭　近頃獨逸の製造業は、著しく進歩し着々其販路を海外の諸市場に擴張し英國の製造業の如き之が爲に激烈の競爭を受け損害を被むる所少からざる由なるが之に就てウアーレド記者の陳ぶる所によれば此ハ全く兩國人民の教育に原因するものゝ如し今日學問上の理論に精しく兼て其實際に通ずるの一點に於て世界中獨逸人民に及ぶものなく專門の教育ある獨逸人い熱心に學術を應用して國益を擧るに勉め製造家工場主も高給を拂ふて學者を雇聘し其意見に從して諸般の改良を施すの風あり之が爲に高給を拂ふも毫も吝む所なしと云ふ之に反して英國にハ專門の教育振はずケムブリッヂ、ナックスフォード兩大學の如き貴族の教育を施すのみにして之に依て近世の新智識を得る能はず世人も專門の教育を以て無用の閑手業視するの傾あり此氣風にして改まらずんバ英國の製造業が獨逸の競爭に勝を占ひるハ困難ある可しとなり

▲酒の燗ひになる妙法　大酒を禁せんと欲せバ先ず之を急刷に行ふと宜しからず先づ飲酒を止むる代りに日々食用に供する麹麭を酒に浸して食ふことを許すべし斯の如くにして半月を經過せバ如何なる大酒家なりとも最早を酒の香を嗅ぐことを嫌へば又之を見ることも欲せざるに至るべし然る後其麹麭を解きて飲酒を其腸手に任すもの今再び大酒を爲さゝること請合なり是れ瑞一典に行われたる法にて露國にも近頃聞く此法を行ふものあり皆好結果を見るとぞ云ふ

大磯名產　さゞれ石御菓子

發賣所　東海道大磯　龍館
東京銀座三丁目廿三番地　中川商店

廣告

高尚優美蒔繪彫刻揃物櫛笄
高尚美術蓮彫揃物櫛笄
善

本甲臺蒔繪彫刻揃物櫛笄
惣張臺黑唐代生地繪金地
高評蓮彫揃物櫛笄
新形朱推朱政子●政子鬢
推朱彫揃物櫛笄
各種共柳鬢糸政子形鈌形
上等玉入簪向差長房付簪

東京市日本橋區檜町四丁目
小間物問屋　丸見屋善兵衛
電話浜花四百四十八番

品質ノ良撰ト價ノ廉ナルハ幸福ノ母ナリ

安永舍
廣告
製造法ハ一大改良
品質の保險ハ無限賞讃
安永舍
東京牛込區揚場町　安永舍石鹼製造所

●牡丹の話

指折かゾて待たる櫻の花も今ハ早や住期を過ぎて之に代る牡丹の季節とはなり初富貴の花の看板に偽りなく近年我が牡丹の歐米に輸出するもの年毎に増し來り富源の一とも數ふれた數へらるゝ程にて現に昨年の如きは供給足らざりしと云ふにても其盛況を料らるべし依て今聞き得たる牡丹の話しを一二記さんに

●牡丹の産地

牡丹の産地は埼州池田村附近を以て本場とす而外を始めとし東京其他各地方に稙出するもの其數萬を以て算ふべしとなり但し此牡丹は池田村の根生にはあらず毫木とするべき野牡丹の株を植ゑ両、和泉、大和等より買來り池田村にて上種の牡丹を接ぐなり故に池田牡丹の仕立地にしてその地質亦最も牡丹に適するより花の輪、花の色、他地の産の全て及ぶ所にあらず抑て古來牡丹といへば池田に限るものゝ如くに成たるは初接木の季節は毎年秋の彼岸前後にして接木したる翌年の同季節には已に試力へ稙出すを得るものなり出しの方法は牡丹苗の勢の強きを幸に掘出して根の土を拂ひ恰も牛蒡を扱ふが如くに數本宛を一束となし莚に包み又莚を被ふなりすれば三十日以上六七十日以内は決して枯槁の憂のなしとなり

●牡丹の種類

種類は頗る多し野牡丹の類を除き上種の牡丹のみにても二百餘種を下らず牡丹の色を大別すれば白、紫紅、淡紅、濃物、紫の類、黒紫、底紅等なるべし今其二百餘種の中重なるものを記せば左の如し

●白の部

雪月花（八重）　遙地の月（八重）　白　鶯（八重）
玉天（樂八重）　水晶白（二重）　八十　鶯（八重）
黄　玉（八重）　（以上の部）
峨眉　山（千重）　雪ノ　蓮華（千重）　渡世白（八重）
富士の峯（千重）　（以上白の部）

●紅の部

三笠山（千重）　明石潟（八重）　岩戸鏡（八重）
（甲の部）
樽　重（八重）　太神樂（萬重）　勇獅子（八重）
岩戸崎（八重）　明石浦（八重）　（乙の部）

●紅の部

喜見城（八重）　菊ノ　牡丹（千重）　天の原（八重）
濃れ　鳥（八重）　日の丸（八重）　東　先（八重）
（甲の部）
光輝　山（八重）　朝日　淺（千重）　飛　龍（八重）
洞入獅子（八重）　世々　榮（八重）　紅　麟（八重）
日の　飛（八重）　金獅子（千重）　（乙の部）

●濃物の部

横（八重）　西行櫻（八重）　常盤津（八重）
白　菊（萬重）　（甲の部）
櫻（八重）　桃　園（八重）　涙　手　麥（八重）
色の　鍬（八重）　（乙の部）

●紫、黒紫、底紅其他色の部

花　紫（樂八重）　嵐　嶺國（八重）　鹿毛織錦の紅白黒
芙蓉　連（八重）　雪　燈　籠（八重）　甘　泉　殿（八重）
金羅　輪（八重）　不　情　金（八重）　錦　嶋（柿の子）
（甲の部）
雲　井　殿（樂八重）　嵐　嶺　國（八重）　鹿毛織錦の紅白黒
（乙の部）
東　錦（紅白）　鎌　田　藤（萬重）　八　重　霞（八重）
銀　環　輪（八重）　東　錦（紅白）　花　大　臣（八重）
藤　乙　女（千重）　鎌　田　錦（紅紫白）　雪　瀧（八重）
玉　獅　子（八重）　（以上の部）
滝　化　粧（千重）　（乙の部）

表中甲の部とあるは高貴の花にして所謂墨入好のもの又乙の部とあるは概して素人の愛する花なりとや此外百四十餘種あれども左のみは記しぬ

●牡丹の海外輸出

外國にも牡丹多けれども我國の牡丹は亦一種異なれ始めは年々數百株づゝに過ぎざりしが近年に至りては其數倍に増加し特ち昨秋の如きは非常に注文あり之が実際の事にして其需用に感ずる所なり然るに輸出の供給を為したりといふ左れば本年秋季には又々注文多からんと云ふ故本場なる拙州池田附近の苗木仕立所にては專ら其準備中なりとか

男女を問はず眞の白色美人となるは此藥に限る。

姿も此通りキレーに成ました

第一白色美人の光澤を出す、鉛毒を消去し顔あさ風くあれ症にさゝびソバカス或は無名のぼつ子つ出來顔の皮むけ又は紫色の塊出來あせも目にやけひゞ赤もゆけ等總て皮膚の毒をとりさめをこまかに艶を起し小兒さゝ鉛毒の類は然ち治すキレー水の製法は全く普通化粧品と異りて一種特別の調劑なれば彼のリスリン劑又は蒸溜水製の類なら寸殊に白粉ト用ゆれば鉛毒を防ぎ白粉のいびよ一段の艶を加ふ當時化粧水の種類多しと雖も外國輸出多く日増に賣高増加するも全く原料官敷故なる可き

本舗までは送賃を頂き鉛替も致す、升定價は小十錢　本舗は四錢以上一瓶送料十五錢相係候

廿錢五十錢一瓶送料十五錢遠國へ送料十錢

本舗　東京外神田花房町角無毒たしべ香粉箱　山田帝國堂

發賣元　隅國東澤町五番地　横濱吉田町二丁目　永井永遠堂

東京市本橋區蠣殼町二丁目拾五番地

吾妻留元祖　渡邊茂七店

大阪市東區四丁目　渡邊支店

毎月五日十五日廿五日三度出版
定價一人　西　森　武　城

●轉居廣告

一オハヨーサン歯磨本舗今回勝手ニ付左ノ所ニ轉居仕候間何卒舊ニシ御用向之程偏ニ奉願上候

追テ當分特約ノ御相談ニ應シ候間速ニ御申込被下度候

オハヨーサン本舗　日本橋區久松町三十五番地

小間物卸商各位御中　川口長春堂

匂ひ入御用　汗はしき　賣元　本舗　日本橋區馬喰町二丁目　大販賣　東京日本橋區馬喰町一丁目　平尾賛平

大販賣　汗はしき　賣元　本舗　日本橋區馬喰町二丁目　長谷為次郎

匂ひ入御用

大販賣　日本橋區長谷為次郎　長谷為次郎

大販賣　日本橋區長谷為次郎　長谷為次郎

大販賣　日本橋區長谷為次郎　長谷為次郎

大販賣　日本橋區長谷為次郎　長谷為次郎

大販賣　日本橋區長谷為次郎　長谷為次郎

（一）　第五十九號　明治三十年五月廿五日
郵便報知社　郵便物認可　第八種　明治廿一年一月六日

東京小間物商報

雜報

（禁轉載）

手柄類

▲毛糸、金入、金なし、江東織、三升、菱田織、糸安田、金安田、七寶、糸網、上中並、モス金入、金なし、モメ三浦、金入、金なし、友禪、無地等非常の賣行なり

龍紗絞類

▲眞紗織、鳥、椽川、市松、無地、役者紋、藤、賣行あり

小町三浦、麻の葉、乙女絞、其他各種共、是亦賣口よし

鹿の子絞類

▲八ッ麻、七ッ麻、六ッ麻、五ッ麻、菱田絞、上中並、京極、五十本、四十八本、四十五本、四十三本、四十本、三十八本、二枚入子共賣口よし

三浦織、上中並、各種とも非常の賣行

右各品とも、紅、水、淺黃、肉、桃、檜葉、青、淺水、濃黃、鼠、緋、黑、金茶、藤、薄藤、紫、緋、黃、其他變り色等なり

より物類

▲金花山、新四段、銀角捻太細、金角捻太細、有平より

糸奴、金奴、千鳥、段千鳥、金中結、中引かけ、何れも糸卷物の賣行頗るよし、品間に合はず

長房付類

▲小町打、四ッ打、源平打、捻打、くるみ打、撰機各種とも、直段三〇以上十〇位まで非常の賣行なり

金細、極太、太、中、細、賣口よし、同房付物は相變らず

糸繩房付、八ッ捻、四ッ捻、三ッ捻、二ッ捻、

房付房なし共賣行あり

▲結び掛、各種ともモール、生花、ゴム新形物賣口よし

▲瀬川縮、上等、並、無地、上等、並、相變らずの賣行なり

▲金鶴丈、金銀共、八分、寸、寸二、賣行あり

▲金鶴丈、金銀共、八分、寸、寸二、大いに賣行

▲紙卷賀、上中並とも相變らずの賣行

▲美人小町瀬川、非常の賣行

▲白髮引、一ッ、二ッ、三ッ、四ッ、相變らず賣口よし

櫛類

▲黃楊、五寸、四五、四二、四寸、三八、三五、福九、丸髮、相變らずの賣行

▲櫛楊、丸髮、福九、丸髮、お初、政子、各種とも賣口よし

▲本黃楊毛筋立、二寸五分、二寸二分、二寸、寸八、寸五、寸九、寸品川、形ハ總て始、品川、角丸、鼠齒等なり

▲竹櫛、紫檀耳、白耳、鰐刀木、黑檀、上中並とも相變らずの賣行なり

鏡類

▲懷中鏡、美人、名所、寫眞、ロール繪、石版繪物、上中並とも賣口大によし

▲小町鏡、白生地の摸樣付非常に賣行あり

▲額縁鏡、桑、栗、塗縁等にて四枚行より半枚行

▲天眞鏡、六寸、五寸、四寸、三寸、相變らずの賣行

玉類

▲ゴム玉、壹入、無地共、薄色物、三分、三五、四分、四五、五分、六分、丸中とも大に賣口よし

同根掛ハ三分より四分まで賣口よし

一文字類

▲ゴム一文字、白、肉、繪付、無地、三分、四分、五分、六分、七分、賣行あり

▲アルミ石入三ッ折、四ッ折、五ッ折、石目、越目、總て高尚なる品向よし

▲糸卷モール入一文字、四分、五分、六分、賣口よし

▲銀揚り形付一文字、三分より六分まで相變らずの賣行あり

右一文字類はいづれも夏季に向ひ一層の賣行を增したり

▲改ッ環引紙卷賀と金鶴丈は丸見屋商店にて發賣し、ある改良鐵引紙卷賀ハ寒氣の季候により、ゴム入の乾燥の憂ひなく四時共にサラ〳〵として粘着等の事なきは即ち改良の改良たる眞意なるべけれど近來ハ又一層其製造に歌すると同時に實用者が非常品にあらざるを知り得たるに今年に比し數倍の注文高なる由、又金鶴丈長と云へるも同店の發賣品なる金銀とも追々新意匠の模樣も數多出來て頗る高評賞行きよしと聞きぬ

▲月顏印兎月石鹼　月顏寶以來未だ幾許の日を經ざるに拘らず日本橫濱通り油町なる清水開花堂より發賣の兎月石鹼なり而して同品の原質純良なるハ今更茲に說明するまでも無く左に確証あり他ハ推て証明し知るべし

貴家發賣に係る兎月石鹼試用するに品質純良且つ其効能著明なるを以て皮膚洗濯及び濯腸用之れに適合し最も化粧的其他的共に有効無害なる事を確認す

明治三十年五月十日

傳國理化學第一課卒業生
化粧品分析師
大內正明㊞

▲勉强の結果　昨年の今月前川忠兵衛氏の店を退きて亡親の遺業を繼ぎたる馬喰町四丁目遠州屋藤田定吉氏の其蔵猶故若冠なるにも拘らず歸家以來孜々汲々として只業務の外他を顧みざるより勉强の即ち幸福の母となり但し得意先も殖ふ隨つて信用も厚くなり今や昨年に比すれバ殆んど幾層倍の繁榮を極むるに至りたりと云ふ古人曰く勤勉なる人ハ萬物を化して黃金と爲すの術なりと宜なる哉

本組合録事

▲新規加入者　今般本組合へ加入届出あり人名左の如し

淺草區永住町百〇七番地　井村房吉君

▲組合員轉居　今般都合により轉居せし旨届出ありし人名左の如し

日本橋區久松町三十五番地、轉居　川口常三郎君
同區若松町十六番地、轉居　萩野勝之助君

▲組合員廢業　本組合員たりし淺草區下平右衛門町岡部喜四郎君へ今般都合により廢業せしに付隨て組合を退去する旨届出ありたり

▲廿五年紀念博覽會出品受賞者　豫て京都廿五年紀念博覽會へ出品中本組合員の受賞を得たるなりと聞くなれど未だ猶聞き漏したる人名もあるべく又其物品なども詳らかならざれど斯い何れ取調べの上次號の紙上に再記すべし

進歩銀牌　松平小六郎
同　守田重兵衛
進歩銅牌　長瀬富郎
同　平尾鈴平
有功銅牌　小林富次郎
同　篠崎又兵衛
同　輪島義兵衛
同　藤巻藤衛
同　荒川知三郎
同　小林富次郎
同　田中吉兵衛
同　長瀬富郎
同　武井龍三
同　三橋兎喜次郎

▲大宮の出品と富豪の事勅　來る明治三十三年佛國巴里に開設せらるべき世界大博覽會へ我邦出品の事に就て本紙に屢々記する所あり、世人も知る如く佛國は美術其他の美術工藝に於て世界中有數の國柄なると且世界流行の淵源となる樣なれば、此度の出品は美術及び美術工藝品には近來世界の注意を惹くと同時に或點に至ては他の模造に得て からざる一種の特色を存し、故に本邦の出品は自ら此種のものを主とせざるも故に本邦の出品は、自ら此種のものを主とせざるも可らずと、我當局者始め一般人民の輿望なるも此種大作の出品は、我當局者始め一般人民の輿望なるも可らずして我富豪家は自家品位の上より一種國家に對する義務として熟心之を期せざる可らず其之を爲るは各富豪家たるもの單獨或は合同して出資し技藝者に充分の手腕を揮ひ一品數品金に値する如き各器を作らしむるにあり是は空想の如くなれども富豪家が數奇の別郎を修樂し或は浮佚なる遊蕩の爲め浪費する金を以上の如き有益なる事業に利用すれば名譽は自家の手中に歸し何時迄も家門を各器を作らしむるにあり是は空想の如くなれども富豪家が數奇の別郎を修樂し或は浮佚なる遊蕩の爲め浪費する金を以上の如き有益なる事業に利用すれば名譽は自家の手中に歸し何時迄も家門を否らざれば折角の好機會を過ぎしむるのみならず我國の面目にも關する次第なれば大隈裁は其邊に深く憑念する所ありしもこれを恐れるの將と共に富豪家を招待して一堂に相會し胸襟を披き以て一致の勸誘する所あるべしと云々

▲國屋の景況　本年も追々繁を催し來る就ては相場とも昨年に比すれば脆て五分乃至二割强の高直なるは已に紙幣間の上りたる上に一竹三割方賃費し紙を先づ割半方上向きになりし爲めなる由差極の上物、百本につき二は八圓内外、同中物六圓内外、並物は三圓八九十錢、上四圓四十物六圓内外、並物は三圓八九十錢、上四圓四十五十錢留りなり次に並張りの分上物百本五圓五十錢内外、同中物三圓二十錢以下二圓九十錢位なの間、同下等物は一圓内外の景況なる總て上物は昨年に比して一割方至一割半、中物は二割、並物は三割以上の上向きと見込み居るが先づ大差なるべしと云

●諸會社の動向と資金　我國經濟上右傾の事柄は世人も知る如く佛國は美術其他の美術工藝に於て世界中有數の國柄なると且世界流行の淵源となる樣なれば、此度の出品は美術及び美術工藝品には近來世界の注意を惹くと同時に或點に至ては他の模造に得て からざる一種の特色を存し、故に本邦の出品は自ら此種のものを主とせざるも故に本邦の出品は自ら此種のものを主とせざるも可らずと、我當局者始め一般人民の輿望なるも此種大作の出品は、我當局者始め一般人民の輿望なるも可らずして我富豪家は自家品位の上より一種國家に對する義務として熟心之を期せざる可らず其之を爲るは各富豪家たるもの單獨或は合同して出資し技藝者に充分の手腕を揮ひ一品數品金に値する如き各器を作らしむるにあり是は空想の如くなれども富豪家が數奇の別郎を修樂し或は浮佚なる遊蕩の爲め浪費する金を以上の如き有益なる事業に利用すれば名譽は自家の手中に歸し何時迄も家門を否らざれば折角の好機會を過ぎしむるのみならず我國の面目にも關する次第なれば大隈裁は其邊に深く憑念する所ありしもこれを恐れるの將と共に富豪家を招待して一堂に相會し胸襟を披き以て一致の勸誘する所あるべしと云々

▲國屋の景況　本年も追々繁を催し來る就ては相場とも昨年に比すれば脆て五分乃至二割强の高直なるは已に紙幣間の上りたる上に一竹三割方賃費し紙を先づ割半方上向きになりし爲めなる由差極の上物、百本につき二は八圓内外、同中物六圓内外、並物は三圓八九十錢、上四圓四十五十錢留りなり次に並張りの分上物百本五圓五十錢内外、同中物三圓二十錢以下二圓九十錢位なの間、同下等物は一圓内外の景況なる總て上物は昨年に比して一割方至一割半、中物は二割、並物は三割以上の上向きと見込み居るが先づ大差なるべしと云々

●諸會社の動向と資金　我國經濟上右傾の事柄は世人も知る如く佛國は美術其他の美術工藝に於て世界中有數の國柄なると且世界流行の淵源となる樣なれば、此度の出品は美術及び美術工藝品には近來世界の注意を惹くと同時に或點に至ては他の模造に得て からざる一種の特色を存し、故に本邦の出品は自ら此種のものを主とせざるも故に本邦の出品は自ら此種のものを主とせざるも可らずと、我當局者始め一般人民の輿望なるも此種大作の出品は、我當局者始め一般人民の輿望なるも可らずして我富豪家は自家品位の上より一種國家に對する義務として熟心之を期せざる可らず其之を爲るは各富豪家たるもの單獨或は合同して出資し技藝者に充分の手腕を揮ひ一品數品金に値する如き各器を作らしむるにあり是は空想の如くなれども富豪家が數奇の別郎を修樂し或は浮佚なる遊蕩の爲め浪費する金を以上の如き有益なる事業に利用すれば名譽は自家の手中に歸し何時迄も家門を否らざれば折角の好機會を過ぎしむるのみならず我國の面目にも關する次第なれば大隈裁は其邊に深く憑念する所ありしもこれを恐れるの將と共に富豪家を招待して一堂に相會し胸襟を披き以て一致の勸誘する所あるべしと云々

▲國屋の景況　本年も追々繁を催し來る就ては相場とも昨年に比すれば脆て五分乃至二割强の高直なるは已に紙幣間の上りたる上に一竹三割方賃費し紙を先づ割半方上向きになりし爲めなる由差極の上物、百本につき二は八圓内外、同中物六圓内外、並物は三圓八九十錢、上四圓四十五十錢留りなり次に並張りの分上物百本五圓五十錢内外、同中物三圓二十錢以下二圓九十錢位なの間、同下等物は一圓内外の景況なる總て上物は昨年に比して一割方至一割半、中物は二割、並物は三割以上の上向きと見込み居るが先づ大差なるべしと云々

●諸會社の動向と資金　我國經濟上右傾の事柄は世人も知る如く佛國は美術其他の美術工藝に於て世界中有數の國柄なると且世界流行の淵源となる樣なれば、此度の出品は美術及び美術工藝品には近來世界の注意を惹くと同時に或點に至ては他の模造に得て からざる一種の特色を存し、故に本邦の出品は自ら此種のものを主とせざるも故に本邦の出品は自ら此種のものを主とせざるも可らずと、我當局者始め一般人民の輿望なるも此種大作の出品は、我當局者始め一般人民の輿望なるも可らずして我富豪家は自家品位の上より一種國家に對する義務として熟心之を期せざる可らず其之を爲るは各富豪家たるもの單獨或は合同して出資し技藝者に充分の手腕を揮ひ一品數品金に値する如き各器を作らしむるにあり是は空想の如くなれども富豪家が數奇の別郎を修樂し或は浮佚なる遊蕩の爲め浪費する金を以上の如き有益なる事業に利用すれば名譽は自家の手中に歸し何時迄も家門を否らざれば折角の好機會を過ぎしむるのみならず我國の面目にも關する次第なれば大隈裁は其邊に深く憑念する所ありしもこれを恐れるの將と共に富豪家を招待して一堂に相會し胸襟を披き以て一致の勸誘する所あるべしと云々

▲國屋の景況　本年も追々繁を催し來る就ては相場とも昨年に比すれば脆て五分乃至二割强の高直なるは已に紙幣間の上りたる上に一竹三割方賃費し紙を先づ割半方上向きになりし爲めなる由差極の上物、百本につき二は八圓内外、同中物六圓内外、並物は三圓八九十錢、上四圓四十五十錢留りなり次に並張りの分上物百本五圓五十錢内外、同中物三圓二十錢以下二圓九十錢位なの間、同下等物は一圓内外の景況なる總て上物は昨年に比して一割方至一割半、中物は二割、並物は三割以上の上向きと見込み居るが先づ大差

◎直輸出品同業組合紀念祝宴大會準備會

第十議を通過して一の法律となりたる彼の直輸出品同業組合法は、最に五二會、大會に於て議決し政府に建議したるなれども去る明治十七年勅令に基づき始めて設置せられたる各業組合運用の結果、一の制裁なるより夫等不備の点を補ひたるに過ぎずして、此等の各組員等の新組合法の實施を喜び信頼法を補ふに足るべし、之に反し、此内の多數の内地向き商工業家にして、直輸出品の販路を有する者は、此の新組合法に属し輸出品に關係する少數なるも新組合法に向て、輸出品のみに限らず其希望によりて内地向き商工業者と雖も該法を適用することを得ると、便法あるより、此等の議組合に多年の宿望を達せし祝意を表すると共に將來各組合の聯鎖をつけ置かんとの考にて東京貿易雜貨商組合正副頭取、榮田源助、藤田勝助、柴田惣助、四組合が首唱者となり同業組合法發布の祝宴大會を催さんとして當小間物卸商組合へも左の趣意書を同送ありたり

同業組合法發布祝宴開催之趣意

産業の發達商利の開進は朝野一般の翹望せる所なる由に拘らず維新以降實業界に於ては制度整く應し爲めに同業者間一致共同の實なく相互德義の制裁殆と備はらず各人個々に特の浮利に滅び實利的經綸の方針を

（三頁より續く）而して十六日の大會當日は午前晴天なりしに拘らず午後一時頃より賀詞新貨商、活版印刷業、呉服太物商組合、中央本部、東京小間物問屋組合、同卸商組合外八十餘の各組合正副頭取等錦旗百餘名（本組合よりハ三輪善兵衛、江川金右衛門の兩氏出席）並て侍設けたる築地一丁目柳花園に會合せり鑑て席定まるや本會主唱者、河原橋立氏、會員一同に挨拶あり夫より主唱者、同氏に代て福嶋宣三氏の演説及び佐久間貞一、岩谷松平、山口鐵之助等の諸氏談話發布の沿革幷びに精神等より今日その祝宴會を開催すべき必要あり旨を快活の辨説を以て拍手喝采の中に說き了り夫より會員一威勇を起せり終りに主唱者總代諸川總助氏登壇に就き、開會の主旨ハ既に諸君の報告ありしを以て之を贅せず大祝會開催の事ハ最初三二の有志組合よりの協議が原となり遂に本日諸君の來會を煩はすに至りしなり宜しく熟議協定せられたしとの旨を告げ事務員山本商健氏開催豫定の日時準備方法及び費用等の事項を報告し終て報告し夫れより甲論乙駁種々討議の末主唱發起者の外本日の來會員中より主唱者の指名を以て更に二十名を撰出し之に主唱者を加へて三十名の委員を設け諸般の準備方法を調査する事とし即ち左の如く決定したり

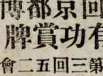
東京貿易雜貨商組合　主唱者　藤川總助君
同　柴田源助君
同　塚木喜太郎君
同　加藤助三郎君
同　岡田徳之助君
同　岡田來吉君
同　福嶋宣三君
同　山本商健君
同　佐久間貞一君
同　阿部孝助君
同　林九兵衛君
同　三輪善兵衛君
同　谷松平君
同　嶋田總兵衛君
東京陶器問屋組合
東京絲問屋組合
東京洋紙商組合
同　東京團扇中央本部
東京漆器問屋組合
東京小間物卸商組合
東京菊煙草製造營業組合
東京陶器問屋組合
東京硝子問屋組合
東京鼈甲工業組合
東京時計工業組合
東京諸鼈甲工業組合
東京象牙型錦造業組合
東京洋傘骨工業組合
東京挽物職人組合
東京地本彫畫彫業組合
東京扇子玩具製造業組合
東京石工組合
東京更紗染業組合
東京石工組合
日本橋區西洋洗濯業組合
日本橋區大工職有志團
東京版本工組合
右當環一同示諸の上議會員は午後六時散會し委員二十名は別席に於て協議會を開き種々打合せを爲したる後東に日を下して第二回委員會を開くの事となり午後九時頃散會したり

●祝賀會　水産物組合、同卸商組合、同鮮魚組合、同青物組合、同魚類問屋組合、同卸問屋組合、同鹽魚問屋組合、同鹽魚卸問屋組合、同鹽魚問屋組合、同鹽魚問屋組合、同鹽魚

宮内省御用品

今回京都博覽會ニ於テ有功賞牌ヲ領受ス

第三回五回二會全國品評會



進歩賞

永ク佳香ヲ保ツ

凌駕船來品ヲ

キリン香水

白薔薇香小瓶　ナンス入

すみれ香　ボックス

向日葵香　懷中持用

桂髪用大瓶香水

東京馬喰町三丁目二番地

篠崎又兵衛商店

○都ぬか百猫齒磨業務讓渡ニ就キ

御得意諸君へ謹告

時下溽暑之候益御清適珍重之至ニ存上候扨今般來弊店饒賣ノ都ぬか百猫齒磨儀諸君ガ無量之ご引立ニ依リ日増ニ隆盛ニ赴キ毎奉電謝候然ルニ近來販路拡張シタ候處ニ來弊店ハ兼業ノ事故自然ゆ注文ノ愈ゝ繁盛ニ付今回親戚ナル馬喰町一丁目萬屋金五郎ヲ引立テ賣仕候間何卒弊店ニ弼益

程なく入來る梶原平三天紋の肩いかつがましく
葉　是ハ〜大江殿何時にない御受近頃　恐縮
に存じ申すと廣元が前へ座を占ひる廣元ハ膝おし
前め　廣何時にない此方より先づ沙貴殿の沙來
訪ひ用の節ハ何事で沙坐るの　葉左れハ事別儲
でも沙坐らぬが何か噂に依れば昨夜當谷の結城殿
下館へ多勢の曲者押入つて綾衣殿いふ愛姫を勾引
した當まし所詮若し其事が實なれば拙者もか
見知を申さうと家來の者に申付け事の實否をた
した所拙ハ以ての外奇怪千萬何か拙者が結城殿
の愛娘綾衣殿の儀について結城殿と確執に及び昨
夜人知れず邸宅を抜ぬて其館へ亂入したもので曲
者は即ち梶原だと根もない取沙汰結城殿沙邸内
に於て拙者に意恨を含む者が惡ざまの噂を立てた
かは知らず拙者に於て慢なとゝハ驚ばかりの憂久
ぬ事況して梶原ども云はるゝ大名が盜賊に等しき
振舞をなすとハ有り得べからぬたとれ言さがない
壹の噂も忽ち取上ぐるには及ばぬと市に三虎の譬諭
もあり自然お耳へ這入つた時若しや左樣かと思さ
れて一旦は左迷惑に存する故殊さらじめ沙承知を願
ふ爲わざ〜お尋ね申して沙坐ると己れに喧ら節
あれハ言臆ながらの人柱出る杭ハ打たるゝ身とも
知らず人を愚にせし面がまち憎さも憎しと思ひな
がらも左あらぬ顔の大江廣元片頬に苦笑して打笑み
つゝ扨ハ其事でわせられたか成程結城殿下館へ狼
藉者亂入のふもむきハ訴へに依つて承知したが夫
先に於ては貴殿のお耳の素早き事イヤモウ毎々
時ながら恐れ入つて沙坐ると夫とハ云はず慮しも
に梶原の躍起となり　葉ナニサウ〜ハ聞かいで是
体拙者と結城殿とハ無二の左垣ひに親しく交ま
るを見て妬み を抱く似而非大名扨ハ性ない下郎共
が雨家の中を割かうとして根もない事を觸廻り殊
に今度のお疑がひに付き拙者詮議の上使示たさ
はも沙辭退申すに申されず迷惑ながら罷り越した
を能い機にしてのさかしら言イヤモウ奢顔ふて女
も申さぬ此後の事も沙坐るも云此儀ハ公み當き願
ひ度いと聞くより廣元ハ眉宇成程根も
ありてハ拙者名義に係れる故前以て お斷り申した
次第と口にハ云へと眉字の間にハ氣遣ひの色顯ハ
れたも廣元は何やらん打頷つき　葉其儀如何にも
承知致して沙坐る夫に付一寸お逢はせ申度い人物
下されと願ふてハ沙坐らぬ無實の疑かひ受くる事
隱し　葉是ハ何人で沙坐るな　廣イヤ沙存知な
い管ハ沙坐るまい現在貴殿召使ふ家の子逸見三平
太と申す者何と見覺えが坐らうなと沙云はれ
て梶原ハ今更包むに由もなく　葉左樣仰せられ
て成程三平太で沙坐る此奴又野伏り左樣の仲間へ
這入つて道なら ぬ事を致すと見ゆる大江殿貴殿ハ
未だ沙承知御坐るまいが此奴中々の横道者お拙
者ハ既に暇を與れて御坐るが生置て爲にならぬ
奴早く首はねて お終ひなされと聞いて三平太目を
丸くし　三平〜ハ旦那ハ事を お云ひなさる
昨日までハ三平太願むく〜と仰しやりながら首は
ねよとハいふ情ない斯いふ細目に遭つたも元ハと
云へバ お旦那の爲か悲く命乞をして下されと平
分云はせず　葉　獣れ下郎が頼んだ不時な奴古主
の恩を知らぬ奴ハ大江殿の手を借りるに及ばず拙者
自身に手に掛ると突立上を　葉ヤレ待たれよ梶
原殿斯く捕はれの身となつて私ならぬ上の罪人
滅多に お手ハ下させずさぬ お知りとあらバ夫で
よし退て此方より沙汰致す迄先づ今日ハお引取り
なされ　葉左れバ お暇申し左りながら此奴の言葉
滅多に お信じ下さるなと　廣ご念を押し別を告
て立出る所へ　山重忠と　和田左衛門尉　仁田忠常
馬を驅つて駕籠を右側の前に梶原に遮近ひしか
バ梶原ハ見ぬ振して去らんとするを重忠ハ呼留め
　葉梶原殿お待下されい。

●米統領に反省を求む

米國が輸入茶に課稅せんとするの提議ハ我が茶業
組合に及ぼす影響　ハ少に付日本茶業組合中央委員議
長大谷嘉兵衛氏ハ米國大統領に對し去十四日午
後五時左の電報を發せしたり。
日本茶業者ハ貴國に於て製茶に關稅を賦課せら
るゝの議あるを聞知し両國貿易上一發意に達へ
す日本茶業者百廿五萬人と代表し謹て閣下の
反省を希望す。
日本茶業組合中央委員議長　大谷嘉兵衛
北米合衆國大統領マッキンレー閣下

◎釜山商業會議所建議

朝鮮釜山日本商業會議所ハ外務大臣ニ向ヒ本邦貨幣ヲ當分ノ間在朝鮮日本居留地内ニ流通セしめ及ビ一覽拂手形ノ發行ヲ許モ得ニ付建議書ヲ提出もることに決した由なるが其趣意ハ左の如くなりと

去る廿七年月朝鮮國政府ハ我一圓銀貨ト量目品位同一にして形体も亦殆ど相同ニ然るに同條發布以來其銀貨ハ極て少く故に右本邦人ハ勿論其政府ニ於ても我銀貨を信用するの厚き海關税及び他の租税の如き皆我一圓銀貨を以て上納するとを得ず從て此國銀貨と交換し得べき紙幣を市場に流通し使利なる本邦人ハ非常の便宜を得たるなり然れども我邦貨幣制度改革の實ハ向後數年を出でずして圓銀ハ其ノ之を交換し得べき紙幣を廢止するに至らバ上來既得の便宜忽ち地を替へ再び彼の不便利なる銀錢を用ふると雖も我々居留商人ハ勿論朝鮮政府及び一般人民も実大なる不便を蒙るに至るべし之に因て從來既得の便宜を將來に保持すべく左の三項を實行する事

第一、我貨幣制度改革に係らず當分の間在朝鮮日本居留地に限り地方貨幣として一圓銀貨の通用を許す事

第二、在朝鮮日本居留地の我銀行をして相當の準備を設き一圓銀貨と交換し得べき無記名式一覽拂手形の發行を許す事

第三、右手形の種類ハ一圓、五圓、十圓、二十圓の四種とス事

抑々朝鮮貨幣ハ特別の方法を要し且つ純然たる銀貨國なれバ深く國内の事情を伺察し前二項を實行するに於て本邦貨幣ハ及び朝鮮一般の便宜を失うすることなく内外人共に彼の不便なる銀錢を用ひ事貨幣上の便宜を得べし

本年三月法律第三十八號を以て公布せられたる臺灣銀行法に據る我内地と其趣を異に其第八條に於て無記名一覽拂の手形を發行することを得せしめたり故に在朝鮮我居留民に於ても前三項の實行を許されたしと云ふにあり

◎外貨輸入と金融

世人ハ外貨輸入せらるれバ直に金利低落を呈するものゝ如く思惟するも事實ハ却て反對の現象を呈するやも知れずと云ふものあり其説に曰く本年に於ける清國より收容する償金凡そ五百萬圓及び夫の政府が日本銀行の手を以てサミュル商會に賣約整ひたる公債三千五百萬圓都合凡八千五百萬圓と假定し内軍艦製造其他にて海外へ支拂ふ可き額凡六千萬圓を引去る殘額二千五百萬圓は我國に入るべし然れども此等は財政計畫に出でたるものなるを以て直に資本として市場に攪通せらるゝものにあらず政府ハ軍事費其他の諸工事に既に支拂ふものにして多くハ中等以下に分配さるゝものなるを以て此等の貨幣ハ資本家に歸められ再轉して銀行者の手に歸するに豫月若しくハ期年を經ざる可からず去れバ金融を緩和せしむるに至る迄に容易にあらざるべし否却て中國ハ多數人民が勝負力增進の結果として物價騰貴すれバ商業家の共到の資本を需用すると多きを加ふる場合に即ち金融の緩和に加はるに由り金利ハ騰貴せざるを得ず外資輸入せられて金利の低落を來すハ畢竟我資本家が從來所有する所の諸公債が外國市場に賣却し其得たる金を資本として市場に放下する場合か或ハ外債を以て軍事公債の消却に充てたる場合にあらざれバ望むべからず一概に外資輸入を以て我經濟界を忽ち潤澤なりし低利の資以て事業を興すべしと空想するハ大早計の甚しきものなりと云へり

◎商品の標本取入れ　在新宮坂右衛門國彌事ブローリー氏は自地の我帝國貿易に關列の商品標本に依り同一の標本數品注文致度旨麗田同商事へ依頼したる趣にて同商事の報告を添へ農商務省商工局長は横濱商業會議所へ向け其旨を通知せり

●本品の特色

晋通品に比し價格低廉にして量多し
光澤鮮潤麗にして而つも水く以けず
太つもなくあわられ入なし

製造元　東京日本橋區小伝馬町一丁目小間物問屋　森川積善堂

本舗　東京日本橋區橋町四丁目小間物問屋　丸見屋善兵衛

特約發賣元　東京神田須田町　長岡商店

特約發賣元　日本橋區橋町四丁目　小間物問屋　丸見屋善兵衛

電話四八番

専賣特許　人造珊瑚珠

梯機部　緒〆及簪玉之部

甲號六本六錢　三錢分五甲號七十錢
乙號四本三錢　三錢分五乙號五十錢
丙號十五錢　丙號十五錢
丙號十五錢　丙號十五錢
丙號十五錢　丙號十五

●日歐間直接貿易所見

日本歐洲間ニ於ル直接貿易ニ關スル所見ニ付濠堡駐在帝國名譽領事マルチンブルセヤル氏ヨリ昨二十九年十一月四及ビ同十二月入日附ヲ以テ其筋ヘの報告ハ左の如シ

直接貿易ノ盛ナル二十分ノ力ヲ致サントス

日本ノ歐洲ニ希望ヲ知悉シ且ツ年來數種ノ貿易ニ對シ此目的ヲ助成シ多少ノ功ヲ奏シタルノ際偶々滿堡ヲ通過セシ學士美濃部氏ニ會シ談話セシ以來ノ一層深ク將來ニ於ケル該貿易ノ緊要ヲ認メリ並シ同氏ハ本件ニ關シ十分ニ稟告セラルヘシト信ス

事理ノ眼認コリ該計畫ノ遂行若クハ全然棄却セラレンヤ思レ独ニ採用セラルヘキ方針ノ要點ヲ詳シ此目的ヲ助成シ多少ノ功ヲ奏シタル

及ハス余ハ之ヲ自由ニ他ノ國ヘモ賣渡スヲ得ン假令ハ試ニ五百段ヲ賣捌キ去リ其ノ代價ヲ以テ事ヲ創メン其結果テ答忽ち五千段ノ賣捌キ益々增加シテ將來ニ日本絹製事業ヲ助長スルニ至ルヘキ余信ジテ疑ハサル所ナリ

製造法ヲ支拂ッテ多量ノ賣物ヲ輸入スル能ハサルハ論ヲ俟タス肆ニ滿足スヘシ會社ハ當初其支出セシ手附金ニ對スル利息等ノタメ利益ヲ減スルコトアルモ損失ヲ招クコトナカルヘシ蓋シ在獨逸二三ノ商店ニ於テ賣捌ク時ハ漸ク他ノ競爭者ノ注意ヲ惹キ其結果トシテ日本ニ直接ニ信用手形等ヲ以テ現金支拂ノ注文モ多ク出ッ入ッ隨テ至誠ナル直賣ヲノ端緒ヲ啓クヲ得ン

日本國ノ各所商業中心地ニ出張店ヲ有スル會社ノ設立關シ且ツ余ヲシテ右會社ノ代表者タシメ以テ日本ニ於テ多少ノ困難モアルヘシト雖モ是ニ敢テ排除ヲ能ハサルモ可ナリト思ハレス蓋シ日本輸出入商ノ利益ノ爲メ又適當ノ指導ヲ望ム人々ニ對シ直賣ヲ開始シ擴張スル一定ノ方針ヲ得ルモノトセハ右等困難モ意トスルニ足ラサルヘシ

大賣五商ハ能ク其目的ヲ達スルノ方法如何ナル知ルヘシト雖モ細店小舗ノ多數ハ會社ノ補助アルニアラサレハ依然從來ノ如キ小規模ニ安スルノ外ナカルヘキノミ（以上十一月四日附）

高等商工會議大會ニ關スル本年十月十四日「ヴヤバン、ウ、ヴ、ショーク、メール」新聞ノ所訳ハ大ニ余輩ノ注意ヲ惹キ且ツ該事件ノ緊要ナル幾多ノ障碍ノ解説センカタメ余ハ之ヲ實驗上ヨリ右ニ關スル私見ヲ吐露セントス今前途ニ橫ル障碍ヲ乗クレハ左ノ如シ

日本商人ノ多數ハ歐洲商業上ノ慣習ヲ熟知セサルコト

聚多ノ利益ヲ得ヘシト爲シ從テ外國商會ノ手ヲ經テ購求スルモノヨリ往々高價ヲ要求スル等ノ事實アルコト

注文ニ應ヲ其執行上注意アルコト

大低ノ場合ニ生スル時間ノ損失アルモ外國商人ハ如何ナル商業上ノ申込ニモ直ニ從事スル

歐洲購買者ニ於テ信用ナキコト即チ外國商會殊ニ歐洲ニモ其店ヲ有スル商會ニ關係ヲ有スレハ錯誤不注意又ハ不法行爲ヨリ生スル損失ヲ保證スルカ如キ事ハ無シ

テハ如何ニ正當ナル要求ヲ爲スモ之ヲ辨償ヲ得ルハ容易ナラサルヘシト了理由ヲ以テ彼等ハ大低直接取引ヲ拒ムコト

右ノ諸點ハ共ニ實質上直接ノ利益ヲ得ルモノトセハ容易ナル事ニ屬シテ是ハ少シモ空想セシヨリモ容易ナルヘキヲ察シ右ノ障害ニ於テ最早存セサルノ推測スル所ナリ

直接外國貿易ヲ營マント欲スル製造家及商人ハ互ニ聞結シテ該貿易ノ管理ヲ委任シ一會社ヲ創設スヘシ其支配人及役員ニハ外國貿易ノ慣習ニ通曉シ且ツ其外凡テ主要ナル取引物品ニ關シ多少ノ經驗ヲ有スル人員中ヨリ撰擇スルヲキハ實地事務ノ管理上�ノ十分ノ保證ヲ與フルノミナラス猶又日本商人ニ對メル不信用」トノ最モ肝要ナル點ヲ取除ケ從テ如何ニ正當ナル要求ヲ爲スモ到底辨償ヲ得スシテノ疑惧心ヲモ直ニ排斥スルヲ得ヘシ

館事報告及特派委員報告ノ外國貿易ニ關スル統計及重要ナル時々ノ報道ハ僅ニ有益ナリト雖モ意セサルヘカラス何トナレハ其日本ニ達スルノ時ハ既ニ舊聞ニ屬シ殊ニ市場ノ如キニ至テハ却テ之カタメ誤謬ヲ生スヘケレハナリ（未完）

義士外傳　忠侯直助傳　第一席

鈴城書　真玉　講談記
村木永郎　速記

淺野內匠頭長矩の家來萬百二十石御金奉行、岡島八十右衛門常義といふ人がございます。此人は鎬實溫厚の君子でもあり、剛すぐれ、又、お金奉行なる人ゆゑ、殿樣も渉存じと見えて彼の小倉の式紙を八十右衛門に見せて遠慮なく眞偽を尋ねせとの事に、八十右衛門も謹んで拜見をすると八十右恐れながら字上手なれども、此式紙淺賀上げ、渉無用に遊ばして渉宜しいかと存じます、其上好ぬか品品ハ外箱內箱などの實は古きを移しましたるものが、併し認ためました處、此式紙墨色が新らしう渉坐います、是れ正しく好物の作にして大金を得やうが爲めに拵く致したに相違ございませんと、假令是が實物にもせよ手金とする事は本家藩州家へも聞へ渉拵ちに相成りまする事は、此方の人間の大金を拵ちました上に、內匠頭家に目の明た者い一人もないと隱事に非疑を受まする。渉當家の渉無辱かと心得まする。是が鑑兜總て軍器を渉調進に相成りまする事なれど、千金は

あるまじとは奴である。此頃城下の古物商福屋義右衛門といふ者、是は好物でございまして此者とり合せて作りましたのが定家卿の式紙。彼の小倉の山莊でお撰みになりました定家の式紙といへば宏大なもの、是ハ後鳥羽天皇の御歌でございまして、價にして千兩といふのが通常の相場でございます。是を作りまして原樣の歌道をふ好みなさるのを裕込んで旨く商ひやうといふ目論見ければ、一人でも後し難いといふのです。御聞の者にも五名の同業者を遣らへ、外箱內箱共に何れも古物を用ゐる、之を折を見て內匠頭長矩侯へ獻じ入れますると、固よりゆ好みなさる品ゆゑ早速渉買上といふことに成りました。右に付渉金奉行の岡島八十右衛門を渉召しに相成り早速渉扶が御呼ばしたから、八十右衛門い長まつて金子千兩拵ひ出しの事に着手いたしました。なれども此の岡島といふ人い家中評判の鎬定家で、書畫、骨董、刀劍類何れも岡島に見て貰へば宜しいといふ位あいゆゑ、殿樣も渉存じと見えて彼の小倉の式紙を八十右衛門に見せて遠慮なく眞偽を尋ねせとの事に、八十右衛門も謹んで拜見をすると八十右恐れながら字上手なれども、此式紙淺賀上げ、渉無用に遊ばして渉宜しいかと存じます、其好ぬか品品ハ外箱內箱などの實は古きを移しましたるものが、併し認ためました處、此式紙墨色が新らしう渉坐います、是れ正しく好物の作にして大金を得やうが爲めに拵く致したに相違ございませんと、假令是が實物にもせよ手金とする事は本家藩州家へも聞へ渉拵ちに相成りまする事は、此方の人間の大金を拵ちました上に、內匠頭家に目の明た者い一人もないと隱事に非疑を受まする。渉當家の渉無辱かと心得まする。是が鑑兜總て軍器を渉調進に相成りまする事なれど、千金は

愚か何ほどの大金にても聊か苦しからず。顧はく八十右衛門の心中渉察し下されい、小倉の式紙渉買上の儀渉沙汰止みに相成りまされると、有難き事に存じまする」と聞て諸思の國島八十右衛門、殿樣へ對し遠慮なく申上るとい、哀れ本家へ聞へ如何ゆゑ國島の心中も分り、殊に本家へ聞へ如何ゆゑ國島の心中も分り、殊に本家へ聞へ如何ゆゑ國島の心中も渉解きになるかと見ハ、渉の事ゆゑ國島の心中も渉解きになるかと見ハ、渉の事ゆゑ國島の心中も渉解きになるかと見ハ、渉の事

全世界無比

たまのはだ

登録商標 **白袋筆用玉の肌石鹸**（鉛粉代用瓦鏡）

玉の肌の薬香馥郁四方を拂ひ匂ひ雲の代用を爲す日常に必携の高等石鹸なり玉の肌のきめを細くし色を白くし皮膚切の病に宜しき衛生唯一の石鹸なり玉の肌の純良の薬品を撰びて製したる精製したる者故海水にても能く溶解する石鹸なり

玉の肌　用御近付次第御指入し金八十五錢鉛粉代用瓦鏡

○取次所へ全國至る處の賣藥店和洋小間物及び荒物店等にて販賣せり

本舗　東京市日本橋區通塩町廿番地　**稲生商店**

鉛筆入
煙草入
煙草入
煙草入
手提鞄類
旅行用
旅行用
新形
鉛筆
鉛筆
鉛筆

●日本の物價騰貴

日本の幣制改革につきて倫敦モーニングポストに投じたるウォルター・エス・ザンドマン氏の説に曰く之を論じて且つ物價騰貴の解釋に及べり其説に據れば氏は日本の幣制改革を以て日本財政家の最も明らかなる先見にあるものとし其財政家の再び銀の本位貨幣として使用さるべき氣運に向へるを深想し從つて金の下落すべければ引續き慶價貨幣を用ふるの利便に浴せんことを謀りて其改革を斷行したるものならんと信じ且つ今迄吾國と同種の貨幣を使用せる國に於て貿易上の便利を獲得したるを忘れず同種の貨幣を採用するを以て更に歐米に於ても亦其便利を獲得せんことを謀りたるものならんと考へたるなりとか然るに松方總裁は本邦革案を議會に提出するに臨み述べたる所を據て其然らずして現時國内の物價騰貴を救禦するにあるを知り却て大に驚愕したりと云ふ而して氏は物價騰貴につき解釋を下して云ふやう日本の物價騰貴の決して其本位貨幣をして銀の下落に基くものならずして歐洲の結果なり千八百七十年に於て一弗は四二銀一圓紙幣の唯五十六仙に過ぎざりしも千八百七十七年に於て一弗は四二銀一圓紙幣の唯一圓銀貨と交換されしものが千八百八十一年に至りて一弗は三二銀一圓紙幣の唯五十六仙に交換さるゝに至り即ち物價の標準たる銀貨（一圓紙幣）は此十一年間に五十四片より二十四片九四に下落したるものにて五割四分七厘の下落なるに物價に於ては平均僅に一割四分の騰貴に止まりしにあらずや然るに千八百八十一年より千八百九十七年に至る十六年間に於ては一圓銀貨の價格は四十四片より二十五片に下落したるに物價は大に騰貴し殊に最近二年の銀價下落六分五厘に過ぎざりしに拘らず此間に於て物價四割方騰貴したり吾等銀貨の下落に伴ふ物價の騰貴と云ふを得ん而して多年其變動を感せざりしの近年感じ初めて其影響を感じ殊に多くの人民は之を解釋するも最も困難なる戰勝の結果として物價の暴騰に因しひい吾等國民に於ては常に例にあらざるの理なからんや是に於て又日本は支那と同期間に於て物價の騰貴を見たり必ずしも戰勝の結果と云ふべからずと云ふ

廣告

水晶東掛

本品ハ已ニ意匠ノ登錄ヲ得タル優美高尚ノ品ナリ

偽奮發ヲ以テ品質尚今回一層ノ大其他ニ至ル迄注意シ精ゝ御注文ノ程奉願候意ニ付何卒相クク候ニ付何卒相

登錄意匠

登錄意匠三五七

東京　松田製意

水晶東掛

雙ラズ續ゝ御高需ニ應スベ

廣告

一木櫛類一切製造卸
一元結水引類製造卸
一かもじ類製造卸

弊店儀幾年間ニ於テハ一圓銀貨ノ價格ハ四十四片より二十五片に下落に止まるに拘らず殊に最近二年の銀價下落六分五厘に過ぎざりしに拘らず此間に於て物價四割方騰貴したり吾等銀貨の下落に伴ふ物價の騰貴と云ふを得ん而して多年其變動を感せざりしの近年感じ初めて其影響を感じ殊に多くの人民は之を解釋するも最も困難なる戰勝の結果として物價の暴騰に因しひい吾等國民に於ては常に例にあらざるの理なからんや是に於て又日本は支那

東京日本橋區横山町三丁目四番地
三蔦武支店

登錄意匠

水晶東掛

本品ハ已ニ意匠ノ登錄ヲ得タル優美高尚ノ品ナリ

偽奮發ヲ以テ品質尚今回一層ノ大其他ニ至ル迄注意シ精ゝ御注文ノ程奉願候意ニ付何卒相クク候ニ付何卒相

登錄意匠三五七

東京　松田製意

水晶東掛

雙ラズ續ゝ御高需ニ應スベ

廣告

一木櫛類一切製造卸
一元結水引類製造卸
一かもじ類製造卸

弊店儀幾年間ニ於テハ一圓銀貨ノ價格ハ四十四片より二十五片に下落に止まるに拘らず殊に最近二年の銀價下落六分五厘に過ぎざりしに拘らず此間に於て物價四割方騰貴したり吾等銀貨の下落に伴ふ物價の騰貴と云ふを得ん而して多年其變動を感せざりしの近年感じ初めて其影響を感じ殊に多くの人民は之を解釋するも最も困難なる戰勝の結果として物價の暴騰に因しひい吾等國民に於ては常に例にあらざるの理なからんや是に於て又日本は支那

東京日本橋區横山町三丁目四番地
三蔦武支店

新發明專賣特許

雲井紙

是は一名を改良鹿の子と稱し、羽織、半襟、帶側、帶馬等に用ひて最も高尚優美の新發明品にして假令油染み汚れたりと雖之を清水にて洗へば元の美麗に立戻り且つ伸縮自在色等の憂なく頗る經濟的の奇品なり

織元　東京都　坂根兄弟商會
東京日本橋區橋町四丁目
電話振花四四八番

製造一手販賣元　江州川並　外村新五郎

東京發賣元　小間物問屋　善　丸見屋善兵衛

元祖

（舊生懷中）

商標　登錄　芳香打粉　のせ粉

句袋兼用洋風御打粉

三錢五厘

●總て汗性の御人用る品也

●大小人あせも止良効あり

●夏月御湯上り時用て涼し

●御客扱の御婦人用る佳品

●諸藝御勤の御人最も必要

○賣捌を望の方へ本舗又へ左の大卸賣特約店へ申込被下度候

○係裁及能書等本品に携偽たる組澤山有之由御注意を乞候

全特　大約　卸店　賣捌

東京發賣元　内外芳香判　化粧品製造所　東京市日本橋區榮町十番地（鎧番角）
大坂市東區道修町　徳田多助商店

關西代理店　藥種問屋　丸本利兵衛商店

製造本舗

○賣捌を望の方へ本舗又へ左の大卸賣特約店へ申込被下度候

○係裁及能書等本品に携偽たる組澤山有之由御注意を乞候

弊店儀幾年間ニ於テハ一圓銀貨ノ價格ハ四十四片より二十五片に下落に止まるに拘らず殊に最近二年の銀價下落六分五厘に過ぎざりしに拘らず此間に於て物價四割方騰貴したり吾等銀貨の下落に伴ふ物價の騰貴と云ふを得ん而して多年其變動を感せざりしの近年感じ初めて其影響を感じ殊に多くの人民は之を解釋するも最も困難なる戰勝の結果として物價の暴騰に因しひい吾等國民に於ては常に例にあらざるの理なからんや是に於て又日本は支那

東京日本橋區横山町三丁目四番地
三蔦武支店

反古ホゾベ

▲天保年間觸書の寫し（承前）

（天保十三年四月廿九日）

壹番組より廿壹番組迄

世話掛　名主共

町々家作の備十藏塗家等に可致旨先年より度々觸置候處年月を經忘却致候向も有之哉近來倹家造等は稀にて柿葺多く出火の節消防のため不宜候間以來普請新復等の節前々より渡候通土藏造又は塗家致候し一時にハ行届ハ間敷候間先づ表通りの分は瓦葺に致造作も專ら貴樂に致件還ハ勿論横町裏町共漏に張出し建足一切不致都て形容に不拘今般厚御趣意の趣相守末々迄も行届候樣可致

（同年五月十一日）

一町中貸屋古着買古道具屋小道具屋共仲間組合停止候旨相觸候上、追々同商賣の者出來候と雖も決而差障り申間敷候向後新規右渡世相始め候もの并に是迄渡世いたし來候者ども御紋付品并に銀具類一切買入取買申間敷候萬一無據仔細有之候ハヽ月番町奉行所へ訴出差圖を請可申候

一質屋古着屋共質に取買ひ取帳面の證主資主ども証人俱に間違無ヽ質に取買取不苦一人にて印形二ツ持參致し證主資主証人の名前ヲ聽候共に取買取候儀は致間敷候今證主資主証人一國隣越候共其品多分にて身分不相應に有之歟又は贓敷相見候分は先々を吟味品によりて其者を留置月番の町奉行所へ可訴出若し盜み物等賣に取り買取候もの有之に於ては吟味の上右品取上げ代金損失為致品に寄り咎め可申付候

一小道具屋古着屋品を寄り咎め可申付候と雖質取候もの都て有質屋に準じ質取又ハ質預候節其品帳面に留置質主証文取置常に帳面等入念紛失もの尋ね有之候節右帳面を以て吟味可致候

但し質に取候品摸樣附等迄委細留置帳の儀は紙數相改め名主共押切り付候間右之外紛失帳面拵へ申間敷候是又紛失物吟味の節名主一支配限り窂籠を遂げ其品有之に於ては早速町奉行所へ可訴出候尤名主方へ留置不申改次第差戻し渡世の障りに不成樣可致候

一買渡世不致もの出入候武家方等より無理にて金銀の替り質分賣物取渡候類ハ其品支配の名主へ相屆當紛失もの有之節吟味を請可申候

右之通ハ渡候間中名主共も其旨相心得自今紛失もの有之節一支配に限り入念吟味可致若し不熟のいたし方相聞るに於ては渡世の者い勿論名主共迄急度可申付候間此旨可相守もの也

寅　五月

（未完）

◉近世奇跡考（抄錄）山

◎大津繪考

大津繪、或ひハ追分繪といふ、いつれの時代よりかき始めしにや詳らかならず、元祿三年板一東海道繪圖に大津八谷の邊、佛繪かゝるゝあるとして近日發賣し候樣告致候處都合にて瓶形を改め

大津繪の筆のはじめハ何佛かゝれハ元祿の頃ハ佛繪をもつぱらにかきしとぞ、「本朝俗諺志」に尾州の山中に、毛切主といふものあり、俗体にて、常に農業木樵し、人死すれハ導師となりてこれを葬す、本尊の大津繪の十三佛なり云々、世に傳て、浮世又平かかきしひとしかへるも、たしかなる証なし、接する人に浮世又兵衛ハ、越前の產、本姓ハ荒木、母の姓ハ岩佐、ルキハハ面部ノあれヌ除キ又あれタルヲ治サシヅひゞノ切ル、下ハ事ナク皮膚ヲなめらやかニスル顏面ル妙品ナレバ試ミニ御用ヒノ上其功能ヲ知リ給フコトヲ祈ル而已

貴効白粉ダイヤモンド煉製定價改正廣告

描店製品の貴功白粉ダイヤモンド廣告を前號常商報へ掲製の定價を

小瓶　十二錢
中瓶　十八錢
大瓶　廿五錢

小瓶　十二錢
中瓶　二十錢
大瓶　三十錢

改正致候間此段全國得得意各店へ謹告仕候

小間水ダイヤモンド本店　平尾贊平

大磯名產　さゞれ石御菓子

發賣所　神奈川縣大磯東京銀坐丁目廿三番地　中川商店

有明堂安井孝輔

登録　無鉛毒　有明堂安井氏謹製

水晶おしろい

商標

◉水晶おしろいハ今般一大改良ヲ加へ製造方一層ノ善美ヲ盡リ而シテ此水晶おしろいハ夏氣ノ必要ノモノト云ニナク寒サノ時節ニ用ユルキハハ面部ノあれタルヲ除キ又あれタルヲ治サシヅひゞノ切ル、下ハ事ナク皮膚ヲなめらやかニスル顏面ル妙品ナレバ試ミニ御用ヒノ上其功能ヲ知リ給フコトヲ祈ル而已

水晶おしろい
特約大販賣所

東京市日本橋區馬喰町　平尾贊平
東京市日本橋區通油町　柳下藤五郎
東京市日本橋區橋通壹町目　大和屋善兵衛
東京市日本橋區橋通四丁目　松澤常吉
東京市日本橋區橋通壹町目　前川忠兵衛
東京市日本橋區橋通壹町目　玉屋八
東京市日本橋區橋通壹町目　金子兵衛
東京市日本橋區橋通壹町目　佐々木
大阪市南久寶寺町三丁目　荻原吉兵衛
大阪市南久寶寺町三丁目　久
其他全國到ル所御最寄ノ小間物店舗藥店店ニ於テ取次販賣セリ

大阪市心齋橋通八幡町　仁壽堂分店
讃州琴平町　筍井節次郎
肥國熊本町　屋
濟州濟州町　中村藤
岐阜屋町　藤
名古屋若宮町東入　
名古屋市末廣町　
名古屋市末廣町　近藤
横濱伊勢崎町二丁目　村上庄
名古屋市末廣町　村上屋
四ツ目屋長之助

諸品精々

當世新形

金銀洋白鎧
護謨櫛笄
髮飾附屬品

萬屋　東京本橋區若狹町西番地
あつまや根掛
近所袴着根田製

問屋　品目

◇村上伊太郎撰

廉價販賣

如く、大津に又平といふ人者ありしを、浮世又兵衛が事にして、かの浮瑠璃につくりへ、虚説を傳へしなられ、さはいへ、支考が「木朝文鑑」に浮世又兵衛の大津繪の元祖といふ「文鑑」の享保三年の板にて、彼の浮瑠璃より、一年前なれば、其前より云傳へし事かも知れず、とまれかくまれ「好古日錄」にしるす、又兵衛が傳を見るに、大津にて買徳をかきし事、あるべしとおぼへず、予又兵衛が正筆をおもへて、其畫風を見るに、大津繪をゝくべき風にあらず、古代の大津繪を考へるに、古土佐の風味はづかに殘れるやうにおもはる

貞享四年印本「風流旅日記」に大津追分伏見の道なり（中略）奴やゝ持のいきはひのない繪をうるが大谷云々、かゝれば貞享の頃已に奴のやり持たる繪ありしとおぼし

●相撲櫛

元祿の頃を盛りに經たる、兩國梶之助と云ム相撲取、櫛をさし始めしより、其頃前堤ある相撲取、櫛をさすことはやりて、鬼勝象之助に自粉をぬり、二枚櫛をさうしよ「相撲八全」に見ゆ、何のものへにしかせしと云ム、其ころ前つけといふ手をとる事はやりけるが、彼等それをつたなき事とし、其手をとらざる証として櫛をさしはるど

つひの世の土山櫛を相撲取　沾徳

此句「文選兼」に見ゆ、鬼勝がみまかりしをいたみし何ど云ム

●吉彌結の帶

延寶の頃、上村吉彌といふ、歌舞伎女形の婦めし、帶のむすびを吉彌むすびと、都鄙なべては、やりぬ、延寶九年印本「都風俗鑑」に、帶のむすびの、吉彌むすびとて、唐犬の耳たれたるごとく、二ッむすびの兩はしを、だらりとさがらるなり、帶屋ども思ふ、尺長さをこしらへ、吉彌結びのとれ〳〵と、直段とさへ高しと云々（これにてその結びやうも知れたり）元祿四年印本「鬼三代記」を云ム書に、鉛の賣買高う成りしに、吉彌むすびの帶のはしにいるゝゆゑとや云ゝ、かの唐犬のごとくたれたるはしに、鉛をいれしにや　（未完）

●女中庸（承前）　作者不詳

假令にも尼姑を恐み答むべからず高ぶり怨むる心發りなば是ハ天道にも寒られ人道にも背きぬ不解かこり殺身子孫を衰ふべきわざなりと思ひかへし恐れつゝしみなば家内も能く治り子孫榮へ柢本のかつらながく家名を傳へん事必然の理なり

姑に親まゝ妻は孝行を　つまゝ婦ともなかあるべし

此歌の意味をよく〳〵わきまへて尼姑に眞實に孝行を勤めべし

一婦人の幼きときは親に從ひ壯の節は夫に從ひ老ては子に從ふを三從の道と云へり三從のうちに夫に從ふ道より外にくるしきこゝなし幼きとき親に從ふ事い思の情なれば理の常なり夫ての後事をかたし能く夫に從ふ理をよく理會しらずば星霜を重ねて配偶たく夫に外を勤め婦ハ内を守るといへり先夫を主君のごとく崇ひかしづき僅み從ふべき事なり唐土に或る女婦して程なく其夫痢病をうけ容貌消し變れり女の親達おだく思ひて女を慰ぶるに女深く憂へて我夫かやうの病を煩ることも我身の不幸も定れる事なり古語に真女二夫にまみへず忠臣二君に仕へず一度むすびし緒を二たび牽びることは道なしとて却て親を勸めて還らん意さらになかりしかば父母もこの節操を感じ心を止けるとなん實に有難き心底なり當時の婦人これを能く學び及ばんまでも心にかくべき事なかし婦人の心真心の堅きこと露ばかりもなく親のおしへ伸縮の便をうけずして已れとち奇異の緒をむすび一年の半事もうつらざるに些の不實を學ん夫婦の道を離れ他夫に總て先夫に從ふの如く見捨るの類ひ此烈女の心操を感じ松柏の年を寒に凋ざるの節操を此しの學ぶべし　（未完）

兒月石鹸

賞牌　録標

月頭印

兒月石鹸は世界流行石鹸の王

陸軍御用品

發賣元　東京通り油町

關西代理店　大阪市久宝寺町壱丁目

清水開花堂

萩原吉右衛門

純造貢　人造麝香

本六六十五錢中三十五錢小三十五錢新小十錢其他一錢入一ヶ人

花は櫻品は吉野の人造麝香は佛國製造元より特約販賣人の品なれば仮令品なれば仮令品なれば仮令

餘興

▲東京名物狂歌合（六）

左　持　更科蕎麥　　秋の屋列
　　竹葉含美鳥

秋の夜のながら町のさら科に
月見とよべる蕎麥を喰はゝや

右　風月堂饅頭　　亀田庵豐眞

饅頭の名札につけし商標の
扇に月をてりまさりけり

左、更科の月、蕎麥の霧にやとりて売かなり。
扇に書かく三日の月、饅頭の折を照らして
清し、持とやゆかるもの。

左　神田川饅　　雅好
　　神田川屋

蒲燒のあとに廻して御好みの
袋の皿を出せ神田川

右　勝　岡野汁粉　　彌生庵
　　岡野汁粉

秋なれや虫の根岸の岡野では
椀の汁粉も月の白あむ

左右、神田川の水、濁らば以て袋の皿を洗ふべく、岡野の月、清らば以て汁粉の椀を手にとるべし。偏屈原といはるゝとも、判者は左利きの上戸より、猶醒めたる下戸をとらむ。

鶴見春月　　名古屋　田中惠眞

ひとりして見るはあまりに惜きかな
長閑にてらす春の夜の月

牡　丹　　〃

深み草折りてかさせは照る月の
かゝけをだもとに匂ひぬるかな

暮　春　　〃

くれてもく春秋のかたみに軒の鐘の
ふるはなみ

溝暮鐘　　〃

蛙なく聲もさびしき夕暮に
かすかに響く入相の鐘

松　風　　〃

小田原の磯の松風今もなほ
むかし床しき聲もするかな

○書生の遁辞

なこ一々　道學亭主人

◉哲學に誇る書生あり彼れ毎夜遊廓に遊び雨風の夜も亦眠ふ色なし予大いに其不品行を戒しむ彼答へて曰く

我櫻妓の色香を愛するにあらず只遊廓へ通へる故諸者の果して如何なる動作を爲すものなるか又如何なる人相性質を備ふるか哲學研究の材料となすに在るのみ

◉法律を好む書生あり彼れ嘗て相撲に出でゝ街衢の路傍に放尿し或ひは街頭に大聲放歌し又或時ハ官有の樹枝を折去る等其風紀を紊さるなる爲めに屢ゝ法律の罪人となりて罰金科料に處せらるゝこと限りなし予大いに其不心得を責む彼答へて曰く

我が此所爲は即も法律の適用を實地に試むるの了簡なるのみ

◉經濟學を嘲ける書生あり彼れ屢々酒樓に登りて酒食の爲めに費す所僅少なる予大いに其不經濟を責む彼答へて曰く

奢侈の程度を試みて經濟の盛興を完めんと欲するのみ

◉おとしばなし

柳屋けまり

○高利貸

御免なさい、昨日も一昨日も來たが、毎日お留守ばかりで實に困ります、今日は御在宅だから是非掛て貰ひたいなぞ「イヤ誠にお氣の毒樣ですが御存じの通り此毎日の雨天續きで、スッカリ家業を休んで仕舞ました、とうか天氣に成りさへすれば」の約束い、晴雨によつて何う斯うの、休んだから何の之様な約束はしません、ひんだから何の之様な約束はしません、ひんだから何の之様な約束はしません、ひん

帝國唯一人躰垢落し廣告

第一はをやわらかに色を白く
髭を出し眞のやまとなだに
そひかざる無論の垢落しなり

定價　小袋六十包入ぬり袋付　金十五錢
同廿入紙包　金五錢
販賣ご望ノ方ハ御通知次第割引法申進候

製造元　第一工場　尾崎氣樂堂
同第二工場　高木新助
發賣代理店　江川支店
關西特約店　京都市松原通高倉西エ入　海津與兵衛
同　大坂南久寶寺町三丁目　小山由藏

特約店

日本橋區馬喰町二丁目　平尾贊平
同區十軒店角　大橋博愛堂
名古屋鍛冶町三丁目　森本善七
日本橋區堺山町二丁目　田中花王堂
同區橋町四丁目　丸見屋善兵衛
京橋區銀座二丁目　佐々木玄兵衛
其他販賣店ハ東京小間物卸商組合各店又ハ賣藥店ニ賣捌仕候

東京髱形商會

髱形ヲ製造スル者販賣スル者其數少ナキニ非ズ然ルニ原料粗惡ナル製造ノ濫雜ナル其弊害舉テ數フ可ラズ況ヤ徒ニ名ヲ衒ガ如キ猾商ノ往々存ル者アルオヤ豈斯業ノ爲メニ歎セサルヲ得ンヤ當商會ノ起ル所以ナキニ非サルナリ其技師ヤ數年髱形ヲ造ニ從事セ

御注文に應じ製造可仕候　東京市淺草藏前片町一番地　東京髱形商會

ル熟心家タリ經驗ニ富ム乎技能ニ達セル乎ハ高評ヲ待タン意匠ノ高尚形容ノ優美品質佳良製造精撰等ノ文字ハ自負シテ當商會ノ專有ヲ期ス遠近ノ問ハス茲ニ販路ヲ擴張シテ眞ニ止ナル東京髱形ノ品位ヲ發揚セント欲ス希クハ大方ノ華客幸ニ愛顧ヲ給ヘ

特約大販賣所

東京市橋町山町二丁目　小間物屋　佐野善衛（岳善）

新意匠懷中高等器物入定價取消廣告

右新意匠懷中高等器物入廣告ヲ前號小間物商報ヘ定價拾貳錢ト記載仕候處都合ニヨリ今回定價取消候間此段謹告仕候也

東京日本橋區通御町　製造元　山田篤三

弊店義年來名古屋扇製造販賣罷在各地御得意樣ヘ御愛顧ヲ以而益々營業盛大ニ相進候段難有仕合社員一同奉鏡ヲ以而益々營業盛大ニ相進候段難有仕合社員一同奉鏡候扱ル一昨明治廿七八年戰爭凱旋以來御祝品トシテ需用一時ニ相增シ各地御店樣ヨリノ御注文相嵩ミ夫故昨年中ハ品拂底ニテ折角ノ御注文モ應シ兼候場合多カラス遺憾限リナク奉存候依而本年ハ昨年中ヨリ熱煉ノ職工相增新意匠ヲ盡シ時好ニ相適シ候雜品／／澤山製造有之何程多數ノ御注文ト雖迅速御間ニ合セ可申上候間何卒澤山御用向被仰付被下度偏ニ奉願上候也

東京日本橋區堺江町貳丁目　平谷合資會社

賣藥部外

豐錄　安眠請合獨乙產　のみよけ　商標　人躰ハ害ナシ

●のみよけ約定新品着に付廣告

定價

大鑑入	金廿錢
小鑑入	金拾錢
發明新器平鑑入	金五錢
平鑑入	金三錢

大日本元祖輸入元　東京市京橋區銀座二丁目　大坂屋號　松澤八右衛門　電話本局五百三十四番

●賣捌御好の御方へは割引御相談仕候年々賣切候間至急御注文願上候

沼倉商廣

イリス粉石鹸發賣廣告

粉名ハ古ヤ年ノ銀鏡ニ依リ製造セシ化粧洗料ニシテ已ニ眼米諸文明國ニ專ラ稱用セラルニ至レリ品質ノ善良ト香氣ノ佳快ナル他製品ノ及ブ所ニアラズ加フルニ藥配合ノ宜ヤヲ以テ常用トセバ最モ皮膚ノ艶麗ヲ保全シ又容器ハ經便ナルガ故ニ旅行携帶ニ尤モ適ス

意匠登錄出願中

登錄商標

製造元　安永舍
發明藥劑
配合所　東京日本橋區横山町一丁目
問　松澤化粧品部

大販賣　天野源七

東京小間物卸商各店にあり

懷別嬪印中百日香水

濃厚製大瓶　五拾錢
普通製小瓶　拾五錢

此一瓶を携帶は一百日の間腹都として身体に奇香を放つ

意匠登錄

完備十五錢の物之形六分の一圖形

此香水の容器は瓶に非ず管に非ず一種新案の硝子器にして一個の鈕を添あれば是を襟裏懷中袂等適宜の場所へ掛置時は其ヲ針鞘の微細ロイヨリハ能堂中之間美妙の奇香を發し風和に從ひ身体腹都として恰仙境に遊ム思ひあらしむ如斯未曾有の新意匠品にして高尚優美衛生經濟共に完備の珍品なれば江湖の諸嬢士一ト度御賞味あらん事を乞

發賣元　東京濱山町二丁目化粧品問屋　田中花玉堂

各石鹸製造元　澤井栖蝦

特約大販賣　天野源七

婦人小間物大勉强御何品ヲ不問御注文ニ應ズ

奥村改上上總屋商店

東京市神田區五川町拾貳番地
東京市日本橋横山町壹丁目
日本橋區馬喰町二丁目二番地

大販賣店

（御姓名いろは順）

井筒堂　石田博愛堂　高岡　大野　大木　尾德　脇田　鶴忠　柏善　岳善　大小武井玉直　莊圓堂　都築　長瀨　村藤　丸善　萬金　政木　江川　秋田屋　佐々木三善　近源　汐見　牛尾　森木　炭定　杉谷

●御賣價規一打以上一圓二十錢●十打以上一圓十五錢●三十打以上一圓十錢

一當分の內五打に付紫色布着板二枚（廣告用引札千枚）宛の割を以て無代價呈上仕候

美人粧會高評博し化粧品大王

西洋各國にて大流行の實に奇妙なる「無毒白粉」「化粧」別製ふあろい一名透明水白粉

原品直輸入元
獨乙イスキング會社

定價　大瓶一圓二十錢　中瓶十四錢　小瓶七錢
製賣　五十錢　三十錢

◎此粉塗しろいと目れば只の清水の如くなれども不思議にいろを白くする事雪の如く玉の如し行水湯あがりかゝみを用ひすれば其場ですぐに用ゐるとも決してむらにならず○あせ不○ふきもの物は立所にさるがゆゑにこれを用ひ玉はゞ人一倍の光彩を放つ

化粧品小間物齒磨問屋
東京市日本橋區横山町三丁目一番地
白光散本店
上三橋兎喜次郎製

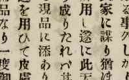
東京日本橋區横山町一　天野源七
同喰町一丁目　平尾貫平
同馬喰町四丁目　丸目屋善兵衛
同通鹽町二丁目　山田鶴三
同馬喰町二丁目　武井鶴三
同神田區淡路町　大木口哲合名會社
全國各所の小間物店及び藥店に販賣所あり

特約代理店

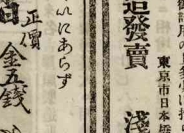
新製麝香煉あわたま石鹸

近來種々樣々の石鹸ありと雖も未だ完全の品に乏し因て弊舗ハ國家の爲め之を憂ふる事久しかりしが今回諸學士等熟れも當世に於ける斯道專門の大家に謀り猶は弊舗が多年の經驗によつて發明したる都製の秘密品を併用し遂に此天下無比滋良最佳の石鹸を製造發賣し効餘理化の作用より成りたれば其功驗の不思議なる事い一ち枚挙に遑あらず委敷くハ記して現品に添あり殊に芳香の馥郁たるハ遙かに梅檀純麝の上にあれば常に之を用ひて皮膚病の豫防となり又之を懷にして印袋を代用す實に近代の舶品なり一度御試用の上多少に拘らず續て御用命付られて下さん事を偏へに願ひ奉る

東京市日本橋區馬喰町二丁目
麝香煉石鹸類製造發賣
淺井支店



●此愛さやう香は匂入天瓜粉のたぐいにあらず



麝香元　壹百貫目
壹百貫目　壹百貫目
佐々木玄藏

各府縣下小間物店又は藥舗にて賣捌仕候御見本取次無之諸品は郵便にて御注文願上候但郵送費一個金二錢增爲替又は郵券代用にてもよろし

毎月五日十五日廿五日三回發行　壹部金壹錢五厘　一編輯兼發行人　西森武城